

原籍地 吉備郡真金村

現住所 スポークン市

目黒良平

渡米せんとする人々の目的には種々ありと雖も其大半は金儲けなり、即ち儲けたるものは成功者なり、氏は未だ金を儲けたりと云ふにあらざるも、昨今は其道程にありと云はざるを得ず、明治三十六年十一月北米ワシントン州シヤトル市に上陸して以來、勞働に心を傾け勞働を以て資力の一部を造り出さんとして、未だ嘗て捲む所なし、從て勞働の上下を問はず身に適したる勞働なれば熱心と忠實を以て勵み、傍ら貯財を得て渡米の目的を遂行せんものと意氣甚だ熾なるものなり、

原籍地 吉備郡足守町

現住所 スポークン市

宮原佐平

明治三十六年六月北米ワシントン州シヤトル市に上陸するや、先づ成功の第一歩は糊口を凌ぐの途より講せざれば、其目的に達し得らるべきにあらざるを自覺し、勞働界に入るも又耻辱とする所にあらざれば、自ら進んで勞働に従事し、三十八年一度歸國して三十九年四月再渡航し、故山の現況と北米の天地を比較見聞したる氏の頭上には、貯蓄の必要なるを印象し、資力を得ざれば歸國せざる覺悟を以て、熱心に貯財を爲し居れり、氏が渡米の目的を達するも又遠きにあらざるべし

原籍地 吉備郡足守町

現住所 スポークン市

三浦鹿之進

明治三十六年十二月、オレゴン州ポートランド市に上陸して直ちにワシントン州シヤトル市に出て、兎角資力を蓄ふることの必要に迫られ、身を挺して勞働界に入るの外、差當りて良策のなきとを看取し、東洋貿易會社の配下に屬してスポークン支部の管轄内にて、北太平洋鐵道會社の勞働に従事し、數ヶ年の間一日の如く勞力を吝まずして勤めたれば、監督者には信用も厚く、且つ一ヶ所より他に移轉せざるを以て、愈々氏の信用を博する基となれり、其獨立自營者となるも又近きにあらん

原籍地 吉備郡真金村

現住所 スポークン市

清水安治郎

明治三十六年十一月北米ワシントン州シヤトル市に上陸するや、自ら進んでモンタナ州の避險の地に入り、嚴冬耳を聳く候も、孟夏黄金を鑠さんとする季節にも、勇氣を鼓舞して勞力に従ふこと二ヶ年、三十八年に至りて華州に歸り耕地開拓事業の受負を本業とせしが、歩一步を進めて將に順路に向はんとしつゝあり、異郷の空にありて數ヶ年の歳月を経過するは、恰かも白駒の隙を過ぐるが如き感あるは怪しむるに足らず、蓋し立身の基礎を樹立せんが爲めと云ふも不可なし、緊揮一番せよ

原籍地 吉備郡池田村字椈谷

現住所 スポーケン市

平田 浦治

明治三十三年五月北米ワシントン州シヤトル市に上陸し、ケント郡にて農事を經營し居りたる同胞の農園働に従事すること四ケ年、此間に於て貯財したる金額も少なしとせず、續て同州スポーケン市に出で、北太平洋鐵道會社の勞働に従事し、三ケ年一日の如く精勤怠ることなく、前後七ケ年の歲月間に貯財せし金高は數千圓を超過し、益々奮勵して財力を造り出さんとして意氣甚だ熾なり、昨今は東洋貿易會社のスポーケン支部の管轄内にて勤務し居れるが氏も又成効者の一人ならん

原籍地 吉備郡高松村大字高松

現住所 スポーケン市

關野 六合夫

明治三十三年四月北米ワシントン州シヤトル市に上陸し、直ちに東洋貿易會社の配下に屬して大北鐵道會社の勞働に従事し、モンタナ州にて約二ケ年間滞留し、爾來華州スポーケン市に下りて同所のセクションにて約一ケ年間を貯財に利用し、然る後スポーケン所屬のシングルゲヤングにて勞働に従ひたり、シングルゲヤングは氏の創設したるものにて、他のゲヤングとは大に其趣を異にするものあり、氏は熱心に此ゲヤングの爲めに働き、且つ貯財を専一と爲しつゝあれば、其發展も又近きにあらん

吉備郡

| | | |
|-----|--------|------|
| 惣社町 | 池上都太郎 | 高松村 |
| 同 | 池上仁平 | 生石村 |
| 泰野村 | 池上助四郎 | ... |
| 岩田村 | 今川市右衛門 | ... |
| 同 | 今井市右衛門 | ... |
| ... | 板屋幾太郎 | 久代村 |
| ... | 板屋龜二郎 | ... |
| ... | 板屋倭平 | 惣社町 |
| ... | 板屋儀平 | 池田村 |
| 足守町 | 岩月芳造 | 生石村 |
| 生石村 | 岩田常太郎 | 同 |
| 大井村 | 伊丹一郎 | 同 |
| 庭瀬町 | 犬養辰五郎 | 高杉村 |
| 阿曾村 | 林誠次 | 服部村 |
| 同 | 林福太郎 | 水田村 |
| 同 | 林芳右衛門 | 新本村 |
| 同 | 林長八 | 大字日羽 |
| 足守町 | 林定吉 | 日美村 |
| 同 | 林金五郎 | 總社町 |

| |
|--------|
| 林善五郎 |
| 林銀五郎 |
| 服部勘五郎 |
| 服部徳太郎 |
| 服部仲右衛門 |
| 橋本護孝 |
| 長谷川岸藏 |
| 小倉芳造 |
| 小倉金一郎 |
| 小倉京一 |
| 小野才次郎 |
| 小野燕之助 |
| 小野健次郎 |
| 小野政太郎 |
| 小川澤之進 |
| 大住徳四郎 |
| 大隅彌吉 |
| 大月棋藏 |
| 大月芳平 |
| 大賀佐次郎 |

岩田村
淺尾村
服部村
福部村
阿曾村
阿曾村
岩田村
高松村
足守町
高松村
同
高松村
同
神者村
日美村
大井村

松重豊一郎
増田幸四郎
牧野徳太郎
前田申藏
前田榮太郎
間野猪三郎
文屋磯治
藤原照藏
小林又右衛門
赤木美千太
赤木房次郎
秋山雪造
秋山吉三郎
秋山孫十郎
秋山萬次郎
淺沼岩五郎
淺沼幸三郎
淺野多一郎
淺野文右衛門
淺野京平

淺野徳太郎
荒木金右衛門
荒木十一郎
明樂米藏
明樂龜萬吉
笹井宇吉
湯淺良助
三垣安次郎
三垣若次郎
三垣萬次郎
三垣雪藏
三垣仁吉
水舟徳三郎
水子松太郎
溝手久平
御船玉四郎
光畑奎之助
所司近三郎
所司常市
江口仲吉

池田村
阿曾村
同
庭瀬町
大井村
同
池田村
池田村
池田村
庭瀬町
阿曾村
大井村
同
淺尾村
同

平田武太郎
平田勇八
平田伊勢松
平田逸太郎
仁熊幸七
久安榮七
久安榮藏
久安龜一
本行嘉藤太
本行兵之助
本行時平治
本行信次郎
本行喜代三
森本久五郎
森安豊三郎
森義平
守安喜久次
角田政二郎
角田審之助
角田酒造右衛門

角田徳次郎
末松彦兵衛

岡山縣 御津郡

百十四

原籍地 御津郡石井村字島田

現住所 シヤトル市南第二街三百〇三番半

旅館

齋藤 鹿次郎

電話A二二四四



明治三十七年七月英領加奈陀ビクトリアに上陸して、直ちに北米ワシントン州シヤトル市に出て、更にオレゴン州ポートランド市に轉じ、同年十二月シヤトル市に歸りて、現業を營むこととなりぬ。氏の旅館は重もに白人労働者を華客とするものなれば、敢て上等と云ふにあらざるも収入の點に至りては遙に普通以上に位す。氏の知己たる同郡白石美代造と共同事業なれば、意氣投合し、志を一にして益々業務の改善を謀りつゝあり。

原籍地 御津郡今村大字平田

現住所 シヤトル市南第二街三百〇四番半

旅館

白石 美代造

電話インデA二二四四



明治三十七年三月北米ワシントン州シヤトル市に上陸するや、直ちに労働に従事すること八ヶ月にして、労働界を去り、三十九年三月現住所に於て旅館業を開始せしが、同氏の友人たる齋藤鹿次郎と共同事業にして、重もに白人を相手とする旅館なり。齋藤氏と云ひ白石と云ひ共に實直の性質なれば些少の山師的行爲なく、忠實と勤勉を以て、華客に接するが故に、業務も日に々繁昌し來り、今や進んで擴張の時期に際會しつゝあり、倍々繁榮なれ

岡山縣 御津郡

百十五

原籍地 御津郡大野村字野殿

現住所 スボーケン市

學生

板谷勝治郎

明治三十三年三月北米ワシントン州シヤトル市に上陸して以來、スクールボーイとなりて勉學に志し、其目的を變換せずして今日まで忍耐し來りたる故以のものは豈に他あらんや、氏は渡米の際に郷關を出づるに當りて、胸中に挿きし置きたる理想を現實ならしめんとして、嘗て學業を廢したることなし、左れば學術の素養も大に進歩し、進んで高等の學科を專講せんとて昨今は其準備中にあり、且つ氏は熱心なる基督教信者にして、又ス市に於ける日本禁酒會の副會長となりて盡力する所多し

原籍地 御津郡加茂村字下加茂

現住所 シヤトル市メイン街四百〇二番

理髮

石井嘉市

明治三十四年五月北米ワシントン州シヤトル市に上陸するや、直ちに本邦人の經營に係はる理髮店に雇はれ理髮に關することを習得せしこと滿四ヶ年間に及べり、此間に於て技術も進歩すれば從て貯金も出來得たる次第にして、獨立自營者と爲りても差支なく別段に不足を感ずることなきを以て、愈々三十八年四月現住所にて理髮を開業せり、孰れの理髮所も損失を招くことなきは勿論、本邦人の營業として有利なるは理髮なるべし、日ならずして繁昌を視ることを得ん

原籍地 御津郡野谷村字柏谷

現住所 ノースヤキマ

農業

萩野玉二

明治三十一年十月北米ワシントン州タコマ市に上陸しオレゴン州ポートランド市に至りて伴氏受負の鐵道勞働に従事すること二ヶ年、三十三年再びワシントン州に入りノースヤキマにて、農事を経營する目的を以て同地に行き、資力の充分ならざりし所より兩三年間辛抱して三十八年ワバトに地をトし、八十英クルを賃借して馬鈴薯の耕作を試みしに好結果を得たれば、益々進んで大農組織と爲して、一大發展を試み、同胞間の利福を増進せんことに努め居れり、倍々奮發して其目的を達せられたし

原籍地 御津郡鹿田村字東古松

現住所 シヤトル市エヌラウエー街四百十一番半

洗濯業

大森幸太

下宿

同 シカノ

長男 喜代雄

電話インデ
X一六四九

明治三十五年五月北米ワシントン州シヤトル市に上陸して以來、獨立自營者たらんとして、奮發すること一通ならず、令閨シカノ子は下宿の方を專一となし、心を一にして只管幸運の到來せんことを企圖し、自ら主人となり下男と化して拮据する所なし、故に業務も又日々繁昌し來りて歩一步と成効の途に就きつゝあり、倍々繁昌せられよ

原籍地 御津郡加茂村大字加茂

現住所 ベリング公デー街千三百十四番

通 釋 片山 確 一

電話レット
二二八二

明治三十一年北米ワシントン州シヤトルに上陸し、スクールボーイとなりて大に語學の素養を得、適れの人物とならんと、當時の同胞間に喧傳せられしが、中途にして廢學したるは氏の幸か不幸か、氏の性格は敏活にして才略に長じ、同胞間に於ける一旗頭たるに相違なし、三十七年歸國して令閨を伴ひ來り、昨今は通釋を爲し居れるも、近き將來には捲土重來の勢を以て、風雲に乗するの機あるべく、同縣出身者間にありては有數の一人なりと云ふべし

原籍地 御津郡加茂村

現住所 シヤトル市デヤボン街

片山 景 雄

明治三十七年北米ワシントン州シヤトル市に上陸して暫時勞働の真似を爲したるも、元來勞働を以て貯蓄する側の人々とは其趣きを異にするのみならず、文筆に長じて才略溢るゝか如き性質なればシヤトル市に出て、雜誌アメリカを發行し、沙市に於ける同胞間には唯一の讀物として歡迎せられ居れり雅號を風雲と號し、一雜誌の影に籠り居ると雖も、遠大の抱負は風雲に乗じて現はれん、氏は又同縣人協和會の幹事となりて公共の爲めに盡力する所多し、健在なれ

原籍地 御津郡馬屋上村字日應寺

現住所 スポーケン市

對梨本五郎

明治三十三年四月英領加奈陀晚香坡市に上陸し北米ワシントン州シヤトル市に出て、東洋貿易會社の配下に屬しスポーケン支部の管轄内にありて、大北鐵道の勞働に従事し居りしが、元來勤儉貯蓄の性質なれば自ら貯財も殖へ、己に貯財したる金額のみにても千餘弗に達し益々貯蓄を爲さんとして勤勉怠る所なし、氏の如きは勞働界に於ける成効者の一人となるべく單に己往のみを以て満足するに非らずして倍々奮勵せざれば止まざるの決心と覺悟と勇氣は氏の特長と云ふべきか

原籍地 御津郡伴島村

現住所 スポーケン市

谷 善 市

明治三十六年七月七月北米ワシントン州シヤトル市に上陸するや、直ちに同州スポーケン市に轉じ貯財の方法を講ずるには、田舎に居住して勞働に従事することを以て良策と信じ、且つ勞働を替へることの不利なるを自覺したれば、鐵道勞働に依りて貯財を爲さんと決心し、數年間一日の如く勤勉したる結果として、二千圓以上の貯財を視るに至れり、氏は單に之を以て満足せず一歩一と進みつゝ貯財を怠らす奮勵し居るが故に、今後數ヶ年以内には一角の成效を視るは豫期せらるゝ所、幸に怠る勿れ

原籍地 御津郡福濱村字福田

現住所 シャトル市南第二街

中野立太郎

明治三十六年八月北米ワシントン州シャトル市に上陸するや否や、金を貯ふるの方法は可成金を消費すること能はざる塙所に入り込むを良策とするが故に、氏は之を断行してモンタナ州に於ける山間避匿の地に入りて、鐵道勞働に従事せしが、同地の氣候は身に適せず、爲めに三十七年十二月に至りて再びシャトル市に歸りて、タコマ市に設立の製材會社に入りて、勞働に従ひ居りしが、數年の間には一成效者となるべく、獨立自營者となるの準備を整ふる手段として、目下勞働界にあり

原籍地 御津郡長田村字下土井

現住所 スポーケン市

荒木 齡一

明治三十八年五月北米ワシントン州シャトル市に上陸するや否や、直ちに勞働界に入りて、獨立自營者となる準備を爲さんと決心し、各種の勞働を調査して鐵道勞働界に入り、東洋貿易會社の配下に屬してスポーケン支部の管轄の下に大北鐵道會社の勞働に従事し、一意専心貯蓄の道を講じ、勤儉を主とし、自ら運命の開拓者たらんとして、嘗て怠りたることなく、虎穴に入らんずんば虎子を獲ること能はざるが如く、勞働を以て虎穴とせば將に虎子を獲んとする位置にあり、屈する勿れ

原籍地 御津郡宇垣村字宇垣

現住所 シャトル市南第六街六百十番

豆腐莖蕪 北山 勇吉

電話インデ
L二二二三

明治三十二年四月英領加奈陀ビクトリア州に上陸して一ケ年間同地に滞留し、三十三年五月北米ワシントン州シャトル市に出て、約四ケ年間の歲月を以て貯蓄を爲し、獨立自營者とならんとして、業務の選擇に志を傾け、只管時機を窺ひ居りしが、三十七年七月に至りて、日本人間に尤も需用の多き豆腐屋を開業したれば、一般の日本人は恰も故國にありて湯豆腐を味ふものと同等の徑庭なきを視るに至りしは、寧ろ難有き心地をせらる

原籍地 御津郡野谷村大字栢谷

現住所 シャトル市ウエストメイン街百二十四番

旅館 森 正次郎

電話X一九五五

明治三十七年四月英領加奈陀晚香坡に上陸し、直ちに北米ワシントン州シャトル市に出て、語學の研究に従事し、傍ら佛教青年會の會計を勤め、同青年會の爲めに盡力する所多し、氏は又獨立自營者たらんとして、特に白人勞働者を相手とする旅館を開業せんことを企て、三十八年十一月現住所にてポストン、ハウスと名くる家號の下に營業を開始し、頗る好評判を博し居れり、又以て氏の手腕をトすに足るべし、殊に同縣下の後進者の爲めに助力すること多大なり

岡山縣 御津郡

| | | |
|----------|-------|------|
| 加茂村 | 石居嘉一 | 宇甘西村 |
| 平津村 | 入江謙夫 | 同 |
| 同 | 入江治作 | 宇甘東村 |
| 大上村大字大要寺 | 井上金次郎 | 福濱村 |
| 同 | 板谷勝次郎 | 同 |
| 馬屋上村 | 板野恒治 | 一宮村 |
| 馬屋下村 | 今井武三 | 平津村 |
| 同 | 伊丹柳太郎 | 大野村 |
| 一宮村 | 妹崎銀次郎 | 同 |
| 長田村 | 飯田須摩治 | 長田村 |
| 伊島村 | 蜂谷敬藏 | 福山村 |
| 横井村 | 蜂谷秋太 | 福山村 |
| 同 | 蜂谷盛一 | 横井村 |
| 一宮村 | 蜂谷兼造 | 一宮村 |
| 同 | 蜂谷兼次郎 | 宇垣村 |
| 平津村 | 原傳平 | 鹿田村 |
| 同 | 原熊太郎 | 馬屋下村 |
| 一宮村 | 服部糸三郎 | 大字佐山 |
| 芳田村 | 服部壽治 | 大野村 |
| | | 白石村 |

| | | |
|--------|-------|-------|
| 林音五郎 | 鳥越長造 | 富山若次郎 |
| 二ノ宮初五郎 | 土井和三郎 | 丹原品雄 |
| 二ノ宮龜作 | 沼本万太郎 | 西山平三郎 |
| 西山松十郎 | 沼本龜八郎 | 西山甲子造 |
| 西山甲子造 | 沼田靜衛 | 丹原平三郎 |
| 富山若次郎 | 尾神幾八 | 西山甲子造 |
| 鳥越長造 | 大立永吉 | 西山甲子造 |
| 土井和三郎 | 大森幸太 | 西山甲子造 |
| 沼本万太郎 | 太田近治 | 西山甲子造 |
| 沼本龜八郎 | 太田勘太郎 | 西山甲子造 |
| 沼田靜衛 | 太田龜次郎 | 西山甲子造 |
| 尾神幾八 | 太田庄吉 | 西山甲子造 |
| 大立永吉 | | 西山甲子造 |
| 大森幸太 | | 西山甲子造 |
| 太田近治 | | 西山甲子造 |
| 太田勘太郎 | | 西山甲子造 |
| 太田龜次郎 | | 西山甲子造 |
| 太田庄吉 | | 西山甲子造 |

| | | |
|------|---|------|
| 平野村 | 同 | 馬屋上村 |
| 同 | 同 | 同 |
| 宇甘西村 | 同 | 同 |
| 同 | 同 | 同 |
| 福濱村 | 同 | 同 |
| 長田村 | 同 | 同 |
| 長田村 | 同 | 同 |
| 宇甘西村 | 同 | 同 |
| 同 | 同 | 同 |
| 同 | 同 | 同 |
| 石井村 | 同 | 同 |
| 宇垣村 | 同 | 同 |
| 横井村 | 同 | 同 |
| 伊島村 | 同 | 同 |
| 一ノ宮村 | 同 | 同 |
| 伊島村 | 同 | 同 |
| 同 | 同 | 同 |
| 宇垣村 | 同 | 同 |

岡山縣 御津郡

| | |
|---------|------|
| 小野田 八三郎 | 一ノ宮村 |
| 芬島嘉平治 | 大野村 |
| 片山豊次 | 平津村 |
| 河内安次郎 | 今村 |
| 河内安太郎 | 馬屋上村 |
| 河原田一 | 今村 |
| 河内須太郎 | 宇垣村 |
| 香山熊夫 | 白石村 |
| 香山常次郎 | 一ノ宮村 |
| 葛城勇太郎 | 白石村 |
| 葛原喜平 | 一ノ宮村 |
| 海野角左衛門 | 一ノ宮村 |
| 金光平四郎 | 同 |
| 金島若太郎 | 伊島村 |
| 春田福太郎 | 伊島村 |
| 神崎浪吉 | 芳田村 |
| 横田賢五郎 | 同 |
| 吉井留吉 | 今村 |
| 谷善一 | 平津村 |
| 高田類三郎 | 伊島村 |
| | 芳田村 |

| | |
|-------|-------|
| 高塚吉太郎 | 安井安太郎 |
| 竹原寅太郎 | 山根熊次郎 |
| 田原菊五郎 | 國末鐵平 |
| 曾原藤八郎 | 黒住辰太郎 |
| 坪井春吉 | 黒住吉十郎 |
| 虫明和平次 | 黒住辰太郎 |
| 宇垣勇吉 | 黒住辰太郎 |
| 則武信太郎 | 黒住辰太郎 |
| 則武平八 | 黒住辰太郎 |
| 野上鹿松 | 黒住辰太郎 |
| 熊代愛造 | 黒住辰太郎 |
| 熊代龜三郎 | 黒住辰太郎 |
| 草野源次郎 | 黒住辰太郎 |
| 草野菊太郎 | 黒住辰太郎 |
| 黒住岩猪 | 黒住辰太郎 |
| 黒住辰太郎 | 黒住辰太郎 |
| 國末鐵平 | 黒住辰太郎 |
| 山根熊次郎 | 黒住辰太郎 |
| 安井安太郎 | 黒住辰太郎 |

| | | | |
|------|-------|------|-------|
| 甘西村 | 藤原義照 | 伊島村 | 淺沼喜八 |
| 大野村 | 藤原末次郎 | 馬屋上村 | 齋藤熊次 |
| 宇甘西村 | 藤原栢太 | 宮村 | 齋藤熊治 |
| 宇甘東村 | 藤井銀次郎 | 橫井村 | 齋藤熊太 |
| 一ノ宮村 | 藤井久代治 | 宇垣村 | 佐々木米吉 |
| 御野村 | 藤田大太郎 | 伊島村 | 佐藤常太郎 |
| 長田村 | 福井實三郎 | 福濱村 | 佐藤廣治 |
| 宇垣村 | 小西甚太郎 | 同 | 佐藤與八郎 |
| 同 | 小西幸次 | 大野村 | 佐藤力造 |
| 平津村 | 兒子茂平治 | 同 | 木山瀧二 |
| 福濱村 | 兒新惣次郎 | 一ノ宮村 | 岸春次郎 |
| 一ノ宮村 | 小林鋪助 | 同 | 湯淺又吉 |
| 伊山村 | 江岡甚三郎 | 橫井村 | 光實常吉 |
| 宇垣村 | 江田末三 | 同 | 箕浦金吾 |
| 橫井村 | 近藤廣治 | 同 | 溝口鐵三郎 |
| 同 | 有松友吉 | 野谷村 | 重實喜代治 |
| 大野村 | 有松謙三郎 | 同 | 重實卯太郎 |
| 大野村 | 相賀勇吉 | 鹿田村 | 島村正雄 |
| 福濱村 | 青木熊太 | 野谷村 | 島村和三郎 |
| 一ノ宮村 | 淺野鹿吉 | 鹿田村 | 島村又二 |

平津村
同
野谷村
一ノ宮村

久世伊八
久世彌惠三
森壽夫
元成榮宇治

原籍地 都窪郡妹尾町

現住所 シャトル市ジャクソン街五百十二番

豆腐莖兼下宿業

田中 仲次郎

電話インデR三二〇二

明治三十六年七月北米に渡航する目的を以て先づ英領加奈加晚香坡に上陸し、北米に向はんとして將に發足せんとするに當り、思ひらく、晚香坡の方面は恰かも鮭漁の季節にして、短日月間に若干の金儲を得るの道あるに拘はらず、自ら好機を逸するの不得策なるを案出し、三ヶ月間英領に滞在して、同年十一月北米ワシントン州シャトル市に出でたり

由來獨立の氣質に富みたる同氏のことなれば唯々黙々として歳月を空費するの不利なるを自覺せざるに非らずと雖も、去りて又急轉直下の勢を以て事業に着手するも一得一失の虞あることを考慮し、市井の状況を熟慮して愈々現業を開始することに一決し、現住所にて着手したる營業は倍々繁昌を來たし、前途有望の營業となれり、氏は只に之を以て満足せず副業として下宿業を開始し、在留同胞を宿泊せしめ居れり且つ氏が知己の二三の同志に謀りて、共同的事業として農業を營むの劃策を立て、着々として其計劃を進行せしめ、將に其形を現はさんとす
今や前途の光明を認め得らるべき時期に際會せしは氏の勤勉の然らしむる所なれば、進んで光明を滅却せしむること勿れ

原籍地 都窪郡加藤村字加藤

現住所 スポーケン市

岩田 清次

都窪郡

明治三十八年十月英領加奈加晚香坡に上陸し、直ちに北米ワシントン州シャトル市に出で、貯財の方法は勞働を措いて、他に適當なる貯財のなきことを自覺し、一日怠れば一日の損害あるが故に、先づ鐵道にて働からんと決心し、沙市に於ける東洋貿易會社の配下に屬して、スポーケン支部に至り、大北鐵道會社の器械工場に入りぬ左れば普通勞働より賃金も高く、貯財の爲めには適當なりと云はざるを得ず、氏も又一定の時期に到れば獨立自營者とならんとして意氣甚だ熾なるものあり

- | | |
|-----------|--------|
| 庄村 | 犬養春十郎 |
| 加茂村 | 岩田清次 |
| 同 | 萩野治三郎 |
| 萬壽村 | 堀田雄平 |
| 福田村(字古新田) | 土師伊之助 |
| 同 | 岡健次郎 |
| 三須村 | 岡勘助 |
| 同 | 岡秀次郎 |
| 加茂村 | 岡野和助 |
| 同 | 小野熊介 |
| 山手村 | 小倉熊吉 |
| 同 | 小倉吾市 |
| 三須村 | 大村伊三郎 |
| 豊須村 | 尾郷原惣平 |
| 加茂村 | 和田武太郎 |
| 福田村 | 笠石坂次郎 |
| 三須村 | 片山猪右衛門 |
| 同 | 角田善十郎 |
| 常盤村 | 横田嘉三太 |

| | | |
|-----|--------|-----|
| 三須村 | 芳谷令左衛門 | 加茂村 |
| 福田村 | 吉田平治 | 山手村 |
| 同 | 高杉兵吉 | 同 |
| 庄村 | 高木安吉 | 菅生村 |
| 同 | 多田音若 | 庄村 |
| 同 | 多田吉 | 同 |
| 清喜村 | 難波音次郎 | 山手村 |
| 加茂村 | 難波廣太郎 | 加茂村 |
| 同 | 吉澤八重次 | 早鳥町 |
| 山手村 | 野澤照太 | 庄村 |
| 菅生村 | 黒江力太郎 | 山手村 |
| 同 | 黒瀬長四郎 | 同 |
| 豊州村 | 山本松五郎 | 三須村 |
| 福田村 | 山崎懸五郎 | |
| 加茂村 | 前田竹一 | |
| 同 | 古谷若右衛門 | |
| 萬壽村 | 古谷吉五郎 | |
| 庄村 | 古屋野彌忠 | |
| 同 | 藤井藤三郎 | |
| | 小橋嘉十郎 | |

新井熊一
 新谷和十郎
 秋山殆二
 淺尾幾治
 三宅是一
 三宅梶太郎
 三宅伊三郎
 三垣國三
 手松雪次郎
 平松音吉
 守安濱太
 守谷隆次郎
 守野忠藏

原籍地 邑久郡太伯村

現住所 シヤトル市

尾崎善藏

邑久郡

行幸村
大伯村

太田松七郎
窪田棋藏

北米シヤトルに渡航して三ヶ年、氏が平素の抱負を現實とするの機に接せず、志を得んとして未だ風雲の來たるに遭遇せず胸中更に收むる一段の春光は今尚ほ雪下にありて陽春に出でんとする若草とも云ふべきか、

一大發展の時期は數年の後にあらん、陽氣發する所何事か貫徹するに難からんや、氏は公共團體として日本人會慈惠部委員となり備作協和會の役員として盡力する所多し

原籍地 上道郡高島村字雄町

現住所 スポーケン市

今井彌三郎

明治三十六年二月英領加奈陀ビクトリヤに上陸して直ちに北米ワシントン州シヤトル市に出て、同州スポーケン市に轉じ、東洋貿易會社の配下に屬しスポーケン支部の管轄部内にありて大北鐵道會社の勞働に従事して、貯財の道を講ずることに熱中せり、勞働は只獨立自營者たらんとする一の手段に過ぎざるも、赤手にして渡米すれば、何人も又勞働より始まりて、然る後自營者たるを得べく、氏も亦其道程にありと云ふの外なし

上道郡

玉井村
同
平井村
財田村
平井村
玉井村
光政村
富山村
財田村
金田村
古都村
平鳥村

井上久太郎
日原音三郎
坪田監治
大森彌太郎
岡本新吉
若本菊松
田中兼吉
松井松次
藤田辰五郎
寺尾音吉
芦原虎次郎
森谷善奴次

原籍地 上房郡

現住所 シヤトル市ジャクソン街浸禮教會

西 定 記

明治三十八年七月北米ワシントン州シヤトル市に上陸し、一大雄圖を企てしも時運未だ利あらず、洒々たる風彩磊々たる其姿は又一異彩、一年有半の短日月に成效を得らるべきに非らざるは勿論なりと雖も、其心底に深く藏するの秘密は數年ならずして恐く現實とならん、日傭の働きは只之れ糊口の料のみ、學齋の器にあらざるも成效を期する念慮に至りては敢て人後に落ちざらん、更に礪礪一番其本領を發現せられんことを

上房郡

豊野村
下竹庄村
松山村
津川村
吉川村
同
同
豊野村

狩山徳平
新田静太
山本京治
笹田福治郎
富岡彌太郎
所司瀬平
重森繁太郎
重森重藏
鈴木濱太郎

岡山縣 兒島郡

原籍地 兒島郡郷内村字木見

現住所 シヤトル市エヌラウエー街六百二十三番

日米雜貨

山縣 説次郎

百三十二



明治三十八年八月北米ワシントン州シヤトル市に航して以來、兎角商業に従事せんことを企圖し、幾多の苦心を重ねて自立する準備を整へ、席暖るの餘暇とはなく、衡天の意氣は恰も天を磨するが如く、眞底より湧起し來る所の奮勵は將に異日の大成効を産み出すべき機運に向ひつゝありと云ふも過言にあらざるべし、而して寸餘の時間を以て語學の研鑽に心を勞することも又尋常にあらず、空拳にして社會を輸贏する秘訣は只其れ信用の一事と堅忍不拔の精神あるのみ、

兒島郡

福田村
東興除村
鴻村
西興除村

堀内 貞一
加納 力太郎
佐藤 近一
三宅 清吉

原籍地 苦田郡津山町字東新町

現住所 シヤトル市エヌラウエー街六百六十一番

半

學生

飯田 嘉太郎

勳函七五六

明治三十九年六月北米ワシントン州シヤトル市に上陸し、専ら學業研究の目的を以て渡米せしものなれば、自ら其方針も異なりて萬事學生風にして、上陸後直ちに冬期に於ける用意を爲さんとして勞働に従事すること三ヶ月、九月に至りて學校開始と共に官立學校に通學し、スクールボーイを爲し勉學に餘念なし、氏は當地に於ける青年團體の組織せる大東俱樂部員の一人となり、學術の講究に努力する所大なりと、努めて渡米の目的を貫徹せよ

岡山縣 兒島郡、苦田郡

百三十三

小田郡

佐伯村

須鎗仲次郎

笠岡町

大井榮三郎

淺口郡

畑新吉

大江村

寺岡繁次郎

玉島町

横溝守三

同

寺岡新太郎

黒庄村

田村諭

同

平教市

新庄村

決切橙松

阿曾村

林茂兵治

六條院村

淺野普一郎

同

赤木安次郎

長尾村

平井種治

同

中田穰

六條院村

爲川彰三

足守町

長門儀三郎

西江原村

三宅嘉久一

高松村

三垣光四郎

出部村

森本千代松

赤磐郡

大西多賀治

共和村

伊達恒次郎

葛城村

信山彦三郎

矢野村

高橋五郎

竹枝村

藤原代吉

野馳村

山下嘉太治

佐伯上村

淺井平治

上市村

鳥取上村

坂口平雄

阿智郡

輕部村

三浦六三郎

共和村

西高附村

三浦六三郎

共和村

大賀村

赤木儀平

阿智郡

東成羽村

宮本德太郎

阿智郡

福山村

沼本篤夫

久米郡

御車郡

服部熊太郎

眞庭郡

和氣郡

勝山町

眞庭郡

伊部村

川崎淺吉

眞庭郡

口田村

河緒節

眞庭郡

倭文東村

坪井兵次郎

眞庭郡

愛媛縣

愛媛縣内にて渡米者の多數を占めつゝあるものは西宇和郡とす、西宇和郡には二十年前舟乗りとなりて、始めて北米オレゴン州ポートランド市に上陸し、華盛頓州に入りて、十有餘年一日の如くにして、奮闘を繼續したる西井久八氏が力の大きなりしを想はずんばならず、次て山下宅治氏は華州の大學を卒業したるが如きは、西宇和郡より渡米者を出せし一因ならん、而して同郡出身者の多數は洋食店を以て業務と爲す故以のものも又同郡の先輩が洋食店に倚りて成効せしことに據るなる可し、同縣人は概して忍耐力に富み、貯財を爲すことに至りても、又熱心なるは、寧ろ同縣人の特長と云はざるを得ず、

且つ農事に関する方面に至りても、中西與吉、向井新太郎氏の如き先輩者ありて、後進者の爲に指導する所多く、日を追ふて農事を營むもの多し、

同縣人の組織に拘はる同縣人會の規則を掲げて其一斑を示すことなしぬ、

愛媛縣人會規約

第一條 本會を愛媛縣人會と稱す

第二條 本會は在米同縣人の交誼を親睦にして緩急相扶け相互の徳義を高くし智識の交換及び公共

的事業に盡瘁するを以て目的とす

第三條 本會を北米合衆國華盛頓州シアトル市に置く

但し當分の内ジャクソン街六百六十四番地山下宅治方を以て假事務所とす

第四條 本會々員は在米愛媛縣人を以て組織す

第五條 本會へ入會せんとするものは原籍及現住所を明記し入會費として金一弗五十仙を添へ申込むものとす

第六條 本會の収入は入會費及び有志者の寄贈とす

剩餘金は總て基金として銀行へ預け置くものとす

第七條 本會の經費を別つて通常及び特別の二種とす

一 通常經費は會長及び幹事の協議に由つて支出するを得

一 特別經費は役員會或は總會の決議により支出するものとす

第八條 本會の事務を整理する爲め左の役員を置く

- 一 會長 一名
- 一 副會長 一名
- 一 幹事 一名

一 評議員 十名

一 會長は本會一切の事務を整理す

一 副會長は會長の事務を補佐し會長事故ある時は其代理をなすものとす

一 幹事は會長の命に依り事務を處理し併せて會計を掌るものとす

一 評議員は役員會に列し本會に關する事項を協議するものとす

第九條 本會の役員は總會の選舉に依つて定む

一 同點者あるときは年長者を以て之れに充つ

一 役員の任期は一ヶ年とし補欠は次點者を以て之を補ふ

第十條 本會の集會を分ちて定期、臨時及役員會とす

一 定期總會は毎年十二月に開き庶務會計の報告、役員の改選及び須要事項を討議す

一 臨時總會は役員が必要と認めたる場合及び會員三分の一以上の請求により之れを開く

一 役員會は會長及び役員が必要と認めたる場合に開く

第十一條 會議の採決は會員出席總數の過半數を以て之れを定む

第十二條 本會々員にして疾病或は不時の災禍に罹りたるものあるときは事情に依り出來得る限り

之れを救助す

第十三條 本會を退會せんとするものは其理由を本會へ届出づるものとす

第十四條 會員は住所の移轉する毎に本會へ通知するものとす

第十五條 本會の体面を汚したるものは役員會の決議に依り之れを除名す

第十六條 本會規約の改正或は追加を要するときは會員の過半數を以て之れを決す

明治三十九年二月二十四日創立

愛媛縣人會

役員

| | |
|-----|---------------------------------|
| 會長 | 山下宅治 |
| 副會長 | 砂田和三郎 |
| 幹事 | 兵頭庄藏 |
| 評議員 | 山田作太郎 岡田澄藏 倉谷松治郎 井上孝三郎 |

愛媛縣

百四十

濱田重治郎
西村政右衛門
脇本利右衛門

原籍地 西宇和郡矢野崎村字勘定
現住所 シヤトル市南第四街三百六番

西洋料理

井上孝三郎



明治三十一年年十二月北米ワシントン州タコマ市に上陸して直ちにシヤトル市に出づ同時代に於ける同胞の自營者は至て其數も少なく、且つ勞働とても今日の如くならずして其種類も少なかりし時代なりき、氏は西洋料理店を營まんとする目的より斯業に關することを習得し以て貯財を爲さんと決心し、三ヶ年間拮据勉勵して三十四年現住所に西洋料理店を開業して、引續き今日に及びしと雖も、此間に於ける經營上の苦心は敢て喋々するまでもなし、同縣より出身の一人として推重せらる。

愛媛縣 西宇和郡

百四十一

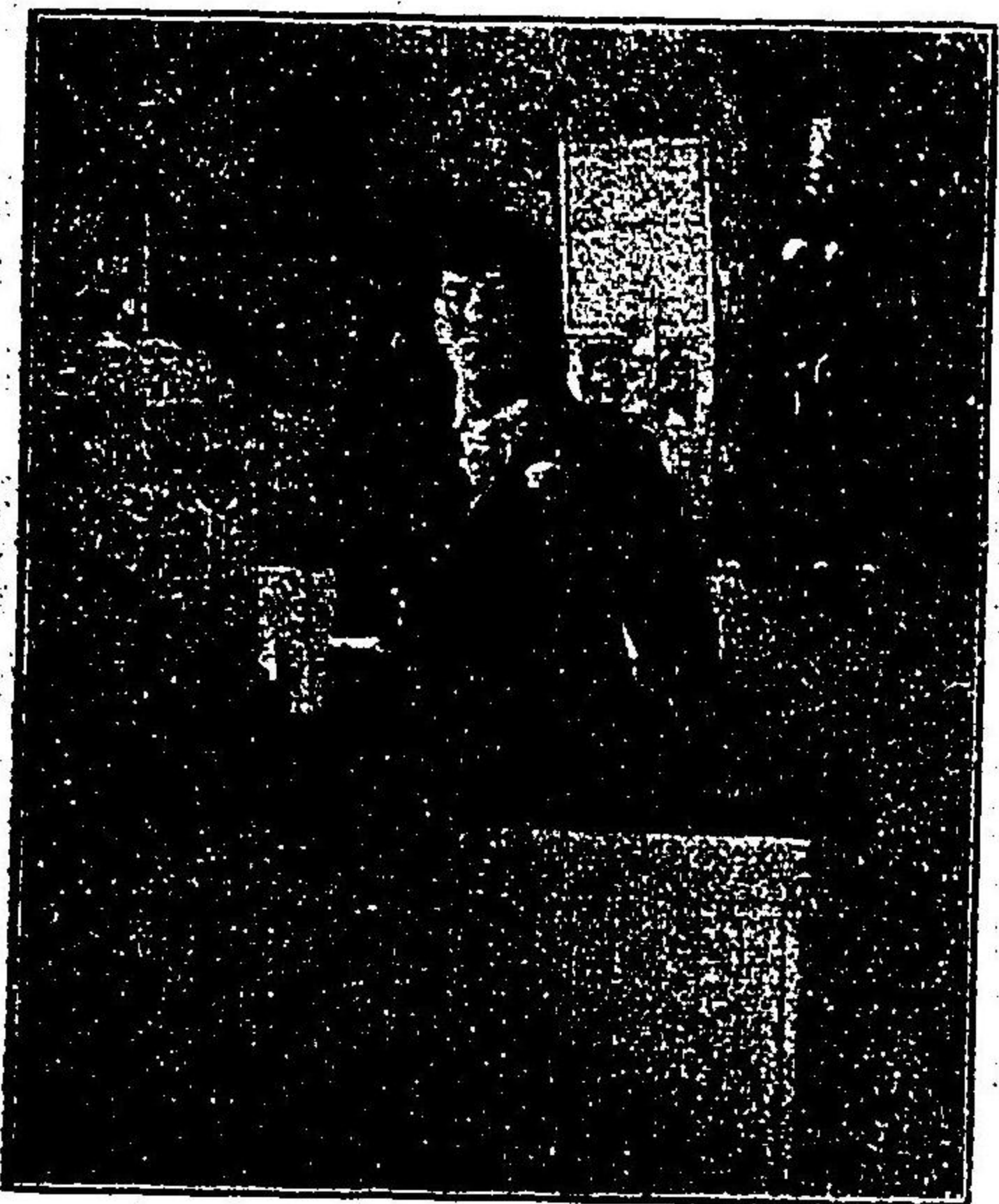
原籍地 西宇和郡矢野崎村字向

現住所 スポーケン市ステビンス街二百二十番

西洋料理

濱本宮松

電話三一六七



明治三十三年五月英領加奈陀ビクトリヤに上陸し直ちに晚香坡に至り、更に方向を一轉して北米シヤトル市に來り、獨立業を經營する用意と資力を得んが爲めに西洋料理店に勤績すること三年にして、自營者と爲りて社會に出づることを得たるは、偏に氏の勤勉と平素の心懸けに於て、深く注意し居りしは勿論、三十七年十一月現住所にて西洋料理店を開始せしに日を追ふて盛大に趣き、現今は雇人七名を使用して業務多忙を極め居れるは慶すべし。

原籍地 西宇和郡矢野崎村

現住所 シヤトル市メーン街四百二十二番半

旅館

西村喜三郎

電話インデックス二二四五



明治三十一年四月北米ワシントン州シヤトル市に上陸するや否や、勞働界に身を投じて立身の基礎を確立せんとして、七ヶ年の星霜を勞働に委ね、此間に於て貯蓄したる金額は數千弗に達したれば、愈々獨立自營者たらんものと決意するに至れり、氏は一個の勞働者となりて已に後事の憂ひなきに至りて、始めて自營者と爲りしは、尤も其時機を得たるものと云ふべく、一昨三十八年六月現住所にて旅館を開業し、倍々成效を期せんとして奮闘怠るなし。

愛媛縣 西宇和郡

原籍地 西宇和郡神山村

現住所 シヤトル市ワシントン街

西洋料理兼洗濯

西井久八

電話 インドX二〇〇七
メーソン一四〇〇二



二十年前舟乗となりてオレゴンよりシヤトルに來り、空拳にして巨万の財を造りしは一偉才なり、正實の裡に犯すこと能はざる俠氣を持するは特長にして、仁を施すことに至りては寧ろ陰徳あり、今やタコマの洗濯所と西洋料理店及シヤトルの西洋料理店の雇人のみにても七十名以上に達し居れり、齡五十餘意氣の熾なること壯者も及はず氏は外面を糊塗する紳士にあらずして天真を發揮する紳士なり、同縣下の成効者たり

原籍地 西宇和郡矢野崎村

現住所 シヤトル市ワシントン街四百二十二番

旅館

大家 經太郎
同 すみの



異郷の天地に居住すること十年、而も氏の渡米したる際は今日とは異なりて殆ど衣食に苦み、争ふて職を求めたる時代なりき、即ち明治二十八年の渡航なれば、此間に於ける世路の履歴も又奇談多し、二十八年頃に於ける同胞間は混沌として、秩序なかりしも氏は此時代よりの先輩者なり、己に貯財も得たれば現今は旅館業を營み、自身の成効を期待し居れり、氏は同縣人會員として間接に助力する所多し、幸に自重自愛せられたし

愛媛縣 西宇和郡

原籍地 西宇和郡三机村

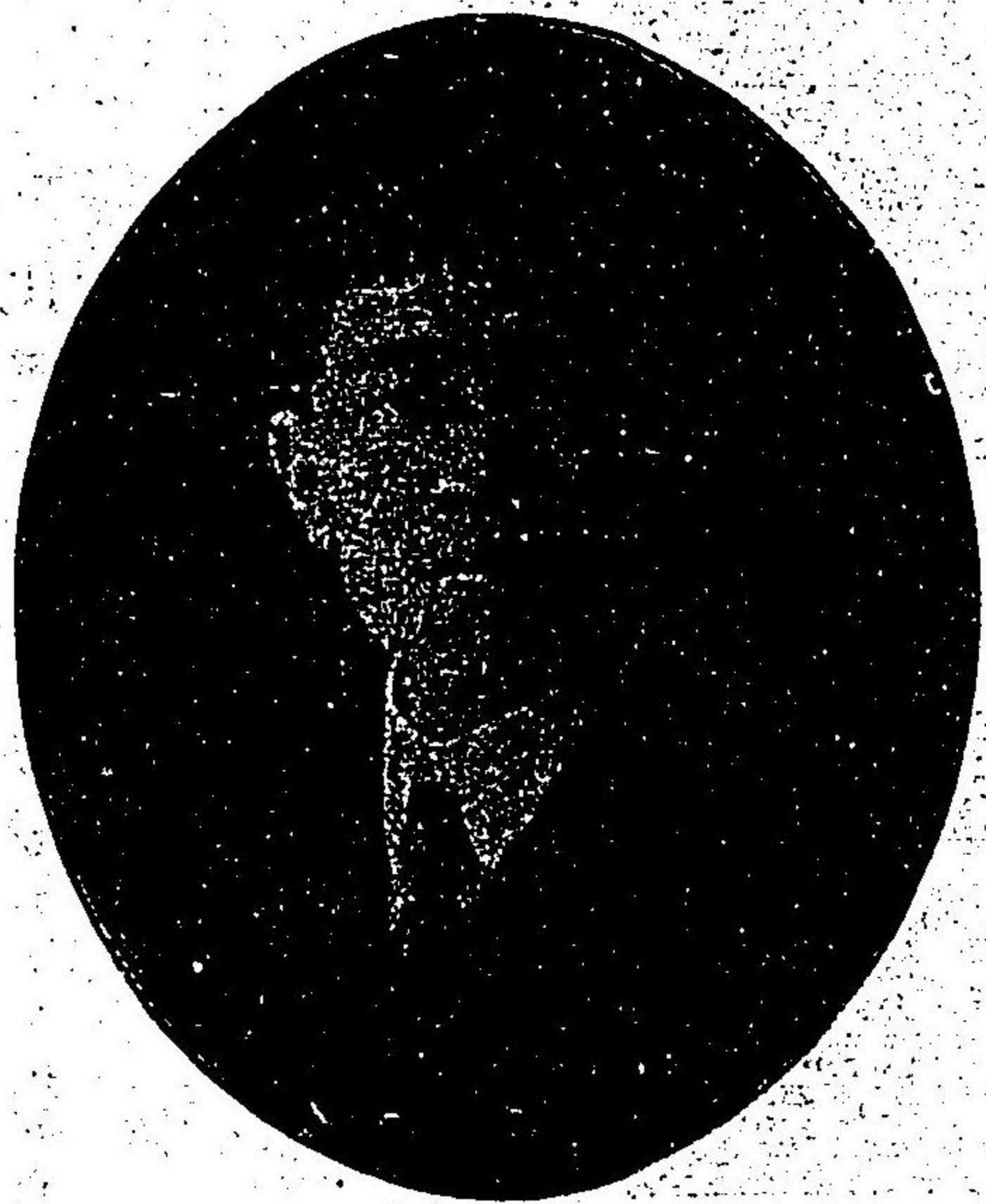
現住所 シャトル市メイン街四百十二番半

洗濯、湯屋

岡田 澄 藏

電話インデックス A 二五七三

明治三十六年一月北米ワシントン州シャトル市に上陸して、自營者たらんが爲めに資力を造ること
 に熱中し家内労働に身を投じて専心貯財に従事す
 ること二ケ年間に及べり、此間にありて自ら獨立
 業者と爲る用意を整へ、資力金として三千弗に近
 き金額を投資し、現住所にて日本湯屋及西洋洗濯
 業を開始し最新の器械を利用して業務を營ま
 せ、只管計劃を爲しつゝあり、勤儉と忠實熱心を
 以て事に處し、前途の成效を企圖せられたし



原籍地 西宇和郡川上村字川名津

現住所 シャトル市メイン街四百十六番

旅館

脇本利三郎

電話インデックス R 二二四二

明治三十五年北米ワシントン州シャトル市に渡航
 して、資力を造らんが爲めに労働を爲し、三ケ年
 間一日も休みなく勤勉したる結果として、獨立自
 營者と爲ることを得るに至れり、三ケ年間の辛抱
 は容易の如くにして、而も資力を造るには困難な
 りしにも拘はらず、一意自營者たらんと心懸け、
 萬難を排して努力せしを以て、三十八年一月に至
 りて旅館を開業し、日本館と名けて専ら同胞間の
 便宜を計り、且つ自らの發展に努め居れり



原籍地 西宇和郡矢野崎村字向灘

現住所 スポークケン市ワシントン街二百五番半

西洋料理

海部 徳松



明治三十六年五月北米ワシントン州シヤトル市に上陸するや否や、労働界にありて労働に従事すること一ケ年にして數百弗の貯財を爲し、三十七年に至りて更に労働を替へて西洋料理店に入り込みしは、抑も營業を開始するに至りたる故以にして、又同業に身を寄せたるは斯業を經營する用意なりと云ふも不可なし、三十七年より三十九年六月まで西洋料理店に奉公し、前主人より譲り受け、引續き開業を爲し居りしが、以前に引替へて益々盛大に向ひ一大開運の兆あるは偏に氏の奮勵と云はざるを得ず

原籍地 西宇和郡矢野崎村

現住所 タコマ市ファイフ

農業

中西 興吉

明治二十八年北米に渡航したる中西氏は、其世路に於て一頁の紙數を以て談話し得る所にあらず、渡航して最初は労働界に身を投せしも、元來建設的の頭腦に長したる氏のことなれば、何事を經營することも失敗を招くことは甚だ稀なりアラスカに行きて西井久八氏と共に西洋料理店を開業せんとして海上にて四十日の日數を堅氷の爲めに鎖せられ、辛くも一命を得てアラスカに同業を開きしも時期利あらずして引き返し、其後タコマ市にてユニオン洗濯所を開始し盛に營業を爲しつゝ居りしが、更に同業を西井久八氏に譲與して、自らファイフの地を選定し同所に至りて農事を開きたるは今を去ること四年前なりき

三十英クルの土地を耕作し昨年より六十英クルの土地を耕作することゝ爲し、營々として勤勉しつゝある間にも又同胞間の利益となるべきことには、全力を傾注して盡力する所多く氏が胸中に癡むる所の抱負は前途尙ほ遠しとは氏の談する所なれば、猥りに揣摩して世に紹介することを爲さざる可し、今やファイフには四十名の同胞農業家あり、之れ等の人々の間に處して一団体を組織するの計劃を立て、農談會を組織し、選ばれて幹事となり、益々貢獻する所あらとす、幸に健全なれ

愛媛縣 西宇和郡

原籍地 西宇和郡矢野崎村

現住所 シヤトル市南第二街百十四番

西洋料理

山下宅治

百五十一



華州の大學を卒業して洋食店の主人と爲り居るも一奇なる哉、渡米者の多数は概して法螺を吹く癖あるに拘はらず、氏の如きは全然反對の行動に出づるは氏が人格の美點とも云ふべきか、二十六年渡米して州立ワシントン大學の法科を卒業したる後は實業界に入りて自營者となり、傍ら法律事務所を白人と共同して、當地第貳街に設け専ら同胞間の便宜を謀り居れり、氏は愛媛縣人間には異彩を放ち、前途頗る有望の一人なり、且つ同縣人會及日本人會の爲めにも盡す所多し、

原籍地 西宇和郡川上村字川名津村
現住所 シヤトル市メーン街四百十六番半

旅館兼玉突場

松本 作之進 妻帯

電話インデク二七八〇



明治三十年七月北米華盛頓州シヤトル市に上陸せしも、當時日本人の勞働口としては甚た少なく、僅に指を鐵道に屈するに過ぎず、氏も又身を鐵道勞働に投せしが、嚴寒肌に迫るの候と雖も暖衣を得るに途なく、搦て、加へて食物の不便言はん方なかりしも、不撓不屈の精神を以て、飽くまで奮闘し、一意蓄財の基を立て、獨立營業者たらんと心懸け、三十六年始めて西洋料理店をシヤトルに開始し、三ヶ年間の後同店を賣却し、三十九年四月現住所に於て旅館及玉突場を開業して、只管一身の幸運を計り居れり

愛媛縣 西宇和郡

百五十一

愛媛縣 西宇和郡

原籍地 西宇和郡千丈村字郷

現住所 シャトル市メーン街三百五番半

理髮

菊地 忠五郎 著

百五十二



明治三十六年十二月北米ワシントン州シャトル市に上陸し、業務の撰擇に對して三四ヶ月間を費消したるも道理あり、氏は本邦に居住し居りたる頃より、理髮を業と爲し居りし緣故に依り渡米後も又斯業に従事するを目的とせしが、渡米後早々のことなれば土地の事情にも通せざるより暫く時機を窺ひ居りて斯業を營むことを得たり、即ち氏が藝術の一端は氏をして幸運に向はしむる唯一の鍵と爲り、僅に三四ヶ月間にして獨立業者と爲らしめたるは、渡米者にありては稀に視る所なり、益々幸運なれ

西井 操

原籍地 西宇和郡矢野崎村

現住所 シャトル市

西洋料理

西村 政右衛門

文明的の教育を受ける婦人にあらざるも、婦人としての美點と特長を具備し、熱涙多き間に又威々しき所あり、良人西井久八氏を助けて内外に應接し、家運をして隆盛ならしめたる經歷は幾多の婦人間に於ける一龜鑑なり、女子の力に依りて學業を了へたる學生も少からず、大局の所に至りては久八氏の力大なりと雖も、細心緻密にして傭人を傾使用する點に至りては又得難き才あり、殊に慈善事業には尤も力を盡し、愛國婦人會の委員となりて婦人間に奔走する所多し、恐く同胞婦人間の異彩と云ふも、同女子を知るものは此言の阿諛にあらざるを知了するならん、

愛媛縣 西宇和郡

明治三十二年五月北米ワシントン州シャトル市に上陸し、身を勞働界に投ずること暫時にして更に獨立業に従事し、ワシントン街にて旅館を開業せしが、三十五年歸國の止むべからざるに遭遇したれば、同業を廢業して歸國の途に就けり、續て三十六年二月に至りて準備を整へ、再渡航すること爲し、二月を以てシャトル市に渡航し、四月に至りて現業を開始するに至りしは、其準備の整ひたると同時に北米の事情に精通し居りたる結果に外ならず、忍耐と堅忍は敢て喋々するまでもなしと云ふべし

百五十三

原籍地 西字和郡矢野崎村字向灘

現住所 シヤトル市ウエストメーン街

大野興左衛

明治三十三年北米ワシントン州シヤトル市に上陸して直ちに勞働界に身を寄せ、獨立業者とならんとする志望の爲めには、如何なる辛苦も意に介せず、洋々たる前途の道程には只是れ困難に堪ゆる一事あることを自覺し、七ヶ年の星霜を以て貯財に従事したる賜物として、單に其貯財のみにても千餘弗に達し、優に自營者たるを得ると雖も、自重自戒未だ自營者たらざらば又以て氏が深慮の存する所と云はざるを得ず、然れど何時までも沈黙すべきにあらずと爲し、將に獨立者たらんとして目下其準備中にあり、

原籍地 西字和郡矢野崎村

現住所 シヤトル市ワシントン街百五番

田中幸吉

明治三十五年三月北米ワシントン州シヤトル市に上陸し、サンライズレストランに勤務すること三ヶ年、此間にありて忠實に職務に勉勵したれば主人よりも大に信用を博し居れるが、思ふ所ありて同所を辭し、更にコロンダイキレストランに入りて書記の兼勤を爲し、同店の爲めにも又熱心なることは同一轍なり、故に今日までに貯財したる金額に依りて、優に一事を起すに足ると雖も、成効は順序を踏まされば失敗に歸することを慮り、徐ろに四圍の情况进行を考慮中なれば、前途多望の一人なり、

原籍地 西字和郡喜須來村

現住所 スポークン市ステベンス街二百二十一

番

理髮

室谷龜太郎

明治三十五年五月北米ワシントン州シヤトル市に上陸し、貯財の途を講ずるには手藝を以て職業と爲すことは、尤も有利なるべしと思推し、職業を選定したる結果は理髮に身を寄することに決心し、スポークン市に到りて理髮所に入りて同職を稽古したる効空しからず、爾來は一心に奮勵せしかば、立派なる理髮業者と爲ることを得、獨立業者中に於ける職業としては、理髮は尤も有利ある職たるは何人も之れを認めざるものなし、理髮業者にして失敗したるものどて無ければ、氏も又成効者の一人と爲るに至らん、

原籍地 西字和郡川上村字川名津

現住所 タコマ市

窪田市郎兵衛

近隣の人々は鎬を削りて渡米するに至りては單り黙々視するに忍びざる所、渡米したるものは悉く歸國するとき錦を纏ふと云ふまでには至らずとも、先づ身分相當の成効したるものゝみなれば、氏も郷里に蟄居することを屑とせず、明治三十六年五月北米ワシントン州シヤトル市に渡航し、自ら成効を期する日あるを覺悟して資財を造ることに熱中し、傍ら獨立業者と爲らんが爲めに一定の職を習得するを得策と信じ、目下タコマ市の西井久八氏所有の洗濯所にありて、専ら貯財中に勵す、

原籍地 西字和郡伊方村字小中浦

現住所 シャトル市メイン街四百十六番

西洋料理

矢野喜市

明治三十三年北米ワシントン州シャトル市に上陸して直ちに労働界に身を投じて三ヶ年の日月を以て若干の金額を貯蓄し、三十六年二月家事上の都合の爲めに歸國し、同年十一月再びシャトルに渡航せり、氏が歸國中に計劃したる仕事は再渡航して一徑路を開展することとなりしは一大奮發と云はざるを得ず、歸米後アラスカに趣きて西洋料理店に勤務し、三十八年三月同所を辭してシャトルに歸來し、現業を開始し獨立自營者と爲れり、業務の繁榮は云はずとも明かなり、

原籍地 西字和郡矢野崎村

現住所 シャトル市ワシントン街百五番

松本勝城

年少にして渡米に志し、渡米後は勉學を以て立たと決心し、父母の膝下を辭して渡米したるは明治三十六年五月なりき、上陸後は語學の素養を得んとして、一時學校に入學し汲々勉學に志せしも、身体ノ健康上より一轉して實業上に就くことなれるは、氏の遺憾とする所なるべきも、温順にして勤儉の性格を帯びる質なれば、如何なる境遇にありても立身せられざる憂ひとはなし目下西井久八氏の西洋料理店にありて、専ら貯財に従事しつゝ前途の發展を爲さんが爲めに準備中なり、

原籍地 西字和郡三崎村字三崎

現住所 シャトル市ウエストメイン街

小松寅之助

渡米して身を立てんと欲し蹴然として郷關を辭したるは去る明治三十六年なりき、先づ英領加奈陀ピクトリヤに航し、更に北米ワシントン州シャトル市に轉じて、獨立自營者たらんと企圖せしが、無資力にして自營者と爲るは却て失敗の基因なることを看取し、自ら労働を執りて身を立つるの計劃に出で、目下山根孫市氏の西洋料理店にありて、斯業に關することを習得し、旁ら獨立業者と爲らんとして専心貯財に従事しつゝあれば、遠からずして自營者たるを得べし、益々奮勵せよ、

原籍地 西字和郡神山村字五反田

現住所 シャトル市ウエストメイン街

後藤藤太

明治三十五年布哇に渡航して桑港に轉じ、直ちにホテルに入込みて西洋料理を習得せしは、氏が立身の基礎となりたるもの、二ヶ年の間に於て只管斯業に關することを稽古し、自ら自營者となりて業務を營むも支障なきまでに至りしかば、桑港にて西洋料理店を開業し、漸次盛大ならんとする折、三十九年四月の震災に依りて全部を烏有と爲し、辛くも一命を得たれば同年七月シャトル市に出でて山根西洋料理店に勤務し居れり、然れども氏は一定の時期に達すれば自營者と爲らんとして目下奮勵中なり、

原籍地 西宇和郡直穴村字大島

現住所 シャトル市メイン街四百十番

菓子兼旅館

酒井善三郎

電話インデ
二六〇八

明治三十六年九月英領加奈陀晚香坡に上陸して差
當り家内労働に従事すること半歳、三十七年北米
ワシントン州シャトル市に出て、自營者とならん
が爲めには資力を蓄積すべき必要に迫り家内労働
に關する各種の働を爲し、自營者と爲りて業務を
開始する準備を整へたれば、先づ旅館を開業し、
傍ら菓子製造に着手せり、業務も日を追ふて盛
大に向ひつゝあれば、氏が成效を企圖するも又難
事にあらずらん、只勉の一事あるのみ、

原籍地 西宇和郡神山村字矢野

現住所 タコマ市

菊地兼太郎

一小天地に踞踏するよりは北米に渡航して志を立
てんと決心し、蹴然として郷里を辭したるは三十
六年の初夏にして、北米ワシントン州シャトル市
に上陸せし六月の頃なりき、上陸後は身を以て
貯財に従事し、適當の時期を得て獨立自營たらん
と内心大に奮勵を繼續せんと期し居りし折、偶々
日露干戈を交ゆ、氏は之れが爲めに歸朝し、奉公
の義務を果して又々渡米し、目下タコマ市の西井
久八氏所有の西洋洗濯業を習得中にして、其獨立
業者と爲るも又遠きにあらずと云ひ居れり、大々
的奮發せよ。

原籍地 西宇和郡磯津村字喜木津

現住所 シャトル市メイン街五百八番半

菊地安重

明治三十六年八月北米ワシントン州シャトル市に
上陸し、爾來白人の商店に入りて貯財に従事し居
れり、左れば其貯財の金額に於ても優に獨立自營
者たることを得るの資を有すると雖も、自ら進ん
で之れを決行せざる故以のものは他にあらず、何
人も各長短を有するものなれば、先づ長所と思ふ
所に向て進入するは即ち成效を得るの道なるを自
覺し、徐ろに前途の謀を廻しつゝあるもの、猥り
に成效を急がば却て事物に躓くことの虞れあり、
氏は自ら適當と信じたる場合に一旗揚げんとて奮
勵し居れり、

原籍地 西宇和郡川上村

現住所 シャトル市ワシントン街百五番

三木高太郎

明治三十六年十一月英領加奈陀ピクトリヤに上陸
して直ちに北米シャトルに轉じ、一事を起さんと
したるも、資力を得るにあらずれば何事も爲し難
く、無資力にして獨立業者たらば却て苦心多きこ
とを看取し、自ら労働を爲さんとして其傳手を求
めたるに西井久八氏の經營に係はるコロンダイキ
レストランに入り、同所の書記兼ウエターとな
りて、熱心に職務を執るのみならず、一身の基礎
を造るに足るだけの貯財を爲さば、自營者たらん
として、目下尙ほ同所に勤務中なるも、遠からず
して自營者と爲るべし、

原籍地 西宇和郡千丈村字郷

現住所 タコマ市

清水悦治

西宇和郡の地に居住して一生を送るも一生なり一小部分にありて修生を送らんか、其れ就れの時代に一身の發展を視ることを得べきとの感想は胸中より湧き出で、押へんと欲して押へ難く一身の榮達を得るの道は渡米するを以て得策なりと信じ、渡米を決行し渡航したるは明治三十六年十月なりき、渡米後タコマ市に於ける西井久八氏の洗濯所にありて西洋洗濯に關することを習得し、且つ貯財を爲し居れり、氏は眞面目の性質なれば恐く氏の將來には利益多からん、成效は只其れ氏自身の方針にあるのみ、

原籍地 西宇和郡神山村

現住所 シヤトル市メイン街百十三番

平田福一郎

續々渡米者を出す所の西宇和郡には比較的成効者多ければ、黙々として一小邑に生涯を送らんよりは、寧ろ大海に棹して成効を異日に期するに如かすと爲し、奮然立て渡米に決したるは去る明治三十六年の頃なりき、同年英領加奈陀ビクトリヤに上陸して北米ワシントン州シヤトル市に轉じ、爾來汲々として貯財に心を傾け一日の休養を得たることなく、只管立身の基礎を樹立せんものとて、貯財を爲し居れりと云ふ氏も又自營者と爲るの日は恐く遠きにあらざるべし、努めよや。

原籍地 西宇和郡神山村

現住所 シヤトル市ワシントン街百五番

兵頭 績

明治三十七年七月十八日北米ワシントン州シヤトル市に上陸するや先づ前途の方針を決定するに語學の必要を感じ、學校生活を送らんとせしも、事情の許さざる所あるを以て、労働の餘暇を利用して勉學せんと志し、西井久八氏のコロンダイキレストランドに入りて十時間の働を爲し、夜間に至りて語學研究の爲夜學校に通學しつゝあるが、其熱心なること感ずるに堪えたり、元來磊落にしてハイカラ風なく自らの意志を履行するは氏の特長と云ふべく、前途有望の一人なり、

西宇和郡

- | | |
|-----|--------|
| 三崎村 | 伊藤金作 |
| 同 | 和泉六松 |
| 同 | 和泉政吉 |
| 同 | 池田惣次郎 |
| 同 | 井上善一 |
| 同 | 井上敏治 |
| 同 | 井上力松 |
| 同 | 井上源吉 |
| 同 | 井上儀八 |
| 同 | 井上長太郎 |
| 同 | 井上三平 |
| 同 | 岩切岩太郎 |
| 同 | 磯崎千太郎 |
| 同 | 今泉幸三郎 |
| 同 | 石橋定右衛門 |
| 同 | 石川守吉 |
| 同 | 稻見源二郎 |
| 同 | 板倉新吉 |
| 同 | 出井市太郎 |
| 同 | 八幡濱新町 |

| | | |
|------|--------|------|
| 日出村 | 矢野治三郎 | 川上村 |
| ... | 矢野滋一 | 矢ノ崎村 |
| 神山村 | 矢野竹三郎 | 三崎村 |
| 同 | 矢野龜三郎 | 矢ノ崎村 |
| ... | 山本喜三郎 | 磯津村 |
| 真穴村 | 山本庄松 | 神山村 |
| 矢ノ崎村 | 山本平太郎 | 同 |
| ... | 山本藤左衛門 | 同 |
| 同 | 山内實次郎 | 同 |
| ... | 山内岩助 | 同 |
| 川上村 | 山口岩藏 | 八幡濱町 |
| ... | 松田休松 | 千丈村 |
| 三崎村 | 松田藤次郎 | 同 |
| 三島村 | 松浦喜太郎 | 神山村 |
| 向灘 | 松本勝四郎 | 伊方村 |
| 矢ノ崎村 | 古谷三左衛門 | 三崎村 |
| 同 | 藤本福次郎 | 同 |
| 磯津村 | 小松虎之助 | 真穴村 |
| 三崎村 | 後藤京一 | ... |
| 神山村 | 鴻池百治 | 八幡濱町 |

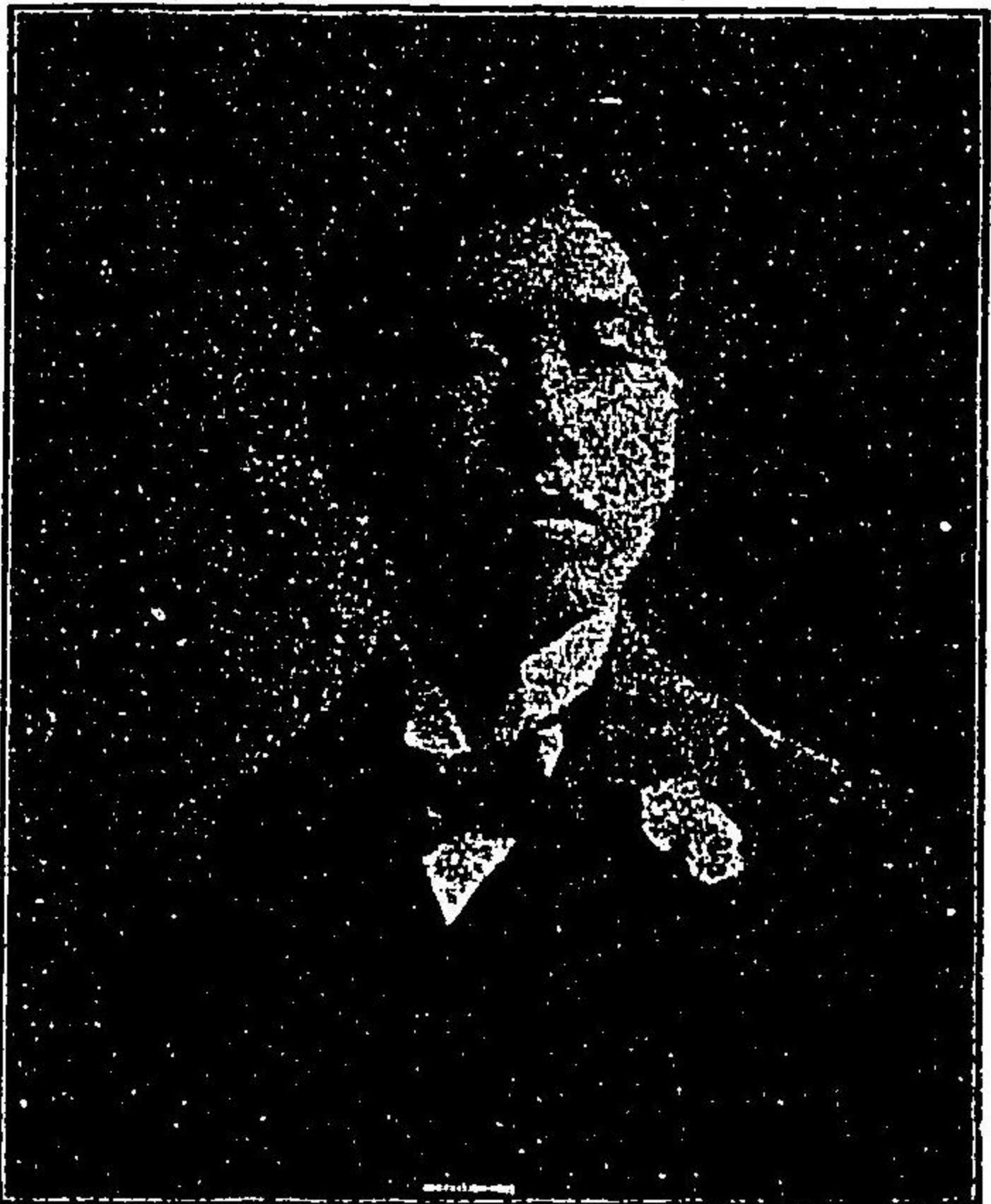
| |
|--------|
| 阿部德藏 |
| 酒井孫七 |
| 佐々木留次郎 |
| 菊池盈雄 |
| 菊池直記 |
| 菊池長吉 |
| 菊池笹太郎 |
| 菊池庄右衛門 |
| 菊池花一 |
| 菊池伊三郎 |
| 菊池敏行 |
| 菊山竹太郎 |
| 菊澤谷平 |
| 菊津徳太郎 |
| 木ノ本松治 |
| 木ノ本由松 |
| 木ノ本彌三郎 |
| 木村信太郎 |
| 木村定右衛門 |
| 清家榮一 |

| | |
|------|-------|
| 真穴村 | 三好幸一 |
| ... | 三原平四郎 |
| ... | 三原熊太郎 |
| 三机村 | 木本作兵衛 |
| 矢ノ崎村 | 水本初三郎 |
| ... | 宮部又八 |
| 千丈村 | 宮岡幸太 |
| 同 | 清水悦三郎 |
| 三崎村 | 清水笹市 |
| 日出村 | 清水庄一 |
| 川上村 | 清水淺吉 |
| 喜須來村 | 城頭正宮 |
| ... | 平井龜太郎 |
| 磯津村 | 平野高二郎 |
| ... | 日高三造 |
| ... | 森内豊治郎 |
| 八幡濱町 | 攝津民五郎 |

愛媛縣 喜多郡

原籍地 喜多郡大州町

現住所 タコマ市シ―街



米子 八十吉

明治三十二年三月北米ワシントン州シヤトル市に渡航し、八ヶ年間の星霜を以て如何なる事業に身を寄せつゝあるかは、恐く氏の將來を卜すべきものと云ふも不可なし、渡航して西井久八氏の許にて忠實を旨として勤勉せしかば、何時しが主人より大に信用を博して、遂にタコマ市に於ける西井氏所有のユニオン洗濯所の支配人となり、内外人四十餘名を監督して既に白人洗濯業を凌駕し、邦人間に於ける唯一の看板物となり居れるは、同氏の力與て多し、氏は又如才なき好箇の商人たるは、氏を知るもの感ずる所たり、

原籍地 喜多郡大州町
現住所 マプトン

西洋料理

森 住 太 郎



右方は森、左方は藤田

明治三十七年五月北米ワシントン州シヤトル市に上陸するや、直ちに田舎に入りて一事を起さんものと決心し、ノース、ヤキマに轉じて西洋料理店に身を投じ、一ヶ年間斯業に關することを習得して同州マプトンに至りて、親友熊本縣の藤田源太郎と共同して西洋料理店を開業せり氏は重もに客掛となりて客に接し、志を一にして只管前途の發展を企圖し居れり、マプトンの地は華州に於ける農産地の一として將來有望の土地なれば、此種の業務は頗る有望の業務たり、勉めよく幸福は氏の頭上に來らん、

愛媛縣 喜多郡

原籍地 喜多郡内子町字内子甲

現住所 ベリングラム

尾形保知

少壯氣鋭の輩とは、氏が現今のこととなり、其郷里に於ける時代より空拳にして一事を爲さんとするには、櫛風沐雨の辛苦を忍耐せざれば何事も容易に成就すること能はざるを感知し居ると雖も、之れを求めて却て効果少なきを看取し、一日の小康を偷安して日月を送らんよりは寧ろ大陸に航するを可とし、三十九年五月英領加奈陀晚香坡に渡航して、北米ワシントン州ベリングラムに轉じ、目下商業見習中なるが、氏は横濱商業學校卒業して渡航したるものなれば、前途の發展も又同業にあり、奮發せよ、

原籍地 喜多郡喜多村

現住所 シヤトル市

矢野恕一

何事を爲しても手藝に於ては遜色を視ざるは氏の特質なり、三十八年一度歸國して同年再渡航し、久々にて郷里を音れて舊情を温めたりしか、歸米後は社會の表面に現はれず去れど、何時たりとも獨立的事業に着手する機關を有するにも拘はらず、知友の勸むるに遭へば冷然と答へ、自ら處決する時期を待ち居るに似たり、若しも事業家とならば一成效者たるに相違なきも、自重の態度は氏をして未だ立たしむるに至らず、眞面目なるだけ一種深厚の同情を濺ぐことあるも、決して情に動く性格にあらず、

原籍地 喜多郡出海村

現住所 スポーケン市

木村與三郎

郷里に塾居して一事を起さんとするも至難の業なれば、身を勞して貯財を得るの道は渡米するを以て暋選なりと信じ、奮然として郷關を辭したるは去る明治三十六年四月の頃なりき、四月北米ワシントン州シヤトル市に上陸し、二ヶ年を経過して獨立業者となりしも、思ふ所ありて更に業務を中止し、専ら資財の蓄積に勉め居れり、近々の間に又々自營者として捲土重來の勢を以て奮闘する所あらんと聞けり、善ひ哉、氏は又公共團體員としてはスポーケン市日本人會の評議員となりて盡力する所多し、

喜多郡

大州町
大榎村
平村
………
大榎村
同
平野村
新谷村

若松壽恵一
棚橋高尙
谷村安男
曾根一
中川福彌
中野與吉
矢野竹次郎
白石猪之吉
森正實

原籍地 温泉郡三津濱町字新町

現住所 タコマ市シー街千三百五十五番

商店員

宮内芳三郎

空想に驅られて渡米せんとしたるにも非らず、一攫千金を夢想して北米に渡航したにもあらざれば、其郷里に居りたる當時に於て、海外に渡航して一事を爲さんと欲することの止み難く、之を先輩に紊し或は同僚に諮り、父母兄弟と協議して、愈々渡米に決したるは去る明治三十七年にして、同年十月北米ワシントン州シャトル市に渡航せり、

上陸後何事に従事せんかとは實際上に於ける一問題なりき、勞働して貯財を造るは必ずしも不可ならずと雖も、其れにては自身の目的を遂行するに難ければ、單に勞働を爲すも一得一失の業と思慮し、勞働に依りて前途の目的の一助となる方面の仕事に従事することを可となし、古屋商店に入りて小僧代りとなりて店員の未席を汚すこととなりぬ、本店に入りて二ヶ月にしてタコマ支店に轉じ、支店員となりて熱心と忠實を楯となし、同店の爲めに勤勉する處甚だ多し若し多日獨立業者と爲らば今日の經驗と同胞間に於ける商業上の一秘訣を習得するは敢て困難にあらず、店員として忠實なるものは恐く一個の自營者と爲るも又然り、洋々たる前途の道程には絶へず向上的思慮を持して進みたらば、成効は自ら氏の頭上に來らん。

温泉郡

………

余土村

同

中村猪太郎

關谷作二郎

關谷小千代

愛媛縣 越智郡

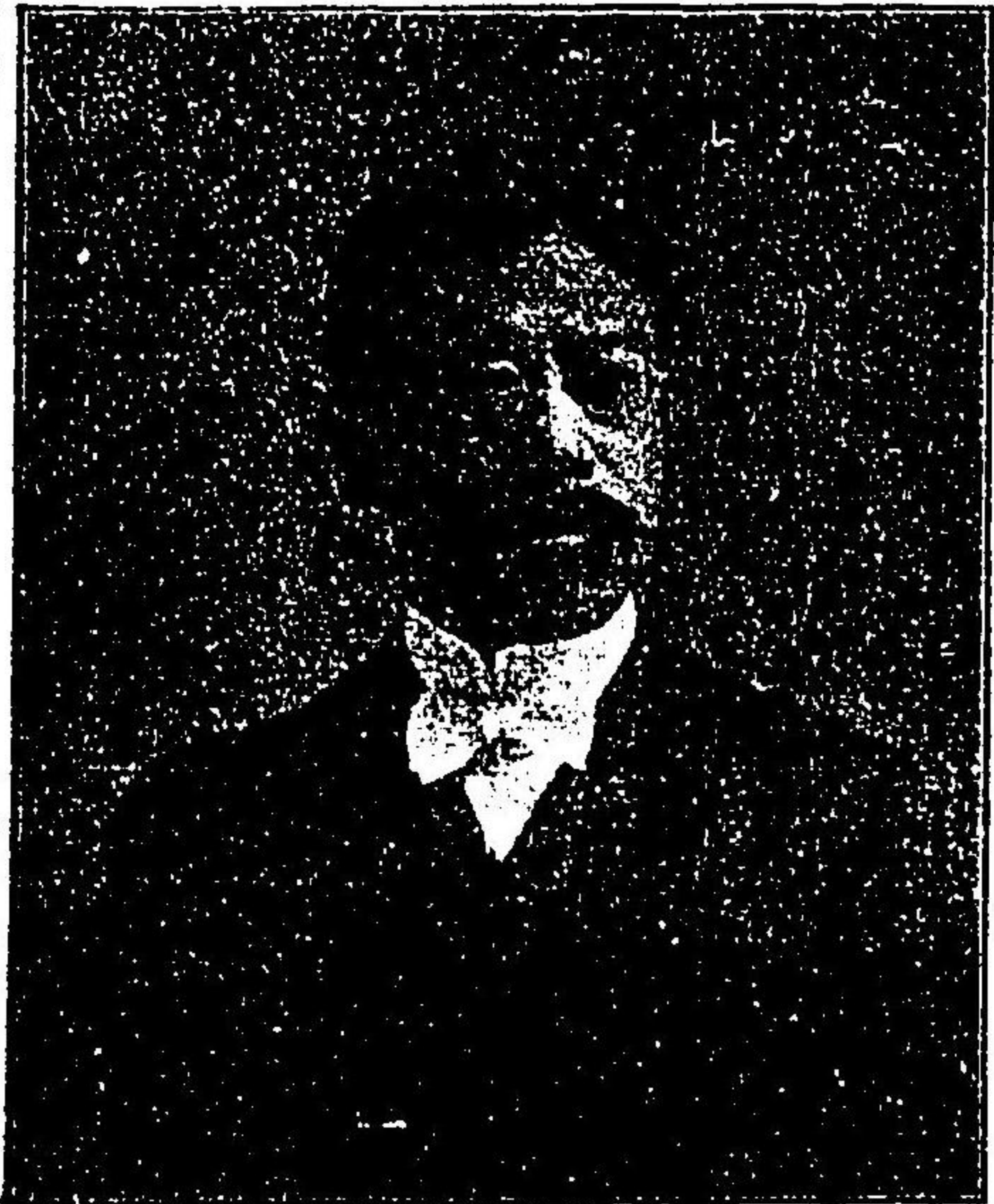
原籍地 越智郡今治町

現住所 シャトル市南第五街二百十六番

旅館

砂田和 三郎

電話インデA三一九〇



善悪共に批評せらるゝは恐く氏のことならん、去れど渡米後氏の経歴を視れば敏腕の一人たるを許さざるを得ず、三十一年十月シャトルに渡航し、労働者の周旋を開始し傍ら旅館を設けたり、三十年明治屋旅館を開き續て各地に支店を設けたるも閉止し、更に三十七年大北旅館を開き、三十九年五月現住所に移轉し、邦人間に於ける唯一の旅館となれり、且つ愛友社を設けて渡航者の便宜を謀り、同縣人會の副會長及アラスカユーコン博覽會株券に關するなど盡力する所多し。

越智郡

乃万村
生名村
弓削村
同
同
關前村
同

橋本折藏
岡本大竹
田房專吉
田房吉太郎
島田次一
平井繁之助
平井喜義

愛媛縣 越智郡

原籍地 伊豫郡岡田村

現住所 タコマ市外ファイフ

農業 向井新太郎

自ら先輩を以て自任し後進の爲めに何物か貢献せんとするは氏の美點なり、氏は今や人生行路の間に於て、尤も思慮に富み居る時代にして、輕々しく事物に處せざるは左もあるべしと思はる、英領加奈陀に渡航し、漁業の爲めにも公共の利益を謀りしとも多し、今やファイフにありて三十英クルの土地を賃借して、農事に従事し居りしが、進んで同胞間の利益を謀らんとして農談會の會長に推舉せられ、専ら同一の歩調を取ることに努め、後進の爲めに教導する所多し同縣下の先輩者として耻づる所なし。

伊豫郡

上難村

南伊豫村

松山市

南夷子町

武田又三郎
川中龜市
濱田重次郎
山田作太郎

周桑郡

田野村

宇野節治郎

海原郡

諸古村

堀田文次郎

周布郡

大頭

佐伯都之助

平井村

南没藥郡

瀧川喜市

北宇和郡

池田成器

伊藤貞明

兵頭庄藏

兵頭兼吉

鎌江泉吉

川添恒三郎

玉和木要五郎

宇都宮清一郎

倉谷松治郎

小松隆一郎

光岡佐太郎

東宇和郡

横林村

山田村

中川村

矢野勝馬

是澤元吉

城川寅治

熊本縣

華州内に居住する同縣下人にて、獨立業に従事するものは、シャトル市には少なく、ノースヤキマの附近に多し、而して婦人の渡航者も又他の縣下に比すれば其數多し、即ち布哇より轉航して北米本土に入りしは其一因なり、婦人にして身元の正しからざるものも、居住しつゝあるに相違なし、左れど之れ等を一々非難するに及ばざるべし、男子にして正業者たらざるものもあらん、之を指摘して其罪を責むるの必要なし、只已往にありて渡航せし人々の間には順柔なる性質のものよりは、寧ろ粗暴不倫者の混入し居りたることは、同縣人の遺憾とせしことなるべし、

同縣下人にして農事に従事するものは、日を追ふて増加し、此方面に於て成効者を出すも又遠きにあらざるべく、農事を經營するものは質朴なる人々に多し、

目下ハイスクールに在學する學生もありて、數年前の情況と其趣きを異にするものあるは、吾人の贊する所、近來は學生の渡航者が過半數を占めつゝあるは、數年前と異なりたる一現象なり、

同縣人の組織せる団体は熊本青年俱樂部と命名し、未だ活躍する所あらざりしが、内部の組織を擴張して其門戸を開き、大に同縣下人の一致を謀らんとしつゝあり、已往に於て活躍すること能はざりし所以のものは、種々の事情ありしこと、思推せらる、然れども之れ等を一掃して、將來に發展せんとするは、恐く青年諸氏の力ならん、吾人は活目して青年諸氏の行動を翼賛せんと欲す、

原籍地 熊本市山崎町

現住所 シャトル市メイン街五百一番

裁縫 吉本壽平

電話インデ 四〇九八

明治三十五年十月北米ワシントン州シャトル市に上陸して以來、手藝を以て身を立てんと決意し、四ヶ月の歳月をば洋服裁縫の爲めに全力を注ひて習得せしかば、伎倆大に進歩し同時に貯財を爲し、資力と勤勉と相待て自營者たることを得るに至りしより三十九年九月獨立業者と爲りて現住所に營業を開始せり、特別の勉強と業務に熱心なる所より日を追ふて盛況に向ひ、目下は五人の裁縫師を雇ひ置くに至れるは偏に氏が勤勵の然らしむる所と云はざるを得ず。

原籍地 熊本市手取本町

現住所 シャトル市南第五街大北館内

前田直

明治三十五年一月布哇ホノル、港に上陸して同所に滞在すること三ヶ年、三十八年九月桑港に轉じ、氏が多年研究し居りたる寫眞術に就て深く研究せんと欲して苦心一方ならざりき、布哇上陸後より斯術に關して研讀怠たらざりしかば其伎倆も大に進歩し、益々蘊奥を研めんものとして目下は其準備中なり、斯術に關することは一朝にして磨き得べきにあらざれば、拮据勉勵あるのみ、氏は又日本育兒院シャトル支部常置事務員となりて同院の爲めに盡すこと多し、

熊本市

寺原町

田代三藏

細工町

山西弦太郎

坪井町

益田壽七

原籍地 飽託郡本山村

現住所 シャトル市メーン街五百番

商會員兼代理業

松 見 大 八

電話 インデハ四〇二八
メーン四二四七

明治三十三年北米ワシントン州シャトル市に上陸したるは齡僅に十六歳にして、父母の膝下を辭したることなれば、當時に於ける氏が抱負も又凡庸にあらず、上陸後はスクールボーイとなりて勉學せんものと志し、嘗て手に持ちしことなき箒を手にし、家族働を爲しつゝ、小學校に通學して同校を卒へ、進んでハイスクールに入學し四ヶ年の星霜を學事のみを費したる賜物として同校をも卒業し、日本人學生間に於て一異彩を放ちたるも又偶然にあらず、此間に於ける學費は悉く自給したるものなれば其苦心も又尋常一様にあらざるは勿論、今や華州大學にて講義科に入り高等の學理を研究中なるが、其自活方法として通譯及物品依託を爲し、尙ほ沙市に於けるセンチური家具商會の代理人とも爲り居れり、

氏は沙市に於ける同胞間には前途有望の一人として内外の知己に重せられ、青年の團體たる誠友會の會長として青年間に盡す所多く、又日本人會の書記をも兼任し、金儲と勉學の爲めに忙しきのみならず、日米商報なる機關雜誌を發行するなど、仲々機敏の行動のみ多く、其將來は頗る有望の一人と云ふも過言にあらずん、

熊本縣 飽託郡

原籍地 飽託郡小島町

現住所 華州マプトン

西洋料理

藤田源太郎

百八十



右方は森 左方は藤田

明治三十六年三月英領加奈陀晚香坡に上陸して同地に滞在すること約八ヶ月間、三十七年一月北米ワシントン州シヤトル市に出で、更にノースヤキマに轉じて、西洋料理店を開業する目的を以て斯業に關することを習得し、腹心の友たる愛姫縣の森住太郎氏と共同してマプトンに到りて現業を開始し、厨房は藤田氏が専ら其任に當り華客に對する方は森氏の擔當に屬す、一致共同して始めたる仕事なれば獅子奮進の勢を以て只管業務の盛大を企圖し居れり、マプトンの地は農産地の一なれば甚だ有望の地也、

原籍地 飽託郡小島町

現住所 ノースヤキマ郡フルツベード三番

農業

右 田 寅 吉



明治三十二年五月英領加奈陀ビクトリアに上陸して四ヶ月同所に滞留し、九月北米ワシントン州シヤトル市に出で、二ヶ年の歳月をば貯財の爲めに一身を委ね、三十四年ノースヤキマに轉じて農事に従事し、馬齡薯の耕作を爲すこと四ヶ年、前途多大の希望を懐いて將に擴張の時期に到着しつゝあると同時に副業としては、西洋料理店を營業することに決し、友人三名と共に共同してヤキマ第一街に於て、ヤキマレストランと名ぐる西洋料理店を開き、各種の方面に對して奮勵怠ることなし、

熊本縣 飽託郡

百八十一

原籍地 飽託郡供合村字上南部

現住所 シヤトル市メーン街四百五番

飲食店 原田柳太郎

全 ス ナ

電話インデ
A二〇三九

明治三十六年八月北米ワシントン州シヤトル市に上陸し、約二ヶ月の日月を以て農事を営みつゝ、貯財に従事し、益々發展せんとして劃策する所ありしも、身体健康より心機一轉し、職業を變更して商業を営むことゝ爲れり、
三十八年七月現住所に於て日本人を華客とする所の飲食店を開業し屋號を『やなぎや』と命名して千客萬來に接したれば、日を追ふて繁昌に趣き、華客に應接する違なしと又盛なる哉、

原籍地 飽託郡龍田村

現住所 華州キング郡ブレンマー

農業 小山彌吉

明治三十三年北米合衆國に渡航し、氏が目的たる農事に従事して一大成效を期せんものと決心し、幾多の辛勞を嘗め、萬難を排除して其第一歩に着手することを得、土地をサウスパークに決定して、愈々農事を営みたるは今を去ること六年前なりき、爾來櫛風沐雨の裡にありて經營すること四年、三十八年に至りて同業擴張の爲め全縣人東田鶴松氏と共同して現住所に移轉し拾英クルの土地を賃借し、専ら野菜類の耕作を爲し、前途甚だ好望なりと聞けり、農事の事は容易く其効果を收め難し、只堅忍持久せよ、

原籍地 飽託郡龍田村

現住所 シヤトル市メーン街四百五番

請負業 田中加久次

電話インデ
M一八七六
三二四二

明治三十六年五月北米ワシントン州シヤトル市に渡航し、直ちに英語研究を爲さんとして、一心語學に身を寄すること二ケ年にして三十八年に至りて、獨立自營者となりつゝ其目的に進入せんものと企圖し東郷エンプロエメントと名け以て請負業を開始せり、氏の性格は機敏にして且つ希望も遠大なれば、昨今は只僅に其一部分を現したるに過ぎず、捲土重來の勢を以て發展する時期の到らんことを望む、

原籍地 飽託郡中島村字中島

現住所 シヤトル市ウエスト華盛頓街百十五番

理髮、洗濯、
西洋風呂 中山長久

電話インデ
R一九〇一

明治三十二年六月英領加奈陀晚香坡に上陸し、同九月北米ワシントン州シヤトル市に轉じて約一ケ年間を以て獨立業者たるの準備を爲し、一瞬時たりと雖も未だ嘗て無益に費消したることなく、時は即ち金なりと云ふ言葉を實際に應用したれば、僅に一ケ年にして自立者たることを得るに至れり、爾來數ケ年間一日の如く勤勉を守り、熱心を以て業務に盡したる結果として、貯財も僅少にあらずと聞けり、其聲や高からずと雖も實益や多大ならん、

原籍地 飽託郡春竹村

現住所 シヤトル市東洋貿易會社

會社員

古閑茂一郎

明治三十四年北米ワシントン州シヤトル市に上陸し、一意専心語學の素養に努めたる勇氣は豈に尋常一様にあらず、落々たる風彩洒々たる姿は氏が性格の特長にして、快談湧くが如き裡に心秘を奪ふの概あるは學び易すからざる長所なり、一度東洋貿易會社員となりて同社の爲めに其手腕を振ひし伎倆に至りては同社員の悉知する所なるべく、三十九年二月歸國して同年九月再渡米し、從來の事務を擔當し居りしが、銳氣溢るゝが如く、一度風雲の來るに遭へば、恐く地中のものにあらず、

原籍地 飽託郡小島町

現住所 ノースヤキマ街

旅館

三井三臣

明治三十六年七月英領加奈陀晚香坡に上陸して北米ワシントン州ノースヤキマに移り、約七ヶ月間の日月をば、其職業の撰擇に費し、三十七年三月、獨立自營者となりて其聲を揚げ、旅館を開業することに一決せり、渡米の日淺くして自營者たらんとする事は豈に容易の業ならんや、旅館を開業して以來業務倍々盛大なれば三十九年一月に至りて支店をフロント街に設け、日の出の勢ひなりとは氏の手腕の凡ならざるを証するに足らん、氏は又公共團體員としてはヤキマ協和會の會員となりて盡す所多し、

飽託郡

供合村 大江村字渡鹿 畫圖村 錢塘村 新村 島崎村 出水村 供合村 本庄村 全 池ノ上村 八分字村 田迎村大字田迎 畫圖村 小山戸島村

石坂悦喜 井島松次 春野壽太郎 西村和三郎 友田新吉 土橋セキ 乙丸彌七 大津芦平 蒲原度 加藤銀次郎 田尻喜八 田邊仙藏 竹下勇喜 (學生) 園田西平 辻才藏 塚本竹次郎 中島末彦 中野福藏 中村才八

熊本縣 飽託郡

全

川内村 中原村 畫圖村 芳野村 白石村 松尾村 川上村 城山村 全 御幸村 濱田村 中島村

南部新太郎 村田千代次 村上利作 上田權藏 上田惣八 上野桂太 梅田久八 松本虎松 古川金藏 茅野用八 黒川董 清田又三郎 下村伊熊 森永卯吉

熊本縣 上益城郡

原籍地 上益城郡大島村字上島

現住所 ノールスヤキマ南第一街二十四番

西洋料理

岩 永 直 人 妻帯

電話二六一六

百八十六



明治三十六年五月英領加奈陀晚香坡に上陸して一ケ年間鉄道労働者の組長となりて貯財に従事し居りしが、三十七年四月國元より令闈も渡航したれば、更に方針を更へて一事を起さんと欲して、五月北米ワシントン州ノールスヤキマに出で、グランドレストラントに勤務し、十一月、セチカーカフヘーなる西洋料理店を引受けたるが、業務擴張の爲めにロイヤルカフヘーと名くる西洋料理店を開業せしに、業務甚だ盛況を來たし居りしが、他に又下宿業を開業し共に好況也、

原籍地 上益城郡高木村

現住所 華州へカ村

二等汽鐘方

池 田 直 記



明治三十四年十月神戸港より乗船して北米シヤトル市に上陸せしと雖も、語學の素養と資力のなき點より、身を勞働界に投じて資力を造るの覺悟を定め、オレゴン州にて鐵道勞働に従事すること約五ヶ月にして再びシヤトルに歸りて、勞働に従事し居りしが、偶々屋根板製造所にて日本人を使用することを聞き込み、同所に至りて汽鐘方の部に使用せられ、當初一日三圓七十錢を給與され居りたるも、一年の後には一日四圓に進み、目下は百五十圓の月給と爲り居れりと氏の如きは成効者の一人と爲らん、

熊本縣 上益城郡

百八十七

熊本縣 上益城郡

原籍地 上益城郡白旗村字吉田

現住所 ノールスヤキマ

西洋風呂、煙草

吉本仙藏

百八十八



明治三十三年五月英領加奈陀晚香坡に上陸して同年十一月北米ワシントン州シヤトル市に轉じ三十四年五月同州ヤキマに出でたるは、蓋し深慮の存したる所にして、四圍の情勢に鑑み、只管獨立自營者たらんと決心し、約四ヶ年間に勞働界に投じられたれば、一個獨立業者と爲りて世に立つことを得るに至り、三十七年八月ヤキマ、フロント街二十一番地に於て現營業を開始し、引續き業務の盛大を來たし、ヤキマの發達と共に益々盛大に向ふのみなれば氏の奮發も又尋常にあらず、

原籍地 上益城郡大川村字餘

現住所 シヤトル市ウエラー街六百十七番

旅館

佐々木弘正

郵函二一五



渡米後十ヶ年にして獨立自營者たるを得ざるものもあれば、僅に一ヶ年内外にして其希望の第一歩に進入するものあり、氏の如きは即ち後者に屬する一人にして、渡米後日尙ほ淺しと云ふも決して不可なきなり、三十八年二月北米ワシントン州シヤトル市に上陸して同州エレンスバルクにありてホテルに雇はれ、一ヶ年間の後シヤトルに歸りて、自ら獨立の聲を揚げてホテルを開業し、ウエラーホテルと命名して熱心に營業に従事し居れり、願くば成效を期せよ、

熊本縣 上益城郡

百八十九

原籍地 上益城郡飯野村

現住所 シヤトル市エスラウエー街四百十一番

寫真

水野貞雄

電話インデ三九六九



明治二十四年北米ワシントン州シヤトル市に上陸して直ちに加州桑港に到り、三ヶ年の歳月をば貯財に従事し數百弗の金を得て、氏が希望たる繪畫學校に入學し、三ヶ年の修學を爲して更に蘊奥を究めんとせしが、兎角學資を遣らざれば其望みを達し難きことを自覺し、氏が研究し置きたる寫眞業を開業せんとして、再びシヤトル市に歸り、目下現住所に在りて、専ら斯業に従事し居れりと雖も、平生の志望を達する一手段に外ならず、只其れ一大奮發あるのみ、

原籍地 上益城郡大島村

現住所 ノールスヤキマ

岩永寅彦

明治三十五年十一月布哇マウイ島に於ける砂糖耕作地にありて、勞働に従事すること三ヶ年、三十八年五月更に北米に入らんとして令兄直人氏の許に書を寄せ、同月直ちにシヤトル市に轉航し、華州ノールスヤキマに於ける令兄を訪ひて直ちに令兄の許にありて西洋料理に關することを習得し、傍ら令兄の力ともなり又自らも自立者たらんとして、専ら貯財を爲し居りて已に數百弗の資を蓄へ、將に獨立者と爲りて社會に立つも近き内にあらん、益々前途の發展を怠る勿れ、

原籍地 上益城郡大島村

西洋料理

太田音彦

同 鹿本郡田底村

同

酒井正義

同 同 千田村

同

隈部虎雄

現住所 華州ノールスヤキマ

太田氏は三十三年渡航し、酒井、隈部の兩氏は三十六年渡米したるものにて、三人は其郷里にありしときより親しき友人の間柄なりき、左れば渡米相會して各自發展の逕路を辿るよりは寧ろ共同事業を執らんとして協議一決せり、げに三人群れば文珠の智慧とか、直ちに現業を開くこととなり、前持主たる岩永氏より譲り受けバンス、レストランドと名も其儘にして開業し三人共火の車になりて勤勉しつゝあり、互に満足なる成效を企圖すべし、

原籍地 上益城郡白旗村宇糸田

現住所 スポーケン市ステブストン街二百一十一番

十一番

理髮兼湯屋

都 甲 流 次

明治二十五年六月カリホルニヤ州桑港に上陸し、十六年間の歳月を異郷の天地にて経過せしことなれば、此間に於ける行路も又一様ならず、浮世の波動に掉して順境に進みたる時代もあれば、一陣の狂風に遭ふて扁舟の大海に漂ひし時代もありたらん、一盛一衰は只其れ人事の常のみ、氏は重もに桑港とシヤトル間にありて生活し來りしと雖も、今やス市に於て理髮、西洋風呂及日本風呂を開業して着實と忠實を以て業務を營み居れり、

原籍地 上益城郡高木村

現住所 シヤトル市メーン街五百四番

飲食店

黒川 武平

明治二十六年北米カリホルニヤ州桑港に上陸せし中の一人にして、十六年間の日月を経過する間には順逆共に嘗め、桑港より轉じてロスアンチルス方面に至りて、貯財に従事し、種々なる事業に着せしも、不幸にして其志望を満足せしむるに足らざれば、更に歩を轉じてワシントン州に至り、一事を起さんとして苦心一方ならざりき、左れど獨立自營者たらんとする意志の強固なるより、知己と共同して飲食店を開業し營業益々繁榮に向ひつゝあり、七轉八起とは恐らく氏が己往の生活ならん、

原籍地 上益城郡西砥用村

現住所 ノースヤキマ

ソーダ水製造

道家八十次

明治二十六年四月英領加奈陀晚香坡に上陸して勞働界にて貯財に従事したること七ケ年に及んで、北米ワシントン州シヤトル市に轉じ、ヤキマに至りて一事を起すか又は被雇者と爲るか二者其一を撰ばんとして同地に至りしに、偶々ソーダ水製造所なる、ミチスプレング會社にて雇人を要することを聞き込み、約整ひて同所に入り五ケ年間の歳月を以てソーダ水の製造法に費したれば、氏の伎倆は著しく發達して遂に白人技師を凌駕し、同會社にありて製造方を擔當し居れり、氏の如きは此業にて成効すること疑なし、

上益城郡

- | | |
|------|-------|
| 七瀧村 | 岩田増太郎 |
| 下矢部村 | 岩永吉次 |
| 甲佐町 | 池上市松 |
| 白旗村 | 井芹又七 |
| 六嘉村 | 蜂屋佐太郎 |
| 甲佐町 | 鳥井萬平 |
| 中山村 | 富永常八 |
| 七島村 | 緒方新藏 |
| 白緒村 | 緒方平四郎 |
| 瀧尾村 | 緒方萬藏 |
| 渡尾村 | 小畑豊作 |
| 六嘉村 | 大館末熊 |
| 乙女村 | 大島七藏 |
| 同 | 大塚才平 |
| 白旗村 | 加藤嘉七郎 |
| 同 | 上村藤太郎 |
| 日泉村 | 高木巳之助 |
| 六嘉村 | 高見作太郎 |
| 乙女村 | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|------|----|-----|-----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 瀧瀬村 | 高木村 | 乙女村 | ... | 下矢野村 | 窪町 | 大島村 | 飯野村 | 同 | 同 | 乙女村 | 七瀧村 | 乙女村 | 渡尾村 | 積村 | 同 | 同 | 龍野村 | 同 | 同 |
| 古川 | 福永 | 福輪 | 藤本 | 藤川 | 藏川 | 藤田 | 松田 | 松下 | 柳井 | 久佐賀 | 野林 | 梅本 | 那須 | 田上 | 田代 | 田上 | 田上 | 田上 | 田上 |
| 金藏 | 數馬 | 生松 | 勝七 | 兼吉 | 兼彦 | 政雄 | 力藏 | 萬吉 | 季吉 | 儀太郎 | 梅太郎 | 熊太郎 | 藤八 | 仙次 | 源平 | 彦太郎 | 仁熊 | 末太郎 | 榮太郎 |
| | | | | | | | | | | 秋津村 | 同 | 乙女村 | 水越村 | 秋津村 | 六嘉村 | 同 | 宮内村 | ... | 廣安村 |

荒收郎次
赤松徳松
佐川孫八
坂野徳太郎
坂崎清
三藤又八
酒井淺吉
猿渡亭次
木村虎次
木村傳八
島田歌吉

原籍地 下益城郡東砥用村畝野
現住所 ノースヤキマ、ヤキマ街

西洋料理

増 永直 記 妻帯

電話三一—一三



明治三十七年十一月華州ヤキマに西洋料理店を開業せしと雖も、同氏はカリホルニヤ州桑港にありて、種々なる労働に従事したるのみならず、一盛一衰波瀾の間を輪廻したる才人にして、其志や小なりと云ふ可からずヤキマに於て西洋料理の一品主たりと雖も、時運に際會せば氏の手腕を振ふに足るものあらん、左れど現今は貯財を爲し、後日の發展に資せんとしつゝあり、氏はヤキマ日本人協和會の副會長となりて同胞間に盡す多しと云へり、

原籍地 下益城郡中山村字萱野

現住所 シヤトル市メーン街五百四番

飲食店 富永豊吉

明治三十六年布哇に渡航し同年十一月カリフォルニア州桑港に上陸して、直ちにワシントン州シヤトル市に轉じ、獨立自營者たらんとして鐵道勞働に従事すること二ケ年なりしが、氏の一心は獨立者たるを得んとする目的なれば、勉めて貯財主義を執り、數百弗の金圓を得たれば氏の友人黒川氏と共に共同事業にて現住所に飲食店を開業せり、開業以來、華客も多く中々繁榮を極め居れり、倍々勤勉して華客を得ることに勉めたらんには其繁昌と幸運は期せずして到らんか、

原籍地 下益城郡西砥用村字土喰

現住所 華州ノースヤキマ

松永長吉

明治三十年七月北米ワシントン州シヤトル市に上陸するや、當時西洋料理店主たる築野氏の所に於て、約五ケ年間勤続したれば斯業に關すること就ては其營業の仕方をも習得し、且つ此間にありて貯財したる金額を基として獨立自營者たらんと思ひ、三十六年同州ノースヤキマに移りて、西洋料理店を開業し、氏が習得したる伎倆と經驗に依りて、營業上のことも殊の外繁昌を來たし、着々業務の擴張を企圖し居りたる際、不幸にして火災に罹りて燒失せしは、甚だ遺憾なるが、一二年の後には恐く恢復せん、

原籍地 下益城郡豊野村字上郷

現住所 ベリングハム

坂田龜彦

明治三十三年四月英領加奈陀ビクトリヤに上陸して、北米ワシントン州ベリングハムに移り、加州の状況を調査せんとして同方面に向ひ、農事を経營すること二ケ年に及しと雖も、同方面に於て發展の基礎を形造するよりは、寧ろ西北部地方に轉ずるの利益なることを看破し、斷然從來の業務を中止して、再び華州に來りてベリングハムにて、獨立自營を爲さんとして、目下其用意中なるが、已に準備も整ひ居りしならん、成効者の冠を頂ふことを得るや否やは、偏に氏自身の勉不勉にあり、

原籍地 下益城郡西砥用村字清水

現住所 ノースヤキマ

西洋料理 篠原万次郎

明治二十四年四月北米合衆國カリフォルニア州桑港に上陸し、爾來自營者たらんとして資方を得ることに努め、一時は長澤鼎氏の葡萄園にて勞働に従事し、渡米後同氏の經歷は坦々たる平野にあらずして山又山重疊突兀、溪谷の水清く末流に掉せば濁流となるが如く波瀾多きこと氏の如きはあらざるべし、此間に於て歸省したること二回、三十九年渡米して前記の營業を爲し、進んで奮闘の生涯を送らんとしつゝあり、氏はヤキマ方面に於ける古參の一人ならん、

下益城郡

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|----------|-----|------|------|-------|------|------|------|------|------|------|------|-----|
| 河江村 | 西砥用村 | 中山村 | 杉上村 | 東砥用村 | 菅尾村 | 同 | 豊田村大字東阿高 | 隈庄村 | 東砥用村 | 同 | 豊田村 | ... | 渡尾村 | 中山村 | 西砥用村 | 同 | | | |
| 生田勝吉 | 五瀬徳平 | 富永常八 | 千場熊彦 | 大村一郎 | 太田松藏 | 渡邊武市 | 渡邊壽作 | 鏡卯一 | 加藤壽松 | 狩野徳平 | 吉田子一郎 | 吉田平喜 | 吉住亥作 | 田畑八郎 | 田中平八 | 田中立藏 | 田上龜藏 | 津田辰治 | |
| 中山村 | ... | 豊田村 | 同 | 同 | 菅尾村 | 砥用村 | 坂合村 | ... | ... | 菅尾村 | 西砥用村 | 同 | 豊田村 | 西砥用村 | 同 | 同 | 東砥用村 | 同 | 杉合村 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|-------|-------|------|------|-------|------|------|------|-------|------|------|------|------|------|------|-------|------|
| 永井貞藏 | 中村吉平 | 村中桂吾 | 村中萬五郎 | 村中百太郎 | 村上大平 | 村上秀二 | 内野大四郎 | 内野鐵次 | 桑田半作 | 山野久八 | 山田常太郎 | 安田平藏 | 松本勝彦 | 松永吉藏 | 松永長吉 | 間部善藏 | 増永熊喜 | 増永マツメ | 後藤禮吉 |
|------|------|------|-------|-------|------|------|-------|------|------|------|-------|------|------|------|------|------|------|-------|------|

| | | | | | | | | | | | | |
|------|-----|---|-----|------|---|------|---|------|-----|---|-----|-----|
| 東砥用村 | 年稱村 | 同 | 杉山村 | 東砥用村 | 同 | 東砥用村 | 同 | 西砥用村 | 中山村 | 同 | 菅尾村 | 海東村 |
|------|-----|---|-----|------|---|------|---|------|-----|---|-----|-----|

| | | | | | | | | | | | | |
|------|-------|------|-------|------|------|-------|------|-------|-------|-------|------|------|
| 赤星虎吉 | 坂崎徳太郎 | 坂井富三 | 坂口與太郎 | 木下吉藏 | 北八島平 | 北本長次郎 | 代田寅勝 | 島田八十八 | 島田百々喜 | 島田三男喜 | 志垣唯次 | 杉本廣吉 |
|------|-------|------|-------|------|------|-------|------|-------|-------|-------|------|------|

熊本縣 玉名郡

原籍地 玉名郡伴倉町

現住所 シヤトル市メン街七百五番

旅館、洋食、仲買 坂井寅平

二百



明治三十二年十一月北米に渡航し、氏が渡米の目的を遂行する爲に、如何なる困難も意に介せず、光明の一路を辿りて希望のあるところに進入し、洋々たる蒼海に棹して彼岸に達する手段の一としては、勞働に身を投じて資力を造り逆境に遭へば益々奮闘の氣力を強固ならしむるは氏が特長の一なり、是なる哉、氏が今日ある故以のものは、只其れ忍耐と堅忍の二途あるのみ、而も業務は倍々繁榮にして、其前途に抱く所の抱負も又小ならず、奮闘の後には成效あり、進んで自らを發揮せられんことを、

原籍地 玉名郡築山村字築地

現住所 シヤトル市

西川市松

海外に出で、活動せんとする志望は押へんとして押へ難く、明治三十四年十一年長崎を出帆して英領加奈陀晚香坡に航する帆船に乗り込み、二旬餘の航海を以て無事渡航す、華州ベリングハムに着したりとは其壯圖や海國男子の氣質を發揮して遺憾なし上陸後ワシントン湖畔にて農事に従事せしが、思ふ所ありて一時中止したるも、氏が志望は農事にあり、將に起業せんとして、已に千弗餘の貯金を爲し居れりと雖も、時期の到来を待て、勇躍すべく、渡米の志望を貫徹することに努むべし、

熊本縣 玉名郡

原籍地 玉名郡坂下村

現住所 ベリングハム

雜貨、古物 前村泉

電話レット 三六九二

明治三十四年十月北米ワシントン州タコマ市に上陸してシヤトル市に出て、家内勞働に従事して英語に關する素養を蓄へ、旁ら獨立業者となりて雜貨商を營みしも、時運利あらずして一時中止し居りしが、自營者たらざれば止まざるの決心と覺悟を有するが故に、奮勵以て貯財をなし、三十九年八月ベリングハムのウエストハレー街にて現業を開き、益々前途の幸福を形造せんとしつゝあり、暫く堅忍持久して、其成效を期せられたし、

二百一

原籍地 玉名郡横島村

現住所 スボーケン市

盛水林太

明治三十六年七月英領加奈陀晚香坡に上陸し、直ちに北米ワシントン州シャトル市に轉じ、沙市に於て一旗を掲げんとせしも、兎角財力の伴ふことに非らざれば、何事も成效を期待すること能はざるを看取し、八ヶ月間の日月を沙市に送り、財力蓄積の手段として、鐵道勞働を爲すも又一利ありと自覺し、進んで收得する決心を以て虎穴に入りしは、恐く前途に於ける開運の兆ならん、三年間の精勵は將に新なる生命を以て世に出でんとす、氏自身の心底に深く藏する秘密は其れ何物ぞ、

- 木葉村
- 綠村
- 大野村
- 築山村
- 玉水村
- 賢木村大字細長
- 同
- 玉水村
- ...
- 玉水村
- 横島村
- 大原村
- 同
- 大原村
- 有明村
- 大野村
- 伊倉村
- 梅林村
- 横島村
- 稻津又作
- 池邊金藏
- 池上三次郎
- 西村寅造
- 徳永大八
- 徳永亥三次郎
- 岡崎徳藏
- 大崎勘藏
- 波邊峯太郎
- 龜丸與市
- 吉村寅吉
- 谷崎卯吉
- 谷崎實男
- 谷崎八藏
- 谷口庄太郎
- 田上丑太郎
- 田代寅平
- 田原半九郎
- 中道留次郎

- 綠村
- 東郷村
- 玉水村
- 睦合村
- 大野村
- 玉水村
- 東郷村
- 八嘉村
- 玉水村
- 横島村
- 梅林村
- 南關町
- 睦合村
- 同
- 米富村
- 白水村
- 玉水村
- 東郷村
- 八ヶ村

- 鍋島庄太郎
- 村上貢
- 村本喜八
- 植田末太郎
- 植田又次郎
- 倉本甚四郎
- 倉光龜男
- 松村壽三郎
- 松村用平
- 松浦金藏
- 山本寅記
- 真弓五一郎
- 古川智太郎
- 藤本實藏
- 藤本國藏
- 藤井雄騎
- 小收力八
- 小島榮次郎
- 坂梨榮一
- 坂口甚太郎
- 伊倉村
- 大原村
- 八ヶ村
- 築山村
- 築山村
- ...
- 横島村
- 米富村
- 野田村
- 玉水村
- 南關村
- 大原村

- 櫻井惣四郎
- 吉良清熊
- 北村又七
- 北原龜次郎
- 北原藤太郎
- 三島才吉
- 光田良太
- 島田島雄
- 平野幾平
- 平野専八
- 菅原頼三
- 菅原猛夫

熊本縣 菊地郡

原籍地 菊地郡戸崎村字森北

現住所 シヤトル市南第五街百十四番

旅館

宮川万平

電話インデックス二七四五

明治二十四年布哇に渡航し三ヶ年の後英領ビクト
リヤに轉航し、一事を爲さんとしたるも、當時は
僅に製材會社の仕事あるのみにて、殆ど糊口に窮
迫するの餘儀なきに出會し、進退全く窮境に陥
り、衣食を得るの途なきに至りしとは、氏が生涯
の一話柄ならん、三十三年歸國して三十五年妻帯
の上にて再渡航し、三十八年萬屋旅館を開業せし
が三十九年現住所にグレンウッドと名くる大なる
旅館に移轉し業務甚だ熾なり、熊本縣人會役員と
して郷土の人に推重せらる、



原籍地 菊地郡戸崎村字森北

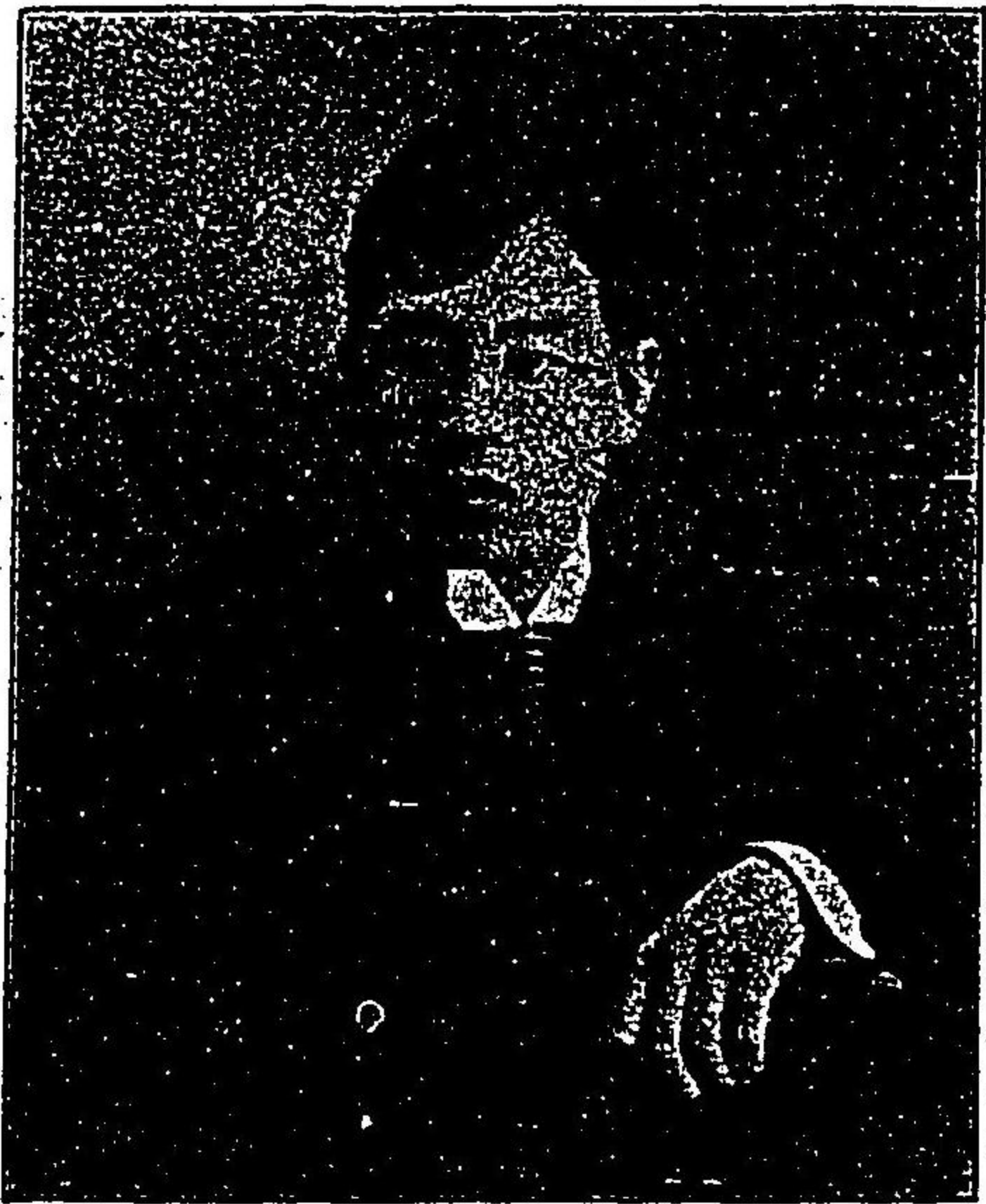
現住所 シヤトル市メーン街六百十九番

旅館

宮川源喜

電話インデックス三〇五二

明治三十二年十一月米國帆船ウイリヤムポータ
ン號に乗込み華州ポートブラクレー製材會社に勞
働の目的にて契約を爲して渡米せしが同所大火の
厄運に遭ひて、シヤトル市に出で續てローサンゼ
ルスに至りて勞働に従事し、三十六年八月再びシ
ヤトル市に歸りて貯財を爲し、三十八年五月より
同兄万平氏を助けて旅館を開業し、万平氏は業務
擴張の爲めに移轉したる跡を引受け、専ら熱心に
經營し居れり、而して他に日本茶の直輸入を營
み、業務倍々盛大なり、



熊本縣 菊地郡

原籍地 菊地郡戸崎村字森北
現住所 シヤトル市メーシ街六百十九番

宮川大二

明治三十五年五月北米ワシントン州タコマ市に上陸し、同所に滞在すること三ヶ月にしてシヤトル市に轉じ、三十七年八月まで家内勞働に従事し、獨立自營者たらんとして貯財を專一と爲し、三百弗餘の資本を造り得たれば、沙市に於ける第二街にて煙草店を開業して甚だ盛況なりしが、家屋の貸借期限上一時閉店することの止むなきに遭遇せしは、残念此上なきも氏の如きは勤勉と忍耐に強き性質なれば、今や進んで開店する場所を詮議中なりと云へば、前途の爲めに其成效を期すべし。



菊地郡

護川村 同 清水村 同 護川村 戸崎村 清水村 陣内村 泗水村 原水村 瀬田村 陣内村 原水村 菊地村 城北村 同 泗水村 同 田島村

伊原谷重 今村文吉 春田萬里 春田千之 西岡揆一 西野勝次 星野勝次 緒方光彦 大塚桂八 渡邊龜八 鹿子仙吉 川上辰吉 吉山龜記 高木辨藏 高喜宗政 永田伍八 永田素男 内田善十 宇野木作 安武松二

瀬田村 平眞城村 城北村 泗水村 同 加茂川村 龍田村 戸崎村 原水村 泗水村 陣内村 比石村 北全志村

丸野熊彦 府内龜太郎 藤本仁市 福原貞馬 古田清 小池典次郎 合志松太郎 有働米作 猿渡蘇三 宮川榮吉 宮崎磨 島津市藏 平田伊喜 東又太郎

原籍地 玖摩郡中原村

現住所 シヤトル市ワシントン街

西洋料理人 山口 勇

明治三十七年六月北米ワシントン州シヤトル市に上陸して以來、一藝を習得して身を立てるものと決意し、自ら勞働方面を詮議して西井久八氏の經營に拘はるコロンダイキレストラントに入り、忠實と熱心を以て其職に盡したれば、料理法に關すること、大に其伎倆を進歩せしめ昨年九月よりチーフコックとなりて、益々貯財を爲し、一面に於ては主人の爲めにも最も忠實なれば從て信用も厚し、已に獨立自營者と爲りて社會に出づる用意ありと雖も、敢て着手せざるは、大成を期する手段なる可し、

球摩郡

木上村

人吉九日町

木上村

人吉町

人吉九日町

川村

金坂喜代次

山下三右衛門

増永銀次郎

郡山岩平

郡山治

郡山万之助

原籍地 鹿本郡吉松村字玉井

現住所 シヤトル市リンコンホテル

春田龜太郎

明治三十六年五月北米ワシントン州シヤトル市に上陸、直ちに自營者となりて洗濯所を開始せしが、將來の發展上には資力の準備なくんば、事に處するに當りて蹉跌を來たすべき虞れあることを自覺し、斷然從來の業務を捨て、雇人となりて貯財に従事し、リンコンホテルに入りてホテル内の働きを爲し、一意専心以て氏が希望を貫徹するに努め居れり、善い哉、氏の決心と行動に對して、暗々裡に光明を認むべき點あれば、數年の後には何物が氏の手に倚りて經營せられん、勉めよや、

原籍地 鹿本郡山東村字古閑

現住所 ワーラーズ

澤田權四郎

明治三十二年十一月英領加奈陀晚香坡に渡航して、北米ワシントン州シヤトル市に轉じ、獨立業者たることを見合せ、自ら勞働に入りて斯界の成效者たらんと決心し、爾來一日の怠る所なく八年の星霜を経過する裡には貯財を爲したる金額も少なからず、所謂無名の成效者とも云ふべきか、現今はワーラーズ製材會社の日本人部組長となりて、信用も厚く忠實と勤勉は氏が特長とも視るべき質なれば、其今日あるを致せるもの、豈に偶然なりとせんや、倍々進んで貯財を得られたし、

原籍地 鹿本郡稻田村

現住所 マプトン

森 二 三

明治三十九年五月北米ワシントン州シヤトル市に上陸するや、都會に於て貯財を爲さんよりは寧ろ田舎に入りて貯財を爲し、然る後、徐々として前途の劃策を爲すも後とせざる處なれば先づ華州に於ける發達の方面を調査し、小麦の産地として且つ集散地たるマプトンを選び同地に足を止むることなし、一兩年後は獨立自營者となりて大に活動する所あるべきも、屈するは伸んが爲めなりと云ふ場合なれば、昨今は一條の光明を認めて奮闘あるのみ、

| | |
|------|--------|
| 山鹿町 | 井口 斌治 |
| 山鹿櫻町 | 石井 卯平 |
| 大道村 | 飯田 正直 |
| 同 | 飯田 喜馬太 |
| 内田村 | 今村 半次郎 |
| 千田村 | 伊方 角藏 |
| ……… | 伊藤 龜太郎 |
| 六郷村 | 長谷川 久男 |
| 同 | 原口 芳太郎 |
| 吉松村 | 春田 龜太郎 |
| 中富村 | 服部 文平 |
| 大道村 | 若杉 安次 |
| 平小城村 | 吉岡 十藏 |
| 田底村 | 田中 龜彦 |
| 米嶽村 | 立山 末吉 |
| 米野岳村 | 多田 隈金藏 |
| 三國村 | 長迫 平太 |
| 千田村 | 村上 貫廣 |
| 大道村 | 村上 貫吉 |

| | |
|-----|--------|
| 山東村 | 上田 慶松 |
| 千田村 | 矢住 常八 |
| 米田村 | 前田 佐八 |
| 同 | 前田 佐吉 |
| 同 | 前田 榮八 |
| 廣見村 | 酒井 源六 |
| 日底村 | 酒井 成作 |
| 嶺間村 | 北原 善五郎 |
| 大道村 | 宮本 宇平 |
| ……… | 日足 亥之助 |
| ……… | 杉山 林 |

原籍地 八代郡下竹村字廣平

現住所 スポーケン市

塚田慶次

明治三十八年五月北米ワシントン州シヤトル市に上陸して、直ちに貯財に従事せんものと決心し、財力を造るの途は勢ひ勞力に依頼するより他に良策なきことを自覺し、勞力に倚りて財力を得る爲めの手段には勞働にも又甲乙の差別なきことを看取し、自ら鐵道勞働に就かんとして東洋貿易會社の配下に屬してスポーケン支部の管轄の許にてアイダト方面にて一ケ年を費し、更にスポーケンに來りて大北鐵道の配下にて専心貯財を爲しつゝ、あり、自營者となるも又遠きにあらず、

八代郡

千丁村 岩田菊太郎
古閑出 渡邊茂
鏡町大字上鏡村 高守徳平
八千把村 中村惣八
八代町 内田熊八
下嶽村 藤井彌太郎
吉野村 坂田用太郎
八千把村 島田末吉

原籍地 天草郡手野村

現住所 タコマ市

古川久三

同 ト ヲ

明治二十五年英領加奈陀晚香坡に渡航したるは氏が十六歳の時にして、爾來同所にありて幾多の辛慘を経て貯財を爲し得れば、北米ワシントン州シヤトル市に轉じて旅館を營み、業務盛況に向はんとする際、客の多數は止宿料を仕拂はず。一時業務を廢止して歸國し、再海航して以來は西洋洗濯に身を寄せ、自ら自營者たらんとして、西井久八氏の許にありて同業に従事し居れりと雖も、氏の自營者と爲るは恐く二三年の間にあらん奮闘せよ。

原籍地 天草郡宮野川内村

現住所 タコマ市シー街千三百三十六番

理髮 三宅寅次

明治三十二年十二月英領加奈陀晚香坡に上陸し北米ワシントン州シヤトル市に出て、獨立業者たらんとするには伎藝を習得するに如かざるを自覺し日本人には尤も適當なる理髮を稽古することゝなしぬ、爾來沙市に於ける保坂理髮所にて一心に修業したれば、氏が自身の伎倆に依りて免狀を得、モグリ理髮人にあらずして立派なる看板を有する一人となれり、未だ自營者たらずと雖も、自營に關する用意も整ひ居れば、時期に乗じて其面目を發揮せんものとて、意氣頗る盛なり、須らく成効を期すべし。

熊本縣 天草郡 宇土郡 阿蘇郡 熊毛郡 上笠郡 豊後郡

二百十四

元松權藏

柳宇土村

井上正義

浦村

高濱村

加佐重太郎

阿蘇郡

宮野河内村

且本好平

錦野村

同

中村佐與次

同

龜場村

中村イチ

南小國村

手野村

浦上幸造

佐伊津村

古川勘四郎

島田字吉

新合村

坂本布衣藏

同

平田和市

同

今田源藏

同

綿田作造

同

河瀬末太郎

同

垣原勝次

同

浦上勝幸

同

山口三太郎

同

山口三太郎

同

深川五郎

同

深川五郎

同

深川五郎

同

深川五郎

同

深川五郎

同

深川五郎

同

深川五郎

同

深川五郎

同

深川五郎

同

深川五郎

同

深川五郎

同

深川五郎

同

深川五郎

同

深川五郎

同

深川五郎

山口縣

華盛頓州内に居住する同縣下人の中にありて、大島郡に屬するものは最多數を占め、次て熊毛郡とす、大島郡より海外渡航者を續出せしめたる理由の一は、同郡のものにして、比較的好成績を現したるに基因す、故に獨立自營者も又大島郡の人々を以て第一とす、

同縣下人は概して勤勉にして事物に接觸すれば其愚引には甚た巧みなり、之れ同縣下人が他のものに比して、一頭地を抜き出つる特長と云ふも不可なかるべし、吾人は已往を以て將來をトするにあらずと雖も、同縣下の人々は其事業上に於て、各種の方面に對して多岐に亘るは失敗を招致するが如し、一長一短は各縣人共其軌を一とせざるも、同縣下人は特に此點に向て注意を拂ふ所なるべし、概活すれば同縣下人の現狀は平垣にして、一躍勇奮、同輩を凌駕する人士を示さすと雖も、少壯者間にありて、有望のもの少なしとせず、吾人は少壯の人々に屬望する所多し、

同縣下人の組織する山口縣人會は目下百四十名餘の會員を有し、會報を發刊して會員相互の動靜を知らしむる機關となす、

茲に同縣人會の規則及役員を列記すれば左の如し、

會 則

山口縣

二百十五

第一章 組織

第一條 本會は北米合衆國ワシントン州に在留する山口縣人を以て組織す

第二章 名稱

第二條 本會は山口縣人會と稱す

第三章 目的

第三條 本會は相互に信義を重んじ福利を増進し會員の疾病其他不慮の災難に陥り困難に遭遇するものを扶助救護するを以て目的とす

第四章 位置及會場

第四條 本會は本部をシヤトル市に置き地方に支部を置くことあるべし

第五條 本會々場は當分の内日本人會々場を以て之に當つ 但し時宜に依り變更することあるべし

第六條 支部會場は便宜に依り之を定む

第五章 會費及會員

第七條 本會員は本會の目的を達せんが爲め會費として毎年五十仙宛十月迄に指定の場所に納付するものとす

第八條 本會々員たるものは互に品位を重んずべきものとす

第九條 本會々員にして苟も徳義を紊り賤劣の所爲あるを認知したるときは互に注意を與ふべきものとす

第十條 本會々員たるものは總會には必ず出席するの義務あるものとす

第六章 入會退會

第十一條 本會の主旨を賛同し入會せんとするものは規定の書式依り會長に申込むべし

第十二條 本會々員にして不得已場合に際し退會せんとするものは其旨を會長に届出て承認を受くべきものとす

第七章 役員

第十三條 本會の目的を達せんが爲め左の役員を置く

會長 一名 副會長 一名 會計正副 各一名

書記 一名 理事 五名 評議員 十名

支部に支部長一名を置く

第十四條 本會役員の仕事は左の如し

會長は本會を代表し諸般の事務を監督す

副會長は會長を補佐す

會計は金銭出納を掌る

書記は會長に屬し本會庶務の任に當る

理事は區内の會員を獎勵監督し尙評議員の任に當る

評議員は諸般重要な事項を評議決定す

支部長は支部一切の事務を掌理す

第八章 撰 舉

第十五條 本會役員任期は滿一ヶ年とし書記を除く外總て會員の投票を以て之を定め書記は役員會の推撰に依り理事は區内の會員に於て之を投票す

但し投票同點なるときは抽籤法に依り之を定む

理事撰舉區域は左の如し

第一區 大島郡 第二區 玖珂郡 第三區 熊毛郡 都濃郡 佐波郡

第四區 吉敷郡 厚狹郡 豊浦郡 下の關市 第五區 大津郡 美禰郡 阿武郡

第十六條 本會役員に欠員を生じたるときは次點者を以て之を定む

第十七條 本會の役員は正當の理由なくして辭任する事を得ず

第十八條 本會役員改撰期日は毎年四月の定期總會とす

第九章 會 議

第十九條 本會は左の會議を設く

定期總會 臨時總會 役員會

第二十條 定期總會は毎年四月及十月に開會し左の事項を評定す

事務の成績 會計報告 會則修正 其他必要の事項

第二十一條 臨時總會は左の場合に之を開く

一 役員會に於て必要と認めたる場合

二 會員十名以上の賛同を得て請求ありたる場合 但し會長は第二項の請求を受けたるときは役員會に問ひ果して總會の必要を認めたるときは之を召集するものとす

第二十二條 役員會は時宜に依り開會す

第二十三條 定期總會及臨時總會は在市會員の過半数にあらざれば開會する事を得ず

但し場合に依り出席會員の協議上開會するとあるべし

第二十四條 本會の決議は出席會員の過半数に依て之を定む

但し賛否同數なるときは議長之を決す

第二十五條 本會の議長は會長を以て之に充つ

第十章 經費

第二十六條 本會の經費は寄附金及會費の半額を以て之に當て殘半額は基本金とす

第二十七條 本會の基本金は應急の場合には之を支出することを得

但し其場合には役員會の決議に依る

第二十八條 本會經費の支出に經常及臨時の二種とす

一 經常支出は會長の指示に依り會計之を支出す

二 臨時支出は役員會の決議を経て支拂ふものとす

第十一章 賞 罰

第二十九條 本會に對し特別功勞あるものは總會の決議に依り名譽會員とす

第三十條 本會々員にして左の行爲あるときは役員會の決議に依り除名するものとす

一 同胞の体面を汚し又は本會に對し不正の行爲あるもの

二 會員にして本會々員に違反し不都合を來したる場合に依り再三忠告を受くるも尙顧みざるもの

もの

第十二章 雜 則

第三十一條 本會々員の原籍姓名及び現住所番地等を詳記し異動毎に之を訂正す

第三十二條 本會々員は第三十一條の明記に異動ある毎に明細に通知するものとす

第三十三條 本會諸般の事務は帳簿に之を明記するものとす

第三十四條 總て本會に起る重大なる事件は總會の決議を要す

但し應急の場合には役員會に於て決議の上實行し後總會の協賛を得るものとす

第三十五條 本會は場合に依り俱樂部を設るとあるべし

第三十六條 本會の規則は總て總會の決議を経て修正するとあるべし (完)

會 長 伊藤 忠三郎

副 會 長 岡 澤 利 助

會 計 岡 村 正 一

同 事 星 出 清 次 郎

理 事 國 安 定 輔

阪 本 修

海 田 岩 助

武 田 清 次 郎

川 崎 信 一

評議員

野口長之助
 阪本修
 平井本輔
 山形市太郎
 國安柳吉
 山根孫市
 中川爲助
 原文太
 古川茂生
 武田清次郎

原籍地 下の關市入江町

現住所 タコマ市

福田七兵衛

明治三十五年一月北米ワシントン州シヤトル市に上陸して以來、一意専心渡米の目的を貫徹せんとして、奮勵怠らざりしかば、五ヶ年の星霜を経過する間に貯蓄を爲したる金額も少なしとせず、氏は渡米するに當りて萬難を排除し、其目的を達したるもの、一人なれば、渡米後に於ても其素志を格守して一日の偷安なし、左れば氏が獨立自營者となるも將に近き間にあり、然りと雖も氏は自らを重んじ容易く物事を創設せざるは、恐く成效を企圖する一手段ならん、奮勵せよ。

赤間關市

西細工町

伊坂勉三

山口縣 大島郡

二百二十四

原籍地 大島郡蒲野村字流

現住所 シヤトル市メーン街四百二十番

貴金屬、美術品

岡澤利助

電話インデR三一七五

明治三十一年十月シヤトル市に上陸して語學研究の爲め、學校生活を爲し、而してフレデリック寶玉商會へ入りて四ヶ年の星霜を質地研究に費し、三十六年獨立自營者となりて營業を開始せり、三十九年タコマ市ベール街千五百二十一番地へ支店を設置し、駁々として繁昌を來しは偏に商機に敏活なりと云ふべく、少壯者中にありては有望の一人として其聲高し、緊禪一番、適れの紳士たれ、氏は又公共團體員としては山口縣人會の副會長たり、



原籍地 大島郡安下庄村

現住所 シヤトル市ワシントン街四百十六番

理髮、兼洗濯

國次卯之助

明治二十九年四月英領加奈陀晚香坡に上陸して直ちに北米ワシントン州シヤトル市に來り、一時はボードブラクレーの製材會社にて勞働に従事せしが、更に白人に雇はれ五ヶ年の歳月を一日の如くして勤務したれば自ら信用を博し且つ貯財をも爲し得たり、氏は前後十ヶ年勞働界にありし間に貯財したる金額も僅少にあらず、三十九年五月現住所に一戸を構へ理髮、西洋風呂及洗濯業を開始し、熱心と勤勉を以て事物に接するなり、日を追ふて繁昌に向ひつゝあるも豈に偶然ならんや、



山口縣 大島郡

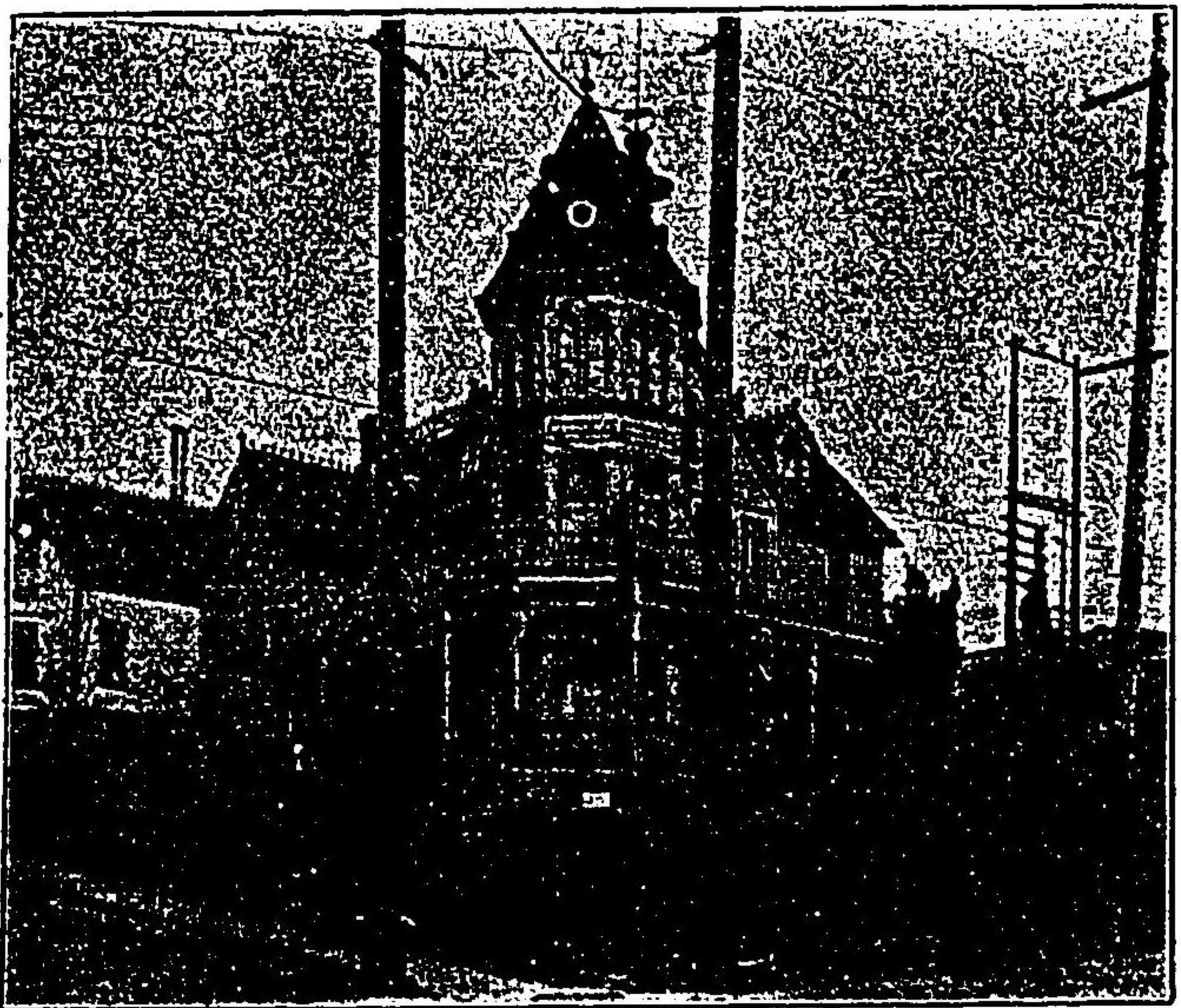
二百二十五

山口 縣 大島郡

二百二十六

原籍地 大島郡安下庄村

現住所 シヤトル市メーナード街五百三番



下宿兼寫眞師

國 安 定 助

妻 帯

電話インデ
R三三三六

明治三十二年十月北米ワシントン州シヤトル市に渡航し、獨立自營者たらんが爲めに一度は勞働界に身を投じ、貯財も爲し得れば三十八年現住所にて下宿業を開始せりと雖も、之を以て發展せんとする意にあらざるは勿論、只氏の無聊を慰する業たるに過ぎず、敢て社會の表面に出て、驅馳せざるも、氏の厚志に依りて其立場を與へられたる青年も少なからず、滔々として虚榮を衒はんとする社會にありて、陰に青年の爲めに一臂の力となりつゝあり、

原籍地 大島郡安下庄村

現住所 シヤトル市南四街三百十二番半

洗濯兼湯屋

國 次 兵 太 郎 妻 帯



明治三十六年八月北米ワシントン州シヤトル市に上陸するや否や、西洋料理店を開業せんものと決心し、同業に従事すること約一ケ年、引續き繼續する意志なりしが、家屋賃借上より止むなく廢業せざるを得ざる場合に遭遇し、氏が目的と爲しやる所の營業も一時目的を變更して、更に職業を變へ、現業を營むこととなりて三十八年現住所に移轉せり、開業してまだ日淺しと雖も、着々業務の盛大を來たし、日を追ふて繁榮に向はんとする兆あるは、氏が前途發展の第一歩たる可し、

山口 縣 大島郡

二百二十七

山口縣 大島郡

二百二十八

原籍地 大島郡蒲野村字三浦

現住所 シヤトル市

商會員

山形市 太郎



明治三十一年十月北米シヤトル市に渡航し、異日の發展を期せんとして、語學研究の爲めに學校生活を爲すこと數ヶ年、耿々の心は豈に地中の朽木ならんや、一度出て、フレデリック家具商會の日本人部主任となりて白人と同一の待遇を受け、益々氏の價値を向上せしむる故以のものは蓋し偶然にあらず、而も沙市に於ける日本人數千名の内にありて、氏と同一の境涯にあるものは僅に指を數名に屈するに過ぎず、益々進んで日本八の先驅者たれ、公共團體員としては山口縣人會の評議員たり、

原籍地 大島郡安下庄村

現住所 シヤトル市ウエストメーン街百十三番

西洋料理

山根 孫 市 妻帯

電話インデク一二九二



明治二十六年十一月英領加奈陀晚香坡に渡航し北米シヤトル市に轉じて、オクスデンター街に西洋風呂を開業して歸國し、三十三年の夏再渡航して西洋料理の營業を爲し、三十四年イーゲル洗濯合資會社の株を譲り受け、三十八年一月ベリソングハムに筈製造所を設けたりしが、時運未だ專業とするに至らざれば、三十八年九月再び現住所にて現業を繼續せり、氏は何事にも拔目なく且つ建設的の頭腦に富み居るは同縣下人中に於ける出色の一入たるを許すならん、

山口縣 大島郡

二百二十九

原籍地 大島郡小松志佐村

現住所 シヤトル市メーン街六百五十二番

藤本富右衛門

明治三十一年一月北米ワシントン州シヤトル市に上陸して、スクールボーイとなりて學校生活を爲し、爾來勞働界に於ける各種の勞働に従事し、財力を得るにあらざれば何事も發展の途なきを自覺し、財力に依りて立たんと決心したるが、規矩を踏まされば貯財の道も爲し難ければ一身を以て勞働界を輪廻すること、せり、約十ヶ年の間辛抱せし結果として已に自立者たるを得るは容易の業なるも今尙ほ白人商店に勤務して自立者たらさるは、氏の深慮の存すると云ふも不可なし、



原籍地 大島郡沖蒲村

現住所 シヤトル市マゼン街百十九番

雜貨商 伊藤忠三郎

妻帯

明治二十六年六月、北米華州シヤトルに渡航し、同縣下中に於ける先輩として同氏を知らぬものは稀なり、一盛一衰浮沈定まりなきは即ち人事の常にして、同氏は今日巨万の財力を造り得さりしは遺憾とする所なるべく、第一街の雜貨店を閉店して現住所に移り、又一面に於ては富士桂庵と命ぐる勞働者の周施所を設け、且つ洗濯、西洋風呂、理髮業を兼業となし、燃ゆるが如き心の奥底には云ふべからざる氣力の存するを視るは、氏の持長なり、公共團體員としては山口縣人會の會長なり、

原籍地 大島郡蒲野村

現住所 スポーケン市

濱野宮太郎

明治三十一年英領加奈陀ピクトリヤに上陸して、加奈陀に居住したること七ヶ年、自ら獨立業者たることを見合せ、一意勞働に従事したれば、貯財も又相當に爲すことを得たりと云ふ、三十八年北米ワシントン州シヤトル市に出て直ちに同州スポーケン市に轉じ、家内勞働に従ふて得し所の収入も少なからず、氏は寧ろ技術に屬する勞働なれば普通のものとは其趣を異にする所あり、今や獨立自營者たらんとして、専ら其用意を整へつゝ準備中なり、

原籍地 大島郡沖浦村字秋村

現住所 シヤトル市メイン街四百四番

洗濯、理髪 原文太

同 しか

明治三十三年五月北米ワシントン州シヤトル市に上陸して、約三ヶ年の歳月を家内労働に費し貯財と家庭の情態に於て得る所少なからず、去れど獨立自營者たらしんとするの志望は念頭一日も忘ることなく、三十七年一月第五街にて洗濯業を開き、十ヶ月後メイン街に移轉せしが、更に業務擴張の爲めに現住所に移り、理髪、西洋洗濯、西洋風呂を兼業とし、日進月歩の勢を以て盛大を來たし居れるは偏に氏の勤勉と云はざるを得ず、

原籍地 大島郡沖浦村字家房

現住所 シヤトル市メイン街六百七十三番

西本仲五郎

明治三十七年六月北米ワシントン州シヤトル市に上陸するや、直ちに獨立自營者たらしんとする用意と準備の爲めに、獅子奮進するより外なく、赤手にして一事を爲さんとするには、勢ひ努力に寄るを可と信じ、多年の宿望を懐ひて、身は萬里の孤客となるも、詮じ來れば成効者の一人とならんとするに外ならず、左れば氏も又自營者として社會の表面に現はるゝも、近き將來にあり得べく、現今は此目的の爲めに奮闘時代にして、次に來るべきものは即ち獨立而して成効の冠を得んか、努めよや、

原籍地 大島郡安下庄村

現住所 シヤトル市南第六街

洗濯所 岡村正一

電話 インデレ一四三三
ブラック九二四一

倭小の軀幹に横縦の奇才を藏するは同縣下人中にありて、出色の一人なり、氏の渡米したるは明治二十六年なるも三十一年一度歸國し、再渡航して先輩諸氏と語り、イーグル洗濯會社とて、合資組織の洗濯所の主任となり、敏腕の聲高く、四十餘名の雇人を使用して手足の如く行動せしむることの一事に徴するも、氏の價値をトするに足るべし、其性格の稜々たる所に又圓滿の特長あり、前途有望の一に算せらる、

原籍地 大島郡安下庄字庄

現住所 シヤトル市華盛頓街四百十四番

旅館 岡田坂藏

電話 インデ
X一二四五

明治三十五年十月北米ワシントン州シヤトル市に上陸して、獨立自營者たらしんとするが爲めに勞働界に入りて、貯財に従事すること約四ヶ年に及び、此間に於て貯財を得たれば自營者となりて世に立たんものと決心し、其職業を選定するに當りて兎角旅館を開業せんと處決し、現住所に一戸を構へて營業を始めたなり、之より進んで業務を擴張し繁榮ならしむは只其れ氏が自身の手腕にあり、努めて成効者の一人と仰がれんことを、

原籍地 大島郡安下庄村

現住所 シヤトル市ワシントン街防長館内

鎌田治三郎

明治三十八年六月北米カリホルニヤ州桑港に上陸して同地にありて一事を起さんとして、専ら其用意を爲し居りたる折、三十九年四月同地の震災の爲めに端なく氏が計劃も一時中止するの止むなきに遭遇したれば、同月同地を去りてワシントン州シヤトル市に轉じて、兎角勞働に身を寄せ、獨立業者と成らんとする準備中にして桑港の震災は氏の計劃と希望に多大の障害となりしは、又止むなき事態なるも、倍々奮進して當初の意志を貫徹せられよ。

原籍地 大島郡安下庄村

現住所 シヤトル市南第五街百十一番

洗 濯

龜井菊右工門

電話インデ
L一二四五

明治二十八年四月北米ワシントン州シヤトル市に渡航したりと雖も、北米に渡航する以前には布哇にありて貯財を爲し、進んで北米に轉航せしことなれば、從て獨立自營者となるも又易々たる事にてありき、故に渡航して以來は専ら獨立業の撰擇を爲さんとして、約八ヶ月間を費消し、同年十二月に至りて、愈々現業を開始することとなりぬ、而も日進月歩の沙市のことなれば、成效と不成功は偏に氏が手腕の存する所と云ふも不可なからん。

原籍地 大島郡沖浦村字戸田

現住所 ベリングハム、シー街千三百八番

洗 濯

米澤惣吉

明治三十六年三月北米ワシントン州シヤトル市に上陸して、西洋洗濯所の雇人となりて住み込み、半歳の後同州ベリングハムに轉じて、故河野氏の洗濯所に入り、一個の職人として月俸を貰ひ居りしが、氏の希望は職人となるを以て満足すべきにあらざれば、河野氏の營業を譲り受け、遂に獨立自營者となることを得たるは、偏に氏自身の勤勉に基きたる結果にして、業務の擴張と改善は氏の行動に依ることなれば、常に商機を逸せずして進み行かば、成效は自ら氏の頭上に落ん、

原籍地 大島郡安下庄村字鹽宇

現住所 シヤトル市メイン街五百十一番

吉田庄次郎

明治三十三年五月北米ワシントン州シヤトル市に渡航して以來數ヶ年間の日月を貯財の爲めに費消したるは、獨立自營者たらんとする希望に外ならず、而して未だ獨立自營者と成らざりし故以のものは、獨立自營者たらんことを標榜する最適當の業務なきに基因す、否業務なきにあらずして自ら慎重を守ることの一事にあるのみ、故に氏は沙市の發達を豫想して將に着手せんとして、已に計劃も熟したれば、現實となるまでには些少の間のみ、益々奮勵して其素志を貫かれよ、

原籍地 大島郡安下庄村字正分

現住所 シヤトル市メイン街五百十一番

村田吉之丞

明治三十七年一月北米ワシントン州シヤトル市に上陸して、一個の獨立自營者と爲らんとするには、有望の伎藝を習得するを以て利ありとなし、種々なる方面を調査したる後、自ら進んで理髮所に入り、理髮を以て渡世とし、之れに依りて身を立てんものとして、日夕其業を怠る所なく、大に勤勉しつゝあり、理髮の業は米國に於ける金儲の仕事としては儘に有望の業務たるのみならず、之れを基礎と爲して發展することを得るは、誰人も否定する所にあらずれば、勉めて倦まざれ、

原籍地 大島郡安下庄村字庄

現住所 シヤトル市メイン街百十五番

理 髮 國 行 幸 十

明治三十二年英領加奈陀ビクトリヤに渡航し同地にて家内労働に従事すること一ケ年にして、北米ワシントン州シヤトル市に轉じ、國安柳吉氏と共に理髮業を開業せり、當時は今日の如く日本人の業務も少なき際なれば、自ら理髮業を撰擇せしは尤も時期に適したるものと推斷せざるを得ず、爾來一意専心、業務を勵み、貯財に志せしより已に數千弗余の財を造り、倍々貯蓄の道を講ずるに餘念なし、一度時機に際會するあらば、恐く地中ものにあらず、進んで奮闘を繼續すべし、

原籍地 大島郡安下庄村

現住所 シヤトル市ウエストメイン街百十五番

理 髮 國 安 柳 吉

電話R インデ二二九二

明治三十一年五月英領加奈陀ビクトリヤに渡航し同地に滞留して労働に従事すること一ケ年、三十二年五月北米シヤトル市に移轉し、同州ベリಂಗハムに至りて西洋料理店を開業せしが、思ふ所ありて同業を廢業し、千九百一一年理髮免許を得て理髮所を開き、引續き今日に至りしと雖も、業務益々好況に向ひ、時期の到事に際すれば、大に發展せんとする用意を整へ、擴張の好機を得んものとて風雲を睨み居れり、前途好望なる哉



原籍地 大島郡安下庄村字鹽宇

現住所 シヤトル市キング街六百四番

日本湯 山本 甲藏

西洋湯 同 静

洗濯所 長女 始代

電話インデ
X一〇九四

明治三十一年十月北米に渡航し、自營者たらんと
して、勞働界に身を投じ、専心貯財に従事したれ
ば、獨立業者となるの資を造ることを得たり、同
時に妻子を渡米せしめんとして拮据奮勵怠らざり
しかば、三十七年六月令閨及息女を呼び寄せ、團
樂の裡に和氣霽々たるものありと傳へらる、殊に
業務も日々盛況に向ひつゝありとてか、倍々成效を
期せられよ。

原籍地 大島郡安下庄村字正分

現住所 シヤトル市華盛頓街四百十六番

筆谷 佐吉

明治三十二年六月北米ワシントン州シヤトル市に
上陸して以來、一意専心勞働を以て奮勵し、常に
白人の經營する商店に働き居れるが、九ヶ年の星
霜を異郷の天地にて經過せしことなれば貯財も僅
少にあらざるは勿論、自ら進んで獨立業者たらざ
るは、只管自己に對する機運を期待しつゝありと
云ふべく、已に財力の用意も出來得たれば、今や
一步を進めて自營者たらんとて業務の撰擇中にあ
り、九ヶ年の間には異郷の事情にも通じたること
なれば、恐く失敗を招くことなかるべし、奮發せ
よ。

原籍地 大島郡安下庄村

現住所 シヤトル市テレー街四百十六番半

手袋製造 松本 清吉

洗濯 同 ヤス

電話インデ
一九二七

明治三十八年九月北米ワシントン州シヤトル市に
渡航せしが、氏は布哇に於て現業に従事し居りた
るものにて、布哇より轉航して北米に來り従前の
如く、手袋製造を以て營業と爲し、傍ら洗濯業を
も開業して、着々好況に向ひつゝあり手袋製造業
は有望なる仕事の一にして、日本人の手藝には尤
も適當するものなれば、必ず一大幸運の來るべき
を豫想するに難からず進んで一大元祖と仰がれた
し。

原籍地 大島郡沖浦村字秋

現住所 タコマ市バスフキツク街七百十五番

西洋料理 秋元 和吉

明治三十六年北米ワシントン州シヤトル市に上陸
し、先づ資本を造りて自營者となる唯一の良策は
西洋料理店なることを思ひ付き、西洋料理店に身
を投じて、斯業に關する技術を習得すること三ヶ
年にして、略ぼ自營を爲す用意も整ひたれば、タ
コマ市に同業を開業し、且つシヤトルには湯屋及
洗濯所を開業せしが、更に沙市の營業を譲り渡し
て西洋料理一方となしぬ、業務も日々隆盛をます
のみならず、近々の中に擴張する手筈なりとてか、
且つ斯業に關しては内助の効與て方あり、

原籍地 大島郡安下庄村

現住所 シヤトル市メイン街五百十一番

日本料理

木村 久吉

妻帯

電話A一〇九五

明治二十九年四月ワシントン州シヤトル市に上陸して、貯財の爲めに一時労働界に入りしが、貯財の方法手段としては必ずしも業務の甲乙を問ふべきことに非らずと思考し、ジャクソン街にて浪花亭と名くる日本料理店を開業し、華客も少なからず浪花の花の浪の音に營業も繁榮を來たし居りたる際、同街が道路修繕となりたればメイン街に移轉して同業を繼續し、酒池肉林と共に倍々家事の繁榮を視ることを得るは、賀す可し。

原籍地 大島郡森野村字平野村

現住所 シヤトル市エスラウエー街四百十五番

平中庄一郎

明治三十一年九月布哇ホルル一港に渡航し同地にありて四ヶ年間の歳月を以て商業に従事したが、更に一大飛躍を爲さんとして、蹴然同地を去り、多大の希望を懷いて北米に轉航したるは卅五年九月の頃なりき、沙市に上陸して直ちに獨立自營者とならんと思ひしが、暫く土地の情況を觀望するに如かずとなし、シカゴ市ストンカツチングスクールを卒業したる荒井洋服店に入りて洋服裁縫に従事し居れり、遠からず獨立自營者とならん、

原籍地 大島郡安下庄村字天満

現住所 シヤトル市メイン街五百十番

旅館

未永 いさ

長女 ゑだ

今を去ること二十年前、渡米したる中の一人なれば、婦人渡航者の先輩者と云ふも過言にあらず、

いさ子の夫たりし未永氏はボートブラクレーの製材會社に於て、勞働に従事し居りたる際不幸にして、白玉樓中の人と化し去りぬ、夫に離れて衷調の裡にありながら、紀念に残されたる長女ゑだ子を伴ふてシヤトルに出で、現住所に於てメインードホテルと名くる旅館を開業し、以て長女ゑだ子の成長を樂み居れりと聞けり、

大島郡

- 沖浦村 全 伊藤寅太郎
- 安下庄村 全 岩本政治郎
- 蒲野村 全 池田勝三
- 安下庄村 全 今田惣兵衛
- 日良居村 全 橋本二郎
- 沖浦村 全 林 織三
- 全 原田 研治
- 全 濱田 重助
- 全 長谷川 佐七
- 全 西村 千之丞
- 全 西村 彌一郎
- 全 西村 仲五郎
- 全 星出 安一
- 全 星出 七藏
- 全 星出 重吉
- 全 星出 清二郎
- 全 星出 惣吉
- 全 富永 正一
- 全 沖浦村 大村清次郎

| | | |
|---|-------|------|
| 全 | 大川龜十郎 | 佐速村 |
| 全 | 大原重治郎 | 全 |
| 全 | 大川兵六郎 | 全 |
| 全 | 大元佐次郎 | 久賀村 |
| 全 | 太田孫七 | 沖浦村 |
| 全 | 岡廣久松 | 全 |
| 全 | 岡村金衛 | 全 |
| 全 | 岡野一藏 | 全 |
| 全 | 小原須助 | 安下庄村 |
| 全 | 小浦染藏 | 全 |
| 全 | 角村秀松 | 全 |
| 全 | 河崎嘉兵衛 | 全 |
| 全 | 河合宗助 | 全 |
| 全 | 河野幸一 | 全 |
| 全 | 河野宗一 | 全 |
| 全 | 河田源藏 | 久賀村 |
| 全 | 河野吉太郎 | 全 |
| 全 | 加川半兵衛 | 日良居村 |
| 全 | 川上三五郎 | 蒲野村 |
| 全 | 川手市助 | 安下庄村 |

| | |
|---------|--------|
| 川本仲次郎 | 爲佐字八 |
| 田中福一 | 田村伊兵衛 |
| 坪井安之丞 | 中村福次郎 |
| 中原彌八 | 中原慶之助 |
| 中原林藏 | 中川光藏 |
| 中川節之助 | 中川藤八 |
| 中村勇助 | 中谷佐左衛門 |
| 永本惣一 | 中川宇兵衛 |
| 中原八郎右衛門 | 村田榮吉 |
| 村岡教太郎 | 野口良之助 |

| | | |
|---|--------|------|
| 全 | 國次太十郎 | 全 |
| 全 | 久保勇之助 | 久賀村 |
| 全 | 山根象吉 | 安下庄村 |
| 全 | 山根太吉 | 全 |
| 全 | 山根德治 | 全 |
| 全 | 山本善一 | 蒲野村 |
| 全 | 山本泰藏 | 油田村 |
| 全 | 山本和一 | 沖浦村 |
| 全 | 山本五右衛門 | 全 |
| 全 | 山本敏亮 | 日良居村 |
| 全 | 山近佐太郎 | 全 |
| 全 | 山村儀助 | 沖浦村 |
| 全 | 安本權之助 | 全 |
| 全 | 安井龜治郎 | 安下庄村 |
| 全 | 安村安吉 | 全 |
| 全 | 矢野菊之助 | 全 |
| 全 | 增山榮吉 | 蒲野村 |
| 全 | 增山好藏 | 掠野村 |
| 全 | 增山金次郎 | 久賀村 |

| | |
|---------|-------|
| 正久庄三郎 | 松宮甚一 |
| 松岡坂十郎 | 福良守一 |
| 福良孫市 | 藤岡信一 |
| 藤本辰五郎 | 藤田春忠 |
| 小林傳兵衛 | 秋本佐太郎 |
| 秋本芳五郎 | 秋本金之丞 |
| 佐村貞之助 | 佐本豊五郎 |
| 木下定右衛門 | 木村九八 |
| 木村七郎左工門 | 木村要市 |
| 光井富藏 | 港谷末松 |

| | |
|------|--------|
| 安下庄村 | 新山種藏 |
| 全 | 新山岩助 |
| 全 | 廣貝友助 |
| 久賀村 | 廣澤傳造 |
| 安下庄村 | 東廣吉 |
| 沖浦村 | 平田實右工門 |
| 全 | 森野岩吉 |
| 日良居村 | 森本實之助 |

原籍地 熊毛郡室積町
 現住所 シヤトル市南第五街三百八番

旅館

海田岩助

電話 X 二八九五



明治三十六年四月北米ワシントン州シヤトル市に上陸するや、最初はゼチラルホスベタルに働き居りしも、只自營者と爲るまでの間に於て、此間に於て計劃を立て旅館を營業せんとして、某白人と交渉し、旅館の内部に於ける構造を改良して建築せしめ、而して現業を開始することを得たるは、甚だ巧妙の仕方にして氏の手腕の那邊に存するかは恐らく今後の發展を視されば評言する能はざるも、已に沙市日本料理組合の一人として重きを置かるゝも蓋し偶然にあらず、

原籍地 熊毛郡光井村字戸中

現住所 スポーケン

農 業 原田 佐市

明治三十六年十月布哇ホノル、一港に上陸し三十七年四月北米カリホルニヤ州桑港に轉じサクラメント地方に於て農事に従事する心算なりしが、更に思ふ所ありてワシントン州シャトル市に來りて同州スポーケン市に移り、着々其目的を遂行し居りたる際、偶々日露戦争を開始したれば氏は軍籍にあることゝて召集に應じ、歸國して歩兵第四十二聯隊に入隊し三十八年十二月凱旋して三十九年一月再渡航し、晚香坡を経由して北米に出て、ス市の附近にありて農事の事業に従事し居り、

原籍地 熊毛郡資積町

現住所 シャトル市南第五街三百八番

日本料理 海田 よね

電話イオンテ
A三一五九

明治三十六年四月北米ワシントン州シャトル市に上陸して以來、夫岩助氏の片腕とならんと思ひ、種々なる業務に就て選ぶ所ありしが、元來よね子は遊藝の道にも長じ、三絃に達し居りし所より、日本料理店を開業することに一決し、三十八年二月現住所に一戸を構へ「まねぎ」と名けて開業せるが、客の待遇と云ひ料理の仕方と云ひ好評を博し客足殊に宜しければ、州市に於ける料理屋中にありては屈指のものとなれり、

原籍地 熊毛郡資積町

現住所 シャトル市南第五街大坂ホテル内

時 計 海田 正人

明治三十六年四月北米ワシントン州シャトル市に上陸し、同年五月時計商を營みしは、氏が斯業に關する技術と経験を積み居りたる賜物と云ふべく、技術は孰れの地にありても、氏自身の特有なれば他の奮ふものとならず、之れ技術者の處世し易き故以なるべきか、最初ジャクソン街にありて岡澤氏と共に開始せしも同氏と分離して一個獨立者となり、現今は大坂ホテルにありて現業に従事し居れり、未だ少壯氣鋭の年輩なれば、羅針盤を的として成效を異日に求められんことを、

原籍地 熊毛郡室津港字本町

現住所 シャトル市

寫真師 上 繁 補介

明治三十三年四月北米ワシントン州シャトル市に上陸したるが、氏の研究せんとして渡米したる唯一の希望は寫真術にありしを以て、數ヶ年間の歲月を研究の爲めに利用し、技術の鍊磨するを待て、獨立業者たらんと決心し居りしが、技術の蘊奥に達するまでは斯業に關することを研究せんとの意志なれば、已に獨立者となるを得るにも拘はらず、今尙ほ白人寫真館に助手として、雇れ居れり、氏の如く熱心なれば自らの成效を期するに難からず、勉めよや、

原籍地 熊毛郡城南村河西

現住所 ノースヤキマ

木元 宇作

明治三十七年五月八日北米ワシントン州シャトルに上陸して、沙市に滞留すること一ケ年餘にして、同州ノールスヤキマに出て、貯蓄の道を辿り居れり、ヤキマの地は華州農産地の一として有望の土地なれば、將來に於けるヤキマの發達に伴ふて、自らの發展を得ることも又難しとせず、只奮勵の一事あるのみ、されば氏も大に愛に注目する所ありて胸中竊に畜ふ一段の春とも云ふべきか、ヤキマに於ける日本人團體たるヤキマ協和會の評議員として同胞に盡す所多し、

原籍地 熊毛郡光井村

現住所 スポーケン市

會社員

東谷松次郎

明治三十一年六月英領加奈陀ピクトリヤに上陸し、三十二年四月北米シャトルに轉じ、爾來東洋貿易會社の配下に屬して勞働に従事し、己に今日まで貯財したる金額も二千弗以上に達し、大北鐵道會社スポーケン市停車場内にて日本人の組長となりて精勵と勤勉は氏の特長なれば、東洋貿易會社にても氏の人となりを選びて、特に會社事務員に擧げられ、上下の信用最も厚し而も平民的にして洒々たる所は尤も氏の性格を代表する特點とも云ふべきか、獨身の身なれば幸運や必ず氏か頭上に落ん、

原籍地 熊毛郡上ヶ關村字長島

現住所 シャトル市ワシントン街百六十三番

理髮、洗濯、湯業 本村 嘉助

電話インデ A一五五六

明治三十四年十二月北米ワシントン州シャトル市に上陸し、自營者たらんとするか爲めに、資力を造ることの急務なるを感じ、白人の許にありて勞働に従事すること九ヶ月に及べり、而して獨立業を開始するの運びに至りしかば、三十六年五月現住所に於て、理髮を主とし、洗濯、西洋風呂をば兼業となして營業を始めたるに、日進月歩の勢を以て基礎を鞏固にし、今や進んで擴張の機に接せりとは、同氏の爲めに前途の幸運を卜するに足るものあり、

熊毛郡

上ノ關村

室津村

同

佐賀村

上ノ關村

大野村

高水村

城角村

佐賀村

岩田村

上關村

同

同

伊保村

積松原

同

三兵村

……

伊藤芳太郎

井上松之助

石田淺次郎

濱岡彌三郎

木村嘉助

富田寅吉

徳永春助

大本宇作

門好之助

河村與兵衛

片山鷹平

吉田傳四郎

吉田春一

横山阪次郎

要田清之進

高木菊次郎

高木慶助

田村宇一

田村仁作

| | |
|------|-------|
| 佐賀村 | 田福平作 |
| 田布施村 | 長末彦之進 |
| 佐賀村 | 梅田雄吉 |
| 麻郷村 | 植木房之進 |
| 平尾村 | 野村梅吉 |
| 上ノ関 | 山戸貞之助 |
| 室津村 | 山田精三 |
| 三兵村 | 山下馬吉 |
| 室積村 | 松福正一 |
| 佐賀村 | 松本太三郎 |
| 同 | 松永若松 |
| 同 | 福田右一 |
| 大野村 | 福永精一 |
| 田布施村 | 藤永好太郎 |
| 室積村 | 近藤豊五郎 |
| 同 | 近藤眞市 |
| …… | 國王寺要 |
| 佐賀村 | 櫻井十二郎 |
| 平生村 | 白片初治 |

原籍地 玖珂郡易宇村

現住所 スポーケン市

西浦傳二郎

明治三十八年五月北米ワシントン州シヤトル市に上陸し、直ちに東洋貿易會社の配下に屬してスポーケン支部の管轄内にありて、勞働者となりしも之れ一時の手段のみ、氏は北米に渡航する以前には布哇にありて貯財に従事し居られたるも、將來の發展上には北米の未墾地に入ることをして得策となし、奮勵一番北米に轉航したる一人也氏の爲めに寧ろ幸運の前兆とも視るべきか、目下貯財中にして獨立自營者と化するも又遠きにあらず、

原籍地 玖珂郡祖生村

現住所 スポーケン市

加藤介市

明治三十三年五月英領加奈陀ピクトリヤに上陸して、直ちに北米ワシントン州シヤトル市に出で貯財をすることを以て目的とし、貯財を得るの道は勞働を措いて他に適切のものなく、家内勞働は氏の欲せざる所なれば、野外の勞働に従事せんとして、各種の方面を選びしと雖も、別段の特長とすべき勞働なきを以て、鐵道勞働界に入りて、貯財の方法を立んとし、今日まで得たる金額も少なしとせず、氏も又自營者たらんか、又は然らざるを可とすべきや否やに至りては尙ほ考慮中なり、

原籍地 玖珂郡柳井町

現住所 スポーケン市

荒井隆助

明治三十六年三月北米ワシントン州シャトル市に渡航し、上陸後直ちにアイダホ州に入りて大北鐵道會社の勞働に従事すること一ケ年餘にして華州スポーケン市に出て、貯財を爲し得るまでは勞働界に身を處せんと決心し、勞働を變更するは貯財の道にあらざることを感知したれば從來の勞働を繼續してスポーケン支部の管轄にありて東洋貿易會社の配下に屬せり、貯財を爲す爲めには敢て勞働に上下なし、一日も早く其目的に進入せよ、

原籍地 玖珂郡柳井町

現住所 シャトル市南第五街三百八番

青木清太

明治三十九年七月北米ワシントン州シャトル市に上陸せしは、氏が第二回の渡航なりき、各種の勞働に従事して斯界を輸贏したる經驗もあることなれば、人情の裏面には精通し居らるゝ一人と云ふも不可なし、志は小なるにあらずと雖も、時運は屢々氏を利せざるは果して天道是か非乎、氏も又大に發展せんとして自ら練磨したる技術の一部を使用し居るに過ぎざるも、獨立自營者となりたらんには、氏の價值を上ぐることに於て與て力あらん、

原籍地 玖珂郡柳井津町

現住所 シヤグソン街浸禮教會

商會員

弘中竹三郎

北米ワシントン州シャトル市に上陸して五ケ年濃厚篤實にして虚榮を衒はず、其態度の規矩を失する所なきは少壯者に於て稀に觀る所自ら商業界に立たんとする意志なれば、此方面に關する事を研究するに怠らず、當初は學校生活を爲さんとせしが、當市に於ける金物商店に小僧となりて住み込み、熱心と勤勉を以て事務に忠實なれば、將來は有爲の一人として同商會より望を屬せられ居れり、氏は又基督教には熱心なる信者にして心の底に燃るが如き信仰を有するはデモ信者の比に非ず、

玖珂郡

- 玖珂村 井原政吉
- 同 井原政太郎
- 柳井町 伊藤富助
- 麻里布村 今中宇三郎
- 新庄村 地隅彌市
- 藤谷村 原田庄介
- 玖珂村 錦戸良一
- 藤河村 近重伊之助
- 愛宕村 沖田芳五郎
- 柳井津町 和田龜吉
- 除田村 川村秀藏
- 柳井村 川井宗一
- 中津村 米村傳藏
- 岩國町 米川龜三郎
- 高森村 吉田高三郎
- 同 高村道介
- 柳井村 高井房五郎
- 柳井町 田中要造
- 柳井町 常原友十郎

| | | |
|-------|----|------|
| 同 | 常原 | 愛宕村 |
| 柳井村 | 中原 | 和木村 |
| 愛宕村 | 中島 | 藤河村 |
| 藤河村 | 中川 | 岩國町 |
| 河内村 | 長田 | 藤河村 |
| 北河内村 | 村重 | 北江田村 |
| 麻里布村 | 村上 | 日積村 |
| 柳井津町 | 野村 | 愛宕村 |
| 柳井村 | 國元 | 同 |
| 余田村 | 國井 | 伊陸村 |
| 北河内村 | 國川 | |
| 同 | 國川 | |
| 愛宕村 | 山根 | |
| 柳井村 | 山下 | |
| 藤河村 | 牧島 | |
| 高森村 | 藤井 | |
| | 藤井 | |
| 新庄村 | 藤木 | |
| 通津村 | 古川 | |
| 古開作村 | 江藤 | |

坂本 修
佐伯 豊
木口 才
明田 兵
宮川 伊
廣中 二
廣重 幸
弘田 乙
鈴木 乙
末河 三

原籍地 吉敷郡

吉敷郡

現住所 ジャクソン街浸禮教會

學生 中尾 義人

北米ワシントン州シャトル市に上陸したる際は年少の一少年にして紅顔の少年なりき、左れど其意志強固なれば如何なる誘惑も氏の心を奪ふに足るものなし。スクールボーイとなりて小學校に通學し小學校を卒業して今やハイスクールにあり、進んで大學に入學するも今後三年を出でず、學校に通學の餘暇を以てジャクソン街浸禮教會内夜學校にて教鞭を執られ、自活の資となしつゝ、あり、氏は又熱心なる基督教信者にして、バプテスト派に屬す。

仁保村
小郡町
吉敷村
全
宮野村
山口町
小郡町
井關村
大内村
井關村
吉敷村
全
吉敷村
下東村
大道村
仁保村
井關村
宮野村

石川 友吉
岩田 良太郎
今田 金太郎
徳増 又藏
徳久 榮藏
河野 威太郎
兼重 宗七
金子 平助
金重 松五郎
竹下 秀吉
中野 喜一
中尾 寅藏
中川 龜吉
内田 里熊
内田 幸一
内田 助二
黒林 寅樅
松尾 嘉右門
藤井 作次郎

| | |
|-----|-------|
| 吉敷村 | 藤井九一郎 |
| 全 | 藤本忠次郎 |
| 全 | 小泉市太郎 |
| 大蔵村 | 三井梅吉 |
| 宮野村 | 平岡勘次郎 |
| 仁保村 | 須子勝平 |

原籍地 豊浦郡一ノ宮村

現住所 シヤトル市

武田清次郎

沙市に於けるものは同氏の姓名を知らぬものは稀
 れなり、氏は奇警の論調を以て新聞紙上にも又公
 開席上にも人をして首肯せしむること多し渡米前
 の同氏は郵船會社の事務員たりしか、渡米して
 以來は其心底に推積する希望を遂行すること能は
 ざるが爲めに稍々自暴の行動ありしも、蹴然自ら
 過去を悔ひ、劃策する所の事業は着々歩武を進め
 つゝありと聞けり、

公共団体としては山口縣人會の理事兼評議員とな
 り、縣人會報の如きは氏一個の手に依りて編纂せ
 らるゝものなりと云ふ、

豊浦郡

長府村
神山村
豊東前村

林 和 人
竹 田 國 一
山 田 末 松

山口縣 厚狹郡

原籍地 厚狹郡小野田町

現住所 シヤトル市華盛頓街五百十七番

二百五十八

裁縫師

木枝源次郎
同 義



明治三十三年三月北米ワシントン州シヤトル市に上陸するや、兎角財力を得んものと決心し、内助たる義子は白人の設立に拘はるゝ女物裁縫學校に入學し、研讀怠る所なかりしかば、首尾能く同校を卒業して、現住所にありて裁縫業を營み居れり、源次郎氏は白人商店に入りて目下勤務しつつあるも、時期を得るに伴れて、益々現業を擴張するの機に達すべく、暫く時運の潮流に乗ずる機会を睨ひ居るのみ、義子の勤勉と相列んで成效を期せんことを、

厚狹郡

厚東村
厚西村
小野田町
玉喜村

吉富半一
安部滿之進
大枝源次郎
清水勝一

山口縣 厚狹郡

二百五十九

原籍地 阿武郡萩町

現住所 ブルース

杉山千七

北米合衆國に渡航して三年、一度は朝鮮に足を踏み、韓土の風雲に浴し、將來の志望を遂行せんとしたるも、心機一轉、北米の天地に入りて一旗を翻さんと決心し、飄然として渡航し、蹴然立て思ひを學事に傾け、學校生活を爲して田舎の片隅に塾居し、進んで高等の學課を専究する用意を整へんが爲めに、一面には知己を以て獨立營業を爲さしめ、氏は其參謀となりて自ら其經營の衝に當りつゝあり、資本を蓄へて徐ろに前途の希望を達せんとす、其意や雄大にして其畫策や善なり、

阿武郡

萩町 全

太田藏造
御手洗省三

都濃郡

下松町

富岡村

東豊井村

大華村

……

徳山村

富田村

棟近源治郎

近間寒一

田丸三右工門

中山喜平

柳井俊助

山本信次郎

江波彌代藏

大津郡

日置村

全

仙崎町

三隅村

岡崎久太郎

岡村菊松

岡藤徳太郎

大島忠次

黒瀬和作

佐波郡

和田村

兼崎常定

福岡縣

移民の數に於ては熊本縣より少なきも、比較的成效を爲し居るもの多し、其團体的組織の上には一致共同の力強く、會員互に親睦なるは、一長所と云ふも不可なかるべし、商業上に於て、一頭地を凌駕する人士なしと雖も、國産的生活を營むものは、概して同縣人に多し、故に同縣下人が其歩調を一にするも又偶然ならざるべし、

農事に従事するものは同縣下人にして其數甚だ少數なり、僅に指を屈するに過ぎず

福岡慈善會は明治三十八年十一月五日の創立にして、目下基本金七百弗を有し、基礎又強固なり、今茲に同會の規則を掲げて一覽に供せん

福岡縣人慈善會規則

第一章 總則

第一條 本會は福岡縣人慈善會と稱し福岡縣に原籍を有するもの及び縁故ある者を以て組織す

第二條 本會は北米合衆國ワシントン州其他附近に於て汎く會員を網羅す

第三條 本會の事務所を北米合衆國シヤトル市に置き、時機により他市に支部を設置することあるべし

第四條 本會は専ら共護救済の方法により會員の共同的事業として一般慈善の行爲をなすを以て目的とす

第五條 本會は基本金、寄附金、入會金及び會費に依つて之を維持す

第六條 本會の基本金は會計之を保管し役員會の議決によりて費消することを要す

第七條 本會に關する一般の通知書はシヤトル市發刊の邦字新聞に掲載するによりて其効力を生ず但し直接通知の法を附加することを得

第二章 役員

第八條 本會に左の役員を置く

會長 一名 副會長 一名 幹事 一名 會計 一名 評議員 十名

第九條 會長は本會を代表し内外百般の會務を總轄處理し、副會長は會長を輔佐す、幹事は會長、副會長監督の下に本會の事務を掌る、會計は會長監督の下に本會資金の出納を掌り其帳簿一切を整理保存す

第十條 評議員は本會の樞機に參し理事者の諮問に與るものとす
但し此權限の執行は必ず役員會の議決に依る

第十一條 評議員、會長、副會長、會計は凡て名譽職とし、幹事は有給職とす

第十二條 役員會の發議は各理事者或は評議員三名以上の申出に依て臨時之を開き役員過半数の出席あつて議決権を行ふ

第十三條 總て役員會に於て議決執行したる事項に就ては役員聯帶責任の義務を有す、假令議決に加はらざる役員と雖も亦同じ

第十四條 役員の任期を一ケ年とし毎年十月を以て其改選期とす

第三章 會員

第十五條 本會員たらんと欲するものは本規則第一條に該當するものにして原籍氏名を明示して本會に届出づべし、退會の場合も亦同じ

第十六條 會員は入會金及び會費納付の義務を有す

第十七條 會員は入會に際し金一弗を納付すべし

第十八條 會員は毎月金二十五仙を納付すべし

第十九條 會員は本會慈善の主旨に依り不時の疾病窮厄に際し保護救助を受くることを得

第四章 總會

第二十條 總會を通常總會、臨時總會に分つ、通常總會は毎年一月、四月、七月、十月の四期に開き、臨時總會は臨時の必要に應じて之を開く

第二十一條 通常總會は事務報告、役員の選舉、基本金費消の事後承諾其他必要の事項に關し協議決定す

第二十二條 臨時總會は理事者、評議員三名以上若くはシャトル市在住の會員十五以上の請求によりて之を開く

第二十三條 役員の改選は毎年十月の通常總會に於て之を行ふ、但し再選を妨げず

第二十四條 役員が已を得ざる事情により辭任し又を死亡したる場合の補欠選舉は通常總會又は臨時總會を開きて行ふ

第二十五條 總會に於て役員に當選したるものは直ちに互選の上理事者及評議員たるものを定むべし

第二十六條 總會の議決はシャトル市在住會員過半数の出席による多數決にて確定す

第二十七條 本會の擴張其他規則の變更、解散に關する事項は總會の議決によるものとす

第五章 罰則

第二十八條 本會員にして本會の體面を毀損する行爲ありたる時は總會の議決により除名の處分をなす

北米合衆國ワシントン州シャトル市デヤボン街六百六十四番

福岡縣人慈善會

會長
副會長
幹事
會計
評議員

菊竹經義
國永正臣
深野利一郎
緒方倉吉
武井達夫
中村伊勢吉
原權衛
原田安太郎
中川福太郎
田淵増市
權藤宗吉
山田佐太郎
中川作藏
白川新太郎

原籍地 福岡市大乘寺前町

現住所 シヤトル市ハンソンホテル内

學生 福田六右工門

明治三十九年八月北米華頓州シヤトル市に上陸するや否や、スクールボーイと爲りてバシフキツク小學校に通學し、只管學事と勉勵しつゝあるは勿論、知らぬ都で、學僕を爲し、學校生活を送るは尋常一様のことにあらず、有ゆる辛慘と戦ひ、堅忍不拔の氣力を以て前進するは、氏が覺悟と決心のある所と思へば、前途多大の望を囑せざるを得ず、學事の餘暇を利用し、身に鍊へたる柔道を以て河野顯威氏の道場にありて柔道を教授し、學費を補ふの一となせり、前途の爲めに奮勵怠る勿れ

福岡市

因幡町

箕形龜吉

原籍地 筑上郡角田村字上ノ川

現住所 ベリントン街千二百五番

支那料理

森 千代 造

電話ブラック二七五六

明治二十九年英領加奈陀晚香坡に上陸して約二ヶ年同地に滞在し、三十一年十二月北米タコマ市に出で、西洋料理店を開業し、三十四年十月郷里福岡縣に歸省して家事を整理し三十六年再渡米して一時はシヤトル市にて西洋風呂を開業せしが、更に思ふ所ありて同業を廢止し、三十八年ベリントンハムに至りて支那料理店を開業し、令弟作藏氏も専ら力を合せて従事したれば業務大に繁昌を來たし、氏は別れて現住所に開店したり、同氏等の成効は今後に發展すべし



原籍地 筑上郡椎田町

現住所 ノースヤキマ

岩武吉之助

明治三十三年二月北米ワシントン州シヤトル市に上陸するや、直ちに田舎に這りて貯財に従事せんと決心し、シヤトルを去りてノースヤキマに到れり、爾來同所を中心として此附近に於ける勞働に従事し、貯財の二字をば念頭に刻み、一日の休養を得ずして勤勞怠たらざりしが故に、昨今に至りては已に獨立自營者たるを得るは容易の業なりと雖も、少しく前途の方針上其自營者たることを躊躇し居れり、されど氏が胸中に蓄へ居らるゝ銳氣は將に現實となりて社會に現はれんとす、自營の日又近きにあらん、

原籍地 筑上郡八津田村

現住所 シヤトル市第六街五百十番

原田安太郎

同 フジ

明治三十六年六月北米ワシントン州シヤトル市に上陸し、内助ふじ子は良人安太郎氏を助けて共に前途に發展せんものと決心し、數千里の波浪を超えて異境の空にて苦勞するは只幸福を開拓するにあるの外他に何物もあるにあらざれば、氏は西洋人の商賈に雇はれ、目下貯財中なるも、二人の力は以て獨立業を營むの機に接するは近きにあるが如し、單獨にして渡航せしものは比較的成効するもの少なきも眞面目なる夫婦には成効者多し、願くは成効者たれ、

原籍地 筑上郡椎田町

現住所 シヤトル市第六街五百十番

中村伊勢太郎

男子空しく郷土に蟄居すべきにあらず、人間到る所に青山ありと、勃々たる志は押へ難く、須らく海外に航して身を立てんと決心し、各種の方面を調べて、先づ北米に渡航することを得策となし、明治三十六年四月北米ワシントン州シヤトル市に渡航したり、上陸後は語學の必要にも迫られ且つ財力を貯蓄せざれば、其志す所に向て進み難きを自營し、爾來白人の商店に雇はれ、氏が目的の一步／＼を履行しつゝ、獨立業者たらんとするも又近きに有らん、自重自愛せよ、

原籍地 筑上郡黒土村

現住所 タコマ市

楠本與市

他人の成功を聞き、北米に於ける有利的仕事の多々あることを語られて、渡米せんものと志し渡米後は何事たりとも、其職業を求めて宿昔の志を果さんと決心し、渡米後身を勞働界に投じて、只管資力を蓄ふることに従事し、タコマ市に於ける製材會社に入りて勞働に従ひ、貯財と勤勉を以て、前途の運命を開拓せんとして、日夕怠る所なし、異郷の空にて成功するものは、少なくとも十年の歲月を要し、氏は十年計劃を立て、歩一步と希望の存する所に進入しつゝあり、自營も可、貯財も可、

原籍地 筑上郡下城井村

現住所 ベリングナム、シー街

藏内宗藏

明治三十四年四月英領加奈陀ピクトリヤに上陸し晚香坡市にて一ケ年間滞在して、北米ワシントン州ベリングナムに轉じ、一時身を勞働に寄せ、貯財を得るにあらざれば何事も成し難きを自覺し、且つ氏は農業を營まんとする計劃にて益々劃策する所ありしも、小資本にては好結果を収め難きことを見知り居るが故に、未だ農事に進入するに至らずと雖も、適當の機會に遭へば氏が宿望に着手せんものとして、専ら其方面に關する事柄を取調べ居れり、努めて其素志を貫徹せられたし、

原籍地 筑上郡東角田村

現住所 スポーケン市

藤田九市

明治三十三年英領加奈陀晚香坡に上陸し約一ケ年同地に滞在して、北米ワシントン州シヤトル市に轉じ、勞働を以て立身の基礎を確立せんと欲して、勞働界に入りしが、何種の仕事も同一なれば、東洋貿易會社の請負に拘はる 大北鐵道に入り、モンタナ州ハーバーにて五ケ年の勞苦を忍耐し、一意怠る所なかりしを以て、貯財も出來得たれば、更に華州に歸りてスポーケン支部の管轄に屬して奮闘を繼續し居れり、猥りに其聲を大にするよりは他の知らぬ裡に成功を得べきは氏の如き行動を取る人々に多し、

同 同 同
 黒土村
 椎田町
 山田村
 西角田村
 椎田町
 葛城村
 下城井村
 角田村
 椎田町
 葛城村
 同
 西角田村
 同
 高城村
 椎田町
 角田村
 同

神下五市
 神下喜代三
 龜田龍藏
 吉水寅彦
 立石健平
 田中庄之助
 園山喜六
 中野安太郎
 中川作藏
 中幸次郎
 矢鳴喜代松
 安永國太郎
 山田佐太郎
 松村秋太郎
 松本七藏
 松本常三郎
 松田福藏
 前田音吉
 坂本作太郎
 安部長太郎

上城井村
 三毛門村
 西角田村
 八津田村
 同
 同
 築城村
 西角田村
 西角田村
 葛城村
 同
 下城井村
 同
 筑上村

佐野六助
 北崎初次郎
 弓野佐吉
 宮本富三
 篠田三太郎
 鹽田淺吉
 鹽田盛藏
 平野勘次
 森節治
 榎本藤太郎
 進傳治
 須山逸作
 須山市郎
 杉村丹次

原籍地 三井郡宮ノ陣村

現住所 シヤトル市ウ、エスラウエー街八十二番

理 髮

緒 方 倉 吉 妻 帯

電話インデク一〇二五



明治三十三年十月英領加奈陀ビクトリヤに上陸して、直ちに北米ワシントン州シヤトル市に轉じ、自營者たらんとするに先づ資力を造ることの急務を自覺し、白人の許にて一個の雇人と爲りしが、元來忍耐強き氏のことなれば、窃に時期の到來を窺ひ居れり、二ケ年間の歲月をば資本を得る爲めに費し、三十五年一月に至りて同輩權藤宗吉氏と共同して現住所に理髮を開業せり、自營者として同胞間内に知られしは、即ち此時より始まり、創業の際には寢食を忘れて業務に熱中し、力を一にして精勵怠たらざるより、數年ならずして成効者の一となれり、東郷ホテルを買ひしは只看板たるに過ぎざれば之を譲り渡し、専ら理髮を業となし居れり、目下は伊海孝吉氏と共同事業と爲し、月收數百弗以上に達せり、公共團體員として同縣人會の會計を爲し居るを見ても其性格を判するに足る。

福岡縣 三井郡

二百七十六

原籍地 三井郡宮ノ陳村

現住所 シヤトル市ツ、メーン街八十四番

理 髮

權 藤 宗 吉 妻 帯

電話インデク二七四八



明治三十三年一月北米ワシントン市タコマ市に上陸し、三十五年一月緒方倉吉氏と共同して理髮店を開業するまでは、資力を蓄ふることに従事せり、一度時機の到来に遭ふて、奮然燃起し意氣を同じくする緒方氏と謀りて、理髮を開業し、一步を進め、二歩を歩み、苦難と闘ふて遂に勝利を博し、数年ならずして、成効の道程に入れり、所謂忍耐勉勵の然らしむる所と雖も、共同の効果又與て力ありもの、今や分離して現住所にて營業を爲し居るのみならず、三十九年に至りて、コロンビヤ街の白人理髮店を買收し、自ら主人となりて白人を使用し居れり、其手腕の鋭きこと鋭鋒當るべからざるものあり、緒方氏と共に三井郡出身者の成効者と云ふも不可なし、公共團體員としては同縣人會の評議員たり、

原籍地 三井郡櫛原村字櫛原

現住所 シヤトル市デヤボン街六百六十六番

請負、旅館

菊 竹 經 義

電話メーデン四五九四
インデクA二四八〇

福岡縣慈善會の會長として、直接及間接に同會の爲めに盡瘁すること一方ならず、同縣下人の先輩者と仰がれ、氏の恩恵に浴するものも亦多しと聞けり、寧ろ表面に立ちて、三軍を指揮するよりは、謀を帷幄に廻らし、部下を願使するの智謀に至りては、恐く同業者間の中において一城壁を築きつゝありと云ふも、又失常なりと云ふこと能はず、然り、同氏の器は已に平凡ならず、其發展も又當然の結果にして、白人間にも少なからぬ信用を持續し、其毎年請負に關する銚鑑詰業の人夫の如きは、氏の全力を傾注する事業の一にして、旅館は恐く只一の看板に過ぎず、

二十九年オレゴン州ポートランドに上陸して、シヤトル市に轉じたるは三十年の年なりき、爾來汲々として奮勵甚だ努むる所ありしのみならず、元來奮闘的氣力に富み居る同氏のことなれば、一度志を決すれば泰山の如き慨あり、儼に他を指揮し抑壓し、威壓するの量あらん、氏が一大成効者と仰がるゝの日は、前途尙ほ遙かなるべしと雖も、齡未だ四十に満たざる少壯の時代なれば、今後の發展こそ、恐く囑望するに足るものあらん、

原籍地 三井郡櫛原村字櫛原

現住所 シャトル市南第五街百十六番

西洋洗濯

櫛橋作太郎

電話インデ
八八二

明治三十五年五月北米ワシントン州シャトル市に上陸するや、直ちに労働界に身を寄せ、各種の労働に従事して、労働界の事情にも精通するに至りしを以て、ハツプス、ケヤナリー等の労働者を請負し其他農事に關することも取調べたりしが、寧ろ他の仕事に従事するを得策なりと信じて、三十八年三月より現住所に於て西洋洗濯業を開始し、最初の間は頗る苦闘なりしと雖も、忍耐の力は其効を奏し倍々順境に向はしめたる手腕は又尋常のものとは其趣きを異にせり、

原籍地 三井郡三原村字古飯村

現住所 シャトル市南第六街五百十七番

大工職

樋口民吉

海外に渡航するものは何種の業務たるを問はず同胞の増加するに伴れて各方面の仕事に着手することを得べし、大工職の如きは即ち其一なりと云ふて可也、シャトル市にありて大工職を業とするは、其數甚だ少なし恐く氏を以て嚆矢とせん、氏は三十六年十一月北米ワシントン州シャトル市に來りしが三十五年布哇に渡航したる一人にて、北米の天地は有利なるを信じ轉航せしものなり、氏が業務の如きは同胞の發展と共に繁忙を極むるのみなれば、將來の有望なることは、誰人も是認する所、須らく幸運なれ、

三井郡

大橋村
金島村
上津荒木村
味坂村
善導寺村
金島村
合川村
同
善導寺村
合川村
宮ノ陣村
金島村
御宮村
大橋村
金島村
福堂村
大郡
……
合川村

原庄造
橋本貞平
馬場作太郎
大 中 幸 平
渡 邊 幾 太
四ヶ所 又太郎
吉 田 喜 一
吉田安太郎
高木國太郎
辻 喜次郎
野 村 兼 吉
野瀬竹太郎
山下光太郎
益永順太郎
古賀市太郎
赤坂糸太郎
赤坂伊吉
菊竹義隆
柴田行之助

弓削村
本郷村
御原村
宮ノ陣村
大橋村
太刀洗村
同
金島村
宮ノ陣村

光益末吉
廣瀬五郎市
樋口民吉
樋口繁太郎
平田松太郎
平田市藏
平田俊雄
元石茂次郎
森山仁平

原籍地 朝倉郡久喜宮町字古賀
現住所 タコマ市シー街

飲食店

武田 由 太 郎



明治三十二年布哇に渡航し、七ヶ年の星霜を同地にて経過し、今日までに得たる金額も少なからざるときか、氏は郷里にありしときは角力取の一人なれば其骨格の逞しきこと、且つ力の強き爲め、白人も氏には一步を譲り居ると聞けり、従て勞働界に入りても常に普通人より倍額の賃金を受け居られたりしが、何時まで勞働者と爲り居らるべきにあらずとなし、三十八年五月北米シヤトル市に轉航し、タコマ市に至りて現業を開業し、自らの成效を企圖し居れり、勉めて幸福の一人となかれたし、

原籍地 朝倉郡三益村字荷原
現住所 アナコート

請 負

坂 本 友 吉



明治三十二年十二月英領加奈陀晚香坡に渡航して、伐木業に従事し、幾多の辛慘を嘗めて數百弗の金額を造り、更に北米シヤトルに轉じたるは三十三年なりき、爾來アナコートの漁業會社に勤續すること三ヶ年にして資本を造り、シヤトルに歸りて雜貨を業とせしも、不幸にして利あらず、爲めに閉店して再びアナコートに歸りて事業の再興を期し益々思想を堅固ならしめ辛慘と逆境に遭ふて志鐵石の如く奮然として希望の光明を認むるの勇氣は又凡庸にあらず、同所にありて勞働者を請負ひ且つ監督の任に當りて益々向上的態度を執り、他に接して親切温良なるは、異日氏が成效するに足る資質を具備すると云ふも不可ならず、天は必氏が勤勉に對して應酬する所あらん、努めよや、

原籍地 朝倉郡馬田村

現住所 シヤトル市第一街二千百十七番

武井 達夫

電話インデ
L四二七九

抜目なき所は長所なり、

忍耐強きは尋常一様にあらず、

未だ成効者ではなし、左れど、成効者たらん實業

に歩を進めて洗濯業を隊始し、更に第一街二千百

十七番へ

理髪、玉突を開業せり、

福岡郡懸慈善會の役員として、同會の爲めに盡す

所多し、

沙市に於ける青年團體の甲辰會幹事ともなりて、

此間に盡せし所少なしとせず、又以て同胞間の一

異彩ならん、

朝倉郡

- | | |
|-------|-----------|
| 蟻城村 | 井上敬太郎 |
| 安野村 | 石橋伊之吉 |
| | 原田金太郎 |
| | 西依松太郎 |
| 馬田村 | (學生) 綿貫豊治 |
| 大三輪村 | 内堀寅吉 |
| 馬田村 | 草場末吉 |
| 全 | 草場半四郎 |
| 三根村 | 柳岩太郎 |
| 中津屋村 | 牧安太郎 |
| 栗田村 | 松尾鶴吉 |
| 全 | 藤井淺次郎 |
| 中津屋村 | 福本八五郎 |
| 宮野村 | 古賀眞馬 |
| 福田村 | 小島稻吉 |
| 三根村 | 近藤清五郎 |
| 高木村 | 手島年吉 |
| 田良松 | 篠崎彦三郎 |

原籍地 浮羽郡柴刈村

現住所 タコマ市三十一街二千九百五番

農業

大内田 久夫



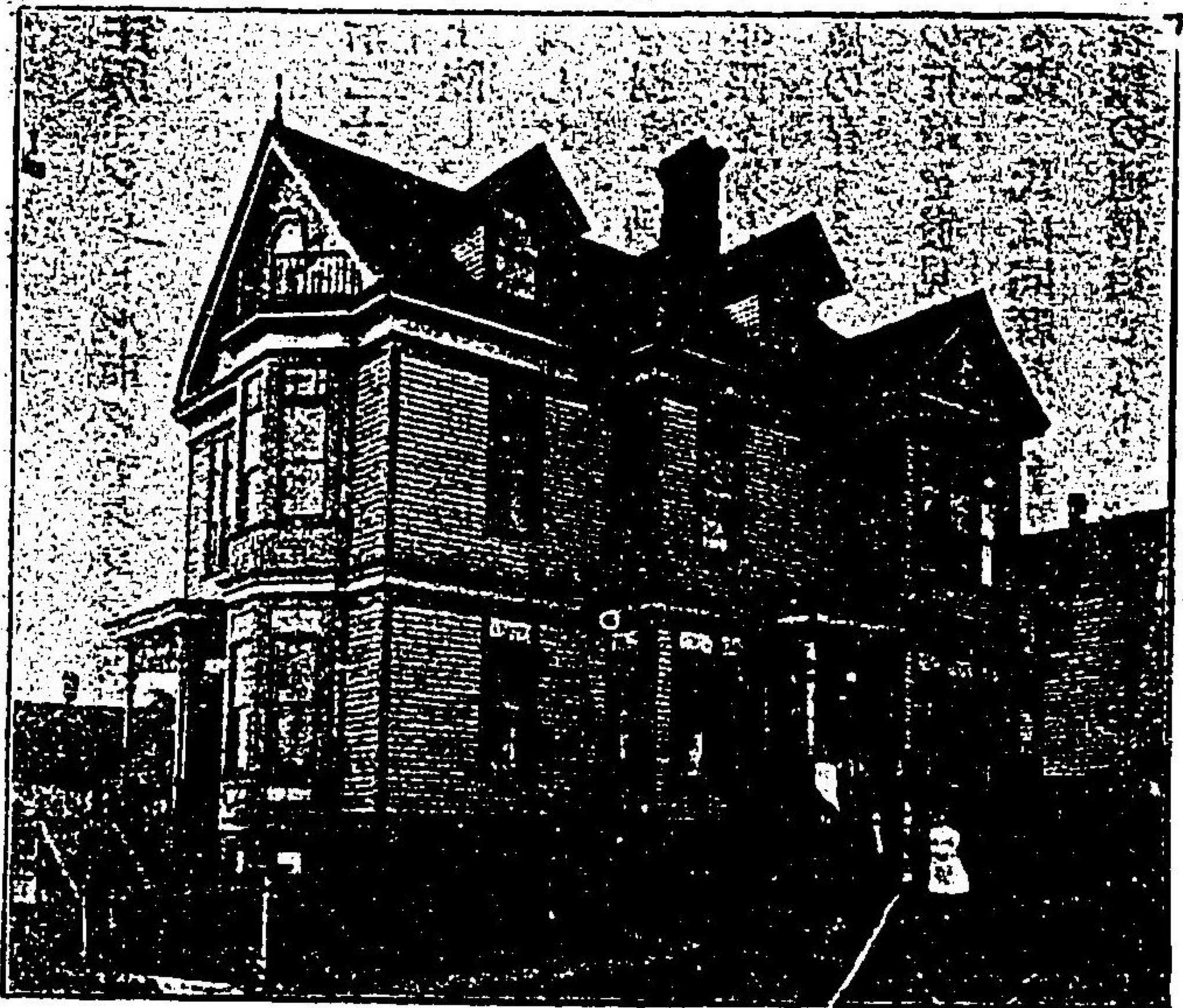
明治三十六年三月横濱より布哇に渡航し、内助と共力して、同所に於て農業に従事し、榴風沐雨の裡に處して、困難と戦ひ、野菜を耕作し其收益數百弗に達し、前途好望の事業を得たれば、益々内助と力を一にして、幸運を企圖し居りたる際、不幸にも内助は病魔の犯す所となりて、遂に白玉樓中の人と化しぬ、恰も左翼を失したるも同然なれば、氏の落膽も又一方ならず、されど男子一度郷關を出で、自ら成効者と成らすんば、郷里に歸ることを爲さずと決し、更に三十八年七月北米ワシントン州タコマ市に轉じ、従前の事業たる農事に心を入れ、多大の希望を持して、發展せんとしつゝあり、妻を喪ひて心は孤獨なるべきも、幽明の裡、天上より聲あらん、曰はく成効せよ、

福岡縣 浮羽郡

竹野村
吉井村
福富村
船越村
全
柴刈村
竹野村
福本村
柴刈村

井上 實
石井和三郎
石井佐八
田中久三郎
田中倉次郎
永松太助
古賀重吉
江口與三郎
淺田甚二
相良藤四郎
志鶴新吉

原籍也 三漕郡青木村字江島
現住所 シヤトル市南第七街四百十七番



請負兼料理 運 輪 岩 雄

電話インデX二七五八

明治三十三年六月北米シヤトル市に渡航し、何事にも抜目なく敏速に立廻るは、氏が特長の一ならん、三十五年シヤトル市メーン街に於て請負業に關する事務所を設け、中々の繁昌なりしが、更に三十九年五月日本料理店を譲り受け、華客の氣受け宜し、
圖に示したるは料理店なるも八字髪を蓄へ停立するは即ち運輪氏なり、氏の運命は恐く今後に於て開展すべし、
福岡慈善會の評議員となりて同縣下の人々の間に盡す所多し、

原籍地 三潞郡三潞村字高三潞

現住所 シャトル市ジャクソン街七百十番

深野利一郎

明治三十八年十一月北米ワシントン州シャトル市に上陸し、商業學上研究の爲め、一度は學校生活を爲したるも、何事も資力の伴ふにあらざれば、腰を据えて勉學すること能はざるを自覺し、一定の年限を期して、學資の蓄積に従事せしは、蓋し思慮の存する所、齡二十一歳、風雲に乗じて、處世の行路を發見するも又將來にあらん、多望の身なる哉、氏は同縣慈善會の幹事となり、且つ加奈陀新報の通信員となり、傍ら金儲の仕事に従事し居るが故に、身に寸暇もあるなし、通れの人物と爲られんことを期待す、

三潞郡

- | | |
|------|---------|
| 大川町 | 鐘ヶ江 虎五郎 |
| 大善寺村 | 津留崎與市 |
| 青木村 | 吉武久太郎 |
| 大溝村 | 中島卯三郎 |
| 安武村 | 古賀新太郎 |
| 大塚村 | 酒見 徳藏 |
| 鳥飼村 | 執行次三郎 |
| 全 | 執行久吉 |

原籍地 三潞郡大牟田橋口町

現住所 スポーケン市東洋貿易會社支部

會社員

上野政次郎

P. O. Box. 一八四二

明治三十一年七月北米ワシントン州シャトル市に上陸して、スクールボーイとなりてタコマ市に於て勉學すること二ケ年間に及べり、三十三年シャトル市東洋貿易會社の事務員となりて、モンタナ州ハーバー支部にて勤績すること二ケ年なりしが、一ケ年間は同所支部長として敏腕を振ひ、三十六年九月郷里福岡縣に歸省し、七ヶ月間故山の風光に沐して、舊情を温め、新郎となりて三十七年四月再渡米せり、一度は獨立自營者の仲間入りを爲して、蓄積したる金額も二千弗餘に達し、新日本新聞社の事務支配人として、同社の爲めにも盡瘁する所多かりしが、不幸にして時運利あらず、同社を退くに當りて、又自家の投じたる財力を恢復すること能はざりき、次て東洋貿易會社に身を寄せ本社詰となりてシャトル市に居住し居りたるが三十九年一月スポーケン支部長に轉じ、同支部の管轄人夫八百名を統轄し、同社の爲めに盡する所蓋し尠少にあらず、氏は齡未だ二十七才なれば、新進の氣力は胸中に充満し、前途多大の發展を爲すこと、思はる、氏の性格は温順にして健、寧ろ圓滿なる所に一種の長所ありと云ふを得べく、才略を弄するの質にあらずして、正實勤勉と言行一致は氏の特質なり、

三池郡

大牟田町 竹原延次郎
同 田邊運藏
上内村 佐藤景次

原籍地 企救郡

現住所 シャトル市

學生 濱田時七郎

明治三十八年九月北米華頓盛州シャトル市に渡航し、渡航の目的たる學事研究の爲めに、豈に一日を空費するの餘裕あらんや、而も南山に虎を縛するの勇氣と奮闘的氣力は益々艱難に處して、只鋭鋒を現はすのみ、グランマスクールに通學し、更に三十九年九月よりフランクリンスクールに入學して、勉學怠る所なし、近時日本より渡米するもの、中には、學生の僞看板を裝ふて渡米する連中少なからず、努めて渡米の本旨を失ふことなく、當初の志を永久に持續して、其志望を貫徹せよ。

企救郡

芝津村
同 城野村

松井 收
宮崎 弘道
宮崎 再次郎

原籍地 鞍手郡頓野村字上頓野

現住所 スポーケン市

安田市三郎

海外に渡航して一事を爲さんとする志望は湧然として胸中を徘徊し、遂に渡米の目的を達することを得て、去る明治三十九年二月北米ワシントン州シヤトル市に上陸せり、空拳にして渡米したることなれば、先づ貯財を得るに努力せんと思推し、彼れ此れの勞働を厭ふべきに非されば何事にても貯財の出來得る仕事に従事せんとして、鐵道界に身を委ね一時の手段を講じ居れるが、可然時期を得て一個の獨立業者たらんと、意氣頗る盛んなれば前途の方針を誤るなくんば成効自ら手中に歸せん、只奮發あるのみ、

鞍手郡

頓野村

古月村

若宮村

安田市三郎

日高三太郎

森田秀雄

籍原地 宗像郡下郷村

現住所 スポーケン市

瀧口常七

明治三十八年北米ワシントン州シヤトル市に上陸して、専ら貯財に心を傾け、節約と忍耐を以て、金儲の手段と爲し、一角の資力を造りて自營者たらんと決心し、資力を造るの第一着手として、東洋貿易會社の配下に屬して、スポーケン支部の管轄の許にて、大北鐵道會社所屬の勞働に従事し、一意専心、運命の開拓者たらんとす、勉めて捲まざれば、何事も出來得ざるものあらん、精神一到は成効の秘訣のみ、他に成効の道とてはなし、克己は成効の母、

宗像郡

下西郷村

吉武村

竹中爲吉

山下謙次

原籍地 京都郡今元村

現住所 シヤトル市南第四街三百八番

イースタン、ホテル内第九第十號室

齒科醫 國 永正臣

電話A四七九一

明治三十六年北米加州に上陸して、ロースアンジ
エルスにて、齒科を開業すること二ケ年にして、
三十八年八月盛華頓州シヤトル市に轉じ、開業の
餘暇を以て斯學に關することを研究し居れり氏は
故國にありては齒科を専門と爲し、内務省の試験
には合格せしが、學理と實際の蘊奥を究めんとし
て、渡米せらる、
公共團體にありては同縣慈善會の副會長に推さ
れ、此間に處して盡すところ多しと聞けり。

原籍地 京都郡仲津村字稻童

現住所 スポーケン市

廣門安太郎

明治三十四年三月北米オレゴン州ポートランド市
に上陸し、一意以て蓄財に従事せんものと決心し、
三ヶ年の星霜をば同州に在りて勤勞に費し、三十
七年三月一轉してモンタナ州ミゾラに出で、北太
平洋鐵道會社の勞働に従事して、精勵怠る所なく、
郷里を出でしときの覺悟と決心は氏をして益々其
志を堅固ならしめ身は勞働界に有りと雖も、志は
自營にあり、未だ自營者たらざる故以のものは、只
其れ時期の問題のみ、三十九年スポーケンに出で、
大北鐵道會社所屬の日本人組長となりて、勉勵の
聲高し、

京都郡

節九村 同 城井村 今川村 前田村 仲津村 同 萩郷村 白川村 同 節九村 白川村 同 棒市村 今川村 伊良村 仲津村 萩郷村 白川村

緒方政平 池田信亮 石部元平 伊藤省次 井田勝市 原田權六 原田定市 早田半樾 早田與之助 龍王平太郎 尾形作太郎 尾形與市 尾畑辰治 岡村彦三郎 川下唯助 神崎岩平 吉田庄藏 吉武庄太郎

伊良原村 棒市村 仲津村 今本村 仲津村 前原村 前田村 今川村 東犀川村 仲津村 今川村 市丸村 泉村 延永村 仲津村 前田村

沼彦吾永 中住市太郎 向井竹次郎 氏本仲藏 矢津田孫造 小金丸駒吉 手塚彌太郎 安藤勇太郎 青木庄太郎 貴戸重次 宮原五郎一 白川常次郎 白川常次郎 定野才二郎 城戸源六 森下新太郎 鈴木朝次郎

原籍地 糸島郡深江村深江宮小路

現住所 スポーケン

淀川初太郎

明治三十八年五月一日北米ワシントン州シヤトル市に上陸し、僅に三日間にして、直ちにモンタナ州ホワイトアイシユなる山間の小邑地に馳りて鐵道勞道に従事し、一ケ年の歳月をば山間溪谷に入りて若闘し、節約を主としたれば一ケ年にして數百弗の貯財を爲すことを得たり、三十九年四月同地を去りスポーケン支部の管下に屬して東洋貿易會社の請負に拘はる大北鐵道會社の器械工場にて勤務しつゝ貯財に従事し居れり、目下一ケ月の收入六十弗以上を算し居らる

糸島郡

前原村

全町

一貴山村

………

怡土村

長原村

雷山村

阿也村

怡土村

全

全

前原町

西長七

友池熊吉

田中馬吉

内田新吾

山崎伊勢吉

山崎桃吉

山本重二郎

馬場松太郎

古藤龜吉

古藤藤次郎

古藤惣平

重富吉太郎

原籍地 筑紫郡山口村

現住所 スポーケン市

森實助 太郎

明治三十五年布哇に渡航して、同地に滞留すること約三ケ年間に及べり、三十八年五月北米ワシントン州シヤトル市に轉航したり、爾來勞働界に入りて、熱心に勤勉し、東洋貿易會社の配下に屬して、スポーケン支部の管轄内にありて大北鐵道會社所屬の勞働に従事し、當初郷里を辭せしときに、尙に心に期したる希望をして、現實たらしめんものと思ひ、營々として一日も怠る所なし、成效は只勤勉の結果にありと云ふを得べし、勉めて倦まざれ、而して彼岸に達せよ。

筑紫郡

三宅村

長沼淺吉

原籍地 福岡縣

現住所 シヤトル市第四街千四百十九番

染物會社日本人部主任

政本健一郎

電話インデク二四九三



明治二十七年渡米後はスクールボーイとなりて小學校に通學し、語學の素養と會話にも熟達したれば、三十四年一機會を得て、當地第四街にて染物を營業とするパマトリヤム會社に入り、熱心と勤勉を以て、職務の爲めに忠實に勤勞せしかば、同會社長も大に氏の性格に就て、信任を置き、遂に日本人部主任と爲りて、専ら同胞間の注文に應じ居りたるが、三十九年に至りて、同會社長は日本人部を擴張して、同氏の許に八名の日本人を附屬せしめて業務を擔當せしめたり益々進んで得意ならんとするに際會し、氏が手腕を振ふべき時代も又近き將來にあらん、自重自愛せよ、

小倉市

室町
鑄物町

川波管太郎
松本福次郎

洞北村
全

立花光五郎

立花友平

高崎壽一郎

高崎廣吉

田中勇

添田壽太郎

永富貞松

丸井齡吉

舟津芳松

久留米市

京町
日吉町

西村茂
原樵衛
堀江義茲

島門村
岡縣村
島門村
底井野村
島内村
底井野村

中立町

博多市

亦星休市

嘉穂郡

伊藤正太郎

入江菊太郎

穂坂音五郎

岡本鹿太郎

田中與助

青柳徳太郎

弓削長太郎

篠崎萬吉

新町

門司市

津田虎藏

千手村

大分村

桂川村

内野村

穂波村

桂川村

穂波村

遠賀郡

底井野村
岡縣村
上津坂村

花田權藏
太田代次郎
吉武太郎

福岡縣

小倉市 久留米市 博多市

門司市 遠賀郡 嘉穂郡

福岡縣

山門郡、糟屋郡、八女郡、早良郡、下淺倉郡、川内郡、仲都郡

二百九十八

山門郡

下淺倉郡

富原村

築地原幾次

番多村

國松伊勢吉

柳河町

中村眞一

内川郡

糟屋郡

赤村

上野龜太郎

小野村

薄丈五郎

仲都郡

篠栗村

安武徳右衛門

仲津村

貴戸力太郎

立花村

有隅與會吉

同

阿部貞吉

八女郡

星野村

原口爲藏

北川内村

西木市太郎

……

大久保龜太郎

下廣川村

渡邊初次

早良郡

植井川村

鶴田松左工門

同

村田恒太郎

神奈川縣

同縣下より渡米したる人々の多數は悉く商業に従事し、且つ西北部地方に於て、成効者と目せらるゝ地位にあり、故に西北部に於ける同胞が商業上に従事したる經歷は即ち同地方の同胞間の商業史の代用とならん、而も同縣下の多數の人々は横濱在住者なりしも、又當然の事態と云はざるを得ず、同縣下に屬する人々の中にありて古屋政次郎氏は山梨縣の出身にして神奈川縣に轉籍せし一人なり同縣人會は基礎鞏固にして、基本財産にも富み居るは、各縣人會中第一位ならん、縣人會の重なる役員は古屋政次郎氏、平出倉之助氏、柴田辰三郎、同卯之助、金子留五郎氏等にして、他縣人會と異なる所は、寧ろ實業者の團體と見るも亦不可ならず、

神奈川縣 横濱市

三百

原籍地 横濱市元町四丁目百三十九番地

現住所 シヤトル市エスラウエー街八一三番

裁縫業

金子 壽 佐 吉

電話インデA三八二二

三十一年五月シヤトル上陸、氏は一箇の裁縫業者として成功すべく決心せり、而して其の全力を傾注し遂に一個の獨立商店となりて現はれ氏は其の巧妙なる技備を揮つて之が經營の任に當り、今日にては内外多數の買客を得、店務繁忙となれり成功せる氏の得意を羨むるを止めよ、氏は只自己の手腕を以て自己の運命を開拓せしのみ、其の勇氣と其奮闘は氏が今日あるに至りし唯一の武器也、幸に自重自愛する所あれ、



原籍地

横濱市常盤町四丁目四十六番地

現住所

シヤトル市ノーナード街五百十八番半

琴三絃師

横溝 卯 之 助

電話インデR一六〇七

明治三十一年四月シヤトル港上陸、其の後氏は白人の商店に勤務し其傍ら琴三絃の販賣に従事せしが、副業の方が益々盛大に赴きたるを以て、商店を辭し、専ら日本樂器の製造販賣に従事せられつゝあり、目下商號菊岡と稱し、店務日々に繁昌せり、即ち同市には斯る業務の比類少きと、氏が製造の技備及店務經營の方法宜しきに叶ひたるが爲めのみ、而して又第一着に斯業に着手せしも又同氏なるべく率先して之に従事せし勇氣は茲真似の出來難き所其業務の成效を企圖せられたし、



神奈川縣 横濱市

三百一

神奈川県 横浜市

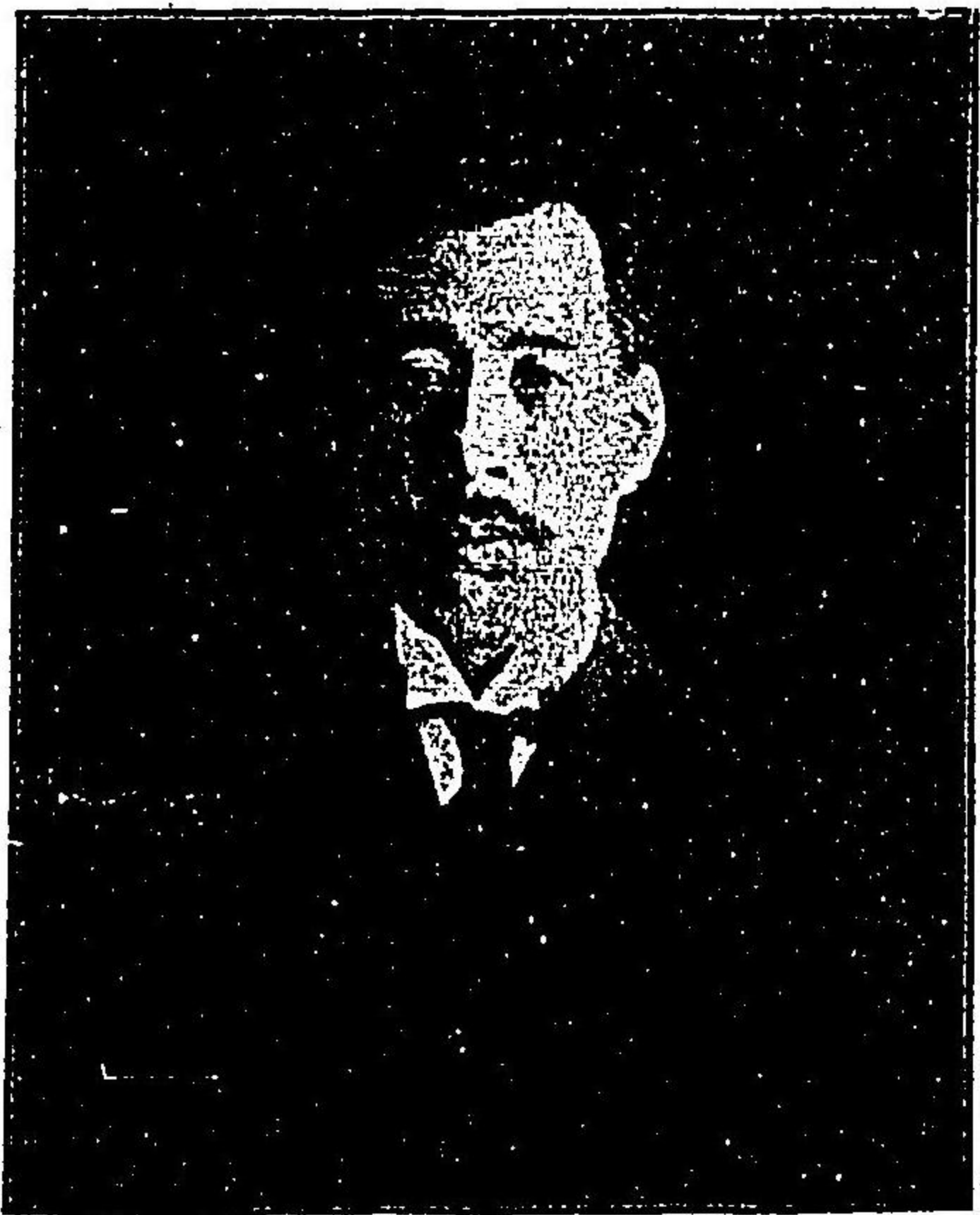
三百二

原籍地 横浜市元濱町一丁目
現住所 シヤトル市南第二街

雑貨、輸出入

古屋 政次 郎 要 帯

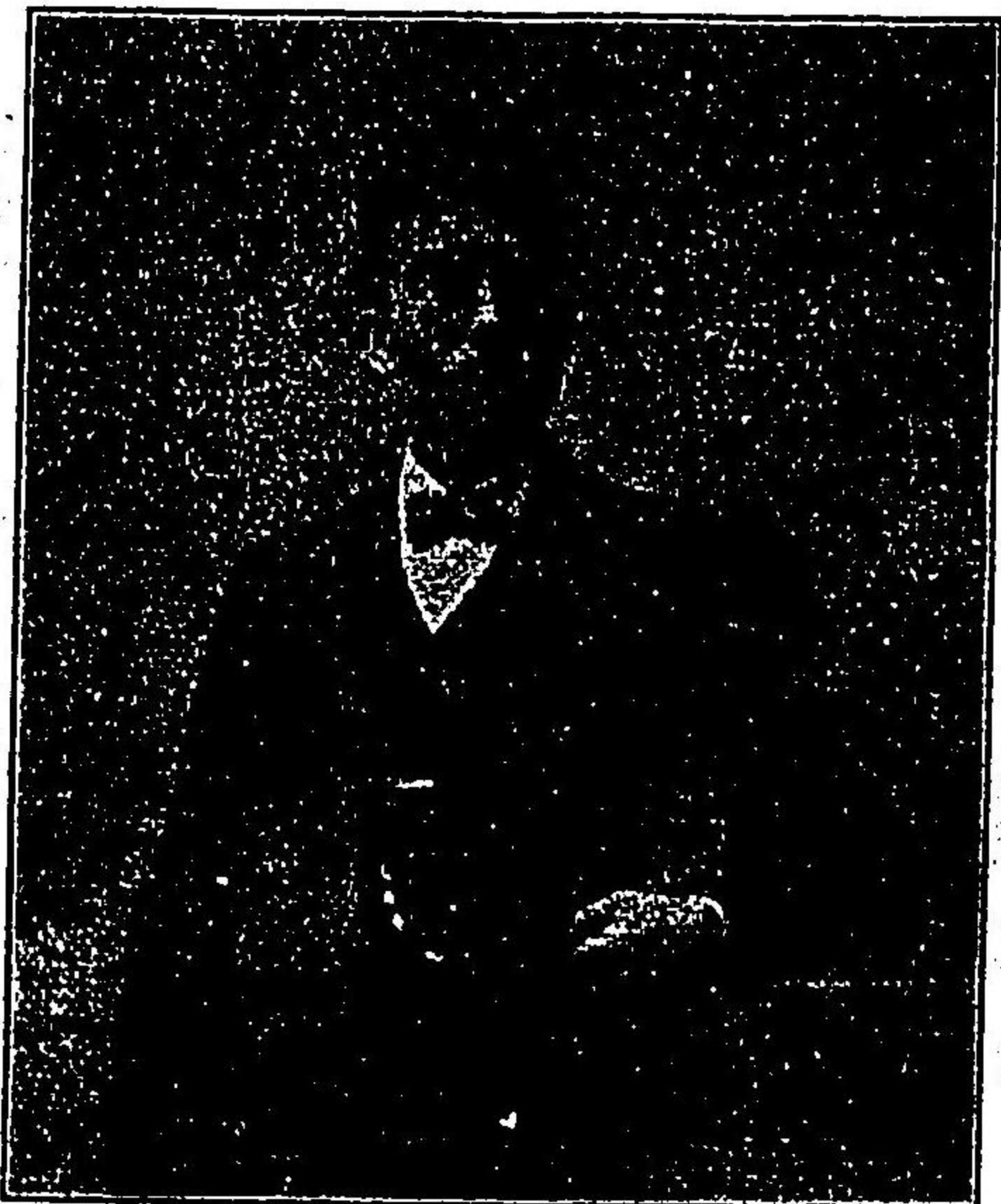
電話 インデン六三九



太平洋沿岸地方に於て同店の右に出づるもの幾千
ぞ、渡航して十八年、空拳にして數十萬の富を造り
しは決して凡なりと云ふ可からず、而も齡四十有
餘將に壯年の時代とも云ふべく、寧ろ幸運なりと
云ふよりも、商業上には抜目なく、而も信用を重ん
ずるの點に至りては、明に一摸範たるを失はず、
常に語りて曰はく、信用は使用すべき品物にあら
ずして、貯蓄すべきものなりと、所謂氏が成効の秘
訣は茲にあらん、故に内外の信用も厚く、同胞間
に於ける重鎮たり、公私の間に處して其關係する
所頗る多し、益々紳士の本領を發揮せられたし、

原籍地 横浜市松蔭町
現住所 ポートブラクレー

福田 常吉



十年前北米ワシントン州シヤトル市に上陸して以
來、一意専心貯財に従事したるは又稀に視る所の
一にして、ポートブラクレーの製材會社にあり
て、器械工場に勤務し、汲々として倦む所なく、
勤勉と正實を以て其職業に忠實なるは、氏の特性
なりと云ふも不可なし、而も氏の知友は悉く實直
を旨とする輩のみにして、勤勉の志に厚き點より
視るも、氏が性格の一端を推知するに難から
ず、而して氏は基督教を奉じて浸禮教會に屬し、
同所に設立せらるゝ同教會の爲めに盡力する所多
く、労働界に於ける師表として、恐く瑕瑾あらざ
るべし、

神奈川県 横浜市

三百三

神奈川縣 横濱市

三百四

原籍地 横濱市岡野町

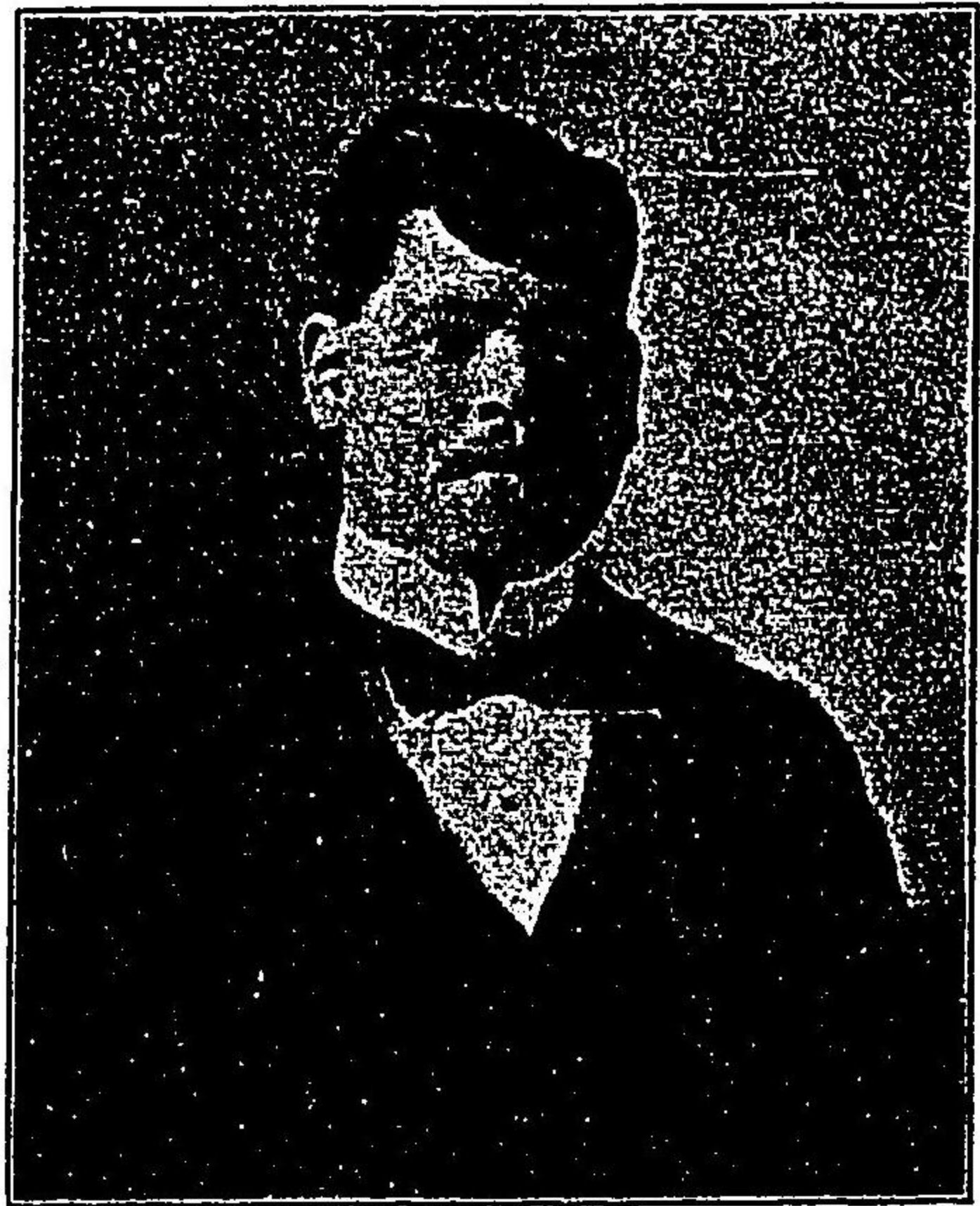
現住所 シャトル南第五街二百十七番

雜貨

芝田辰三郎 妻帯

電話インデ六一九

二十年以來異郷の天地に寄寓し、西北部地方に於ける同胞間の先輩者と目せられ、其當時より雜貨商となりて、同胞間に輸贏したる一人は即ち芝田氏ならん、別言すれば同胞の記録には特筆すべき關係を持続するも又同氏なり、芝田商店と云ひても知らぬものなきも『さがみ』やと云へば古參の人には知らぬものとなし、新參者の如く、花々しき勇奮とてはあらざるも、二十年來根底を植たる商店なれば、從て其基礎も強固にして、他店とは大に其趣きを異にす公共團體にありては神奈川縣人會の役員となり且つ華州日本人會の爲めにも又盡力する所少なしとせず、即ち西北部同胞の歴史上の一人として氏に負ふ所多し。



原籍地 横濱市岡野町

現住所 シャトル市南第五街二百十七番

雜貨

芝田卯之助 妻帯

電話インデ六一九

十七年前ワシントン州シャトル市に上陸し辰三郎氏と共に共力一致して、芝田商店の爲めに拮据勉勵したるの効は同居の爲めには大なる力となりしならん、實父國吉氏は二十二年前渡航し、ニュヨークを巡遊してシャトルに來り、同市に商店を開始したるは、抑も同商店の今日ある故以にして、實父の命を繋ぎて商界に驅馳したるは、即ち辰三郎氏と一心を同じくしたる結果なり、就中郵船會社の船舶に對して、雜貨供給の請負を爲したるも又同商店を以て嚆矢となせり、公共團體に關しては神奈川縣人會の爲めに盡力する所多く、奉公の一



事に至りては又人後に落ちず、敢て贅するは寧ろ阿諛、

神奈川縣 横濱市

三百五